

建築 と 社会

ARCHITECTURE
and SOCIETY

3

2012



特集：東海支部特集

日本建築協会

日本建築協会企画・販売
出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

日本建築協会創立70周年記念出版
住宅近代化への歩みと日本建築協会 1988年
A 4 判 企画・発行：日本建築協会 本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版
工高生デザインコンクール入選作品集 1992年
A 4 判 企画・発行：日本建築協会 本体価格2,000円

昭和生まれ 関西の建築家50 1987年
A 4 判 企画・発行：日本建築協会 本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念講演記録集
講演記録集 話のはなし 1997年
B 6 判 5 分冊 企画：日本建築協会建築クラブ 販売価格2,500円(税・送料込み)

民間（旧四会）連合協定
工事請負契約約款（平成21年6月改訂）
工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律第13条および省令第4条に基づく書面
販売単位：2部1単位とする
価 格：1単位700円（税込）送料は実費
日本建築協会事務局（06-6946-6981）で販売

近刊 平成21年3月10日発行
写真マンガでわかる 建築現場管理100ポイント
管理の良い現場、悪い現場が一目瞭然！
現場のブローケンウィンドウズを見逃すな
著者 玉水 新吾
四六判 224ページ
定価 1,900円＋税

最新刊 平成22年11月10日発行
プロが教える住宅の植栽
門廻り、アプローチ、壁、インテリア、屋上、住空間で緑（樹木・草花）を効果的に使いこなすための知識と考え方
著者 藤山 宏
B 5 判 176ページ
定価 2,800円＋税

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。
50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇・四六判2色刷イラスト入
〈プロのノウハウ〉シリーズ
企画：日本建築協会 発行：学芸出版社 本体価格¥1,600～¥2,800

衛生設備のトラブル50 建築の現場管理システム
建築設備トラブル研究会 伊東貞夫

鉄筋工事・本音の現場学 新版コンクリート工事のチェックポイント100
荒川治徳 加賀秀治

建築と音のトラブル 建築基準法の性能規定を読みこなすコッ
中川清ほか 高木任之

建築工事の祭式 第二版 環境と共生する建築25のキーワード
「建築工事の祭式」編集委員会 大西正宜

飛躍する構造デザイン 木造住宅のしくみ
渡辺邦夫 在来工法の基本と応用 浅野平八・東 敏博

改訂版 建築物の消防法を読みこなすコッ インテリアコーディネートの100ポイント
高木任之 町田ひろ子監修／松本 茂・村元俊子著

プロが教えるキッチン設計のコツ 木づくりの常識非常識
井上まるみ 上村 武

現場で学ぶ 住まいの雨仕舞い 建築トラブルにみる常識非常識
玉水新吾 荒川治徳

住宅エクステリアの100ポイント 第三版 都市計画法を読みこなすコッ
藤山 宏 高木任之

第三版 建築基準法を読みこなすコッ 建築主が納得する住まいづくり
高木任之 玉水新吾

写真マンガでわかる 建築現場管理100ポイント プロが教える住宅の植栽
玉水新吾 藤山 宏

日本建築協会創立70周年記念事業・B5判
選書特装版
企画：日本建築協会 発行：学芸出版社 本体価格¥3,000～¥4,000

水にまつわるトラブルの事例・解決策 建築デザインのための構造計画
〈建築篇〉 「建築漏水」編集委員会 須賀好富

水にまつわるトラブルの事例・解決策 入門・建築積算
〈設備篇〉 「設備漏水」編集委員会 生島道春

建物の汚れ－トラブル事例と解決策 建物の結露－トラブル事例と解決策
「建物の汚れ」編集委員会 「建物の結露」編集委員会

平成23年度 第2回通常総会開催

平成23年度第2回通常総会を右記のとおり開催いたしますので、ご出席頂きますようお願いいたします。
お問い合わせ先：
(社)日本建築協会 総務課
06-6946-6981

と き 平成24年 3月28日(水)
午後5時30分から
ところ 大阪マーチャングライズ・
マートビル
地下1階ギャラリー
大阪市中央区大手前1-7-31

議 案 ・第1号議案
平成24年度事業計画(案)の件
・第2号議案
平成24年度収支予算(案)の件
・その他

開催通知を個人正会員、団体正会員あて別途送付いたしております。
最近、委任状の提出率が低下傾向にありますので、ご欠席の場合は『返信用ハガキ』にて必ず委任状の送付をお願いします。

第11回 読者と選ぶ 「建築と社会」賞のための アンケート回答募集

2011年1～12月号
「建築と社会」誌から

「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。選考にあたっては、会員の声を反映し、広く開かれた賞とする。

■選考対象

「建築と社会」2011年1～12月号に掲載された作品、及び個別の論文・記事を対象とする。

・「作品作風賞」欄、及び「本会支部作品賞及びそれに準ずる作品賞」掲載の建築作品

・「特集賞」掲載の個々の論文・記事
—特集賞全体は選考対象としない—

・「シリーズ賞」の論文・記事(研究の風景、gallery、法令コーナー、構造の頁、設備の頁、再読関西近代建築、関西の建築界／群像、新建材の頁、素材最前線、REPORT頁、3.11関西からのメッセージ、Member's Forumほか)

■賞の部門

作品部門／1～4点

論文・記事の部門／1～4点

■会員読者による第一次選考

会員読者から投票された「作品」及び「論文・記事」に、編集委員会の意見を加味して各部門10点程度選出。これを第二次選考対象とする。

■選考委員会による第二次選考

第一次選考を通過した選考対象を、選考委員会を選出。(該当者に写真、図面、設計主旨などの説明資料を求めることがある)

■第11回選考委員

井上雅人(武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科・講師)
江川直樹(関西大学環境都市工学部建築学科・教授)
谷口与史也(大阪市立大学大学院工学研究科・教授)
田中直人(摂南大学工学部教授／本誌編集委員)

■発表と表彰

作品部門は建築主、設計者、施工者の中の代表者に、論文・記事部門は執筆者(複数の場合は代表者)に、賞状(記念楯)を贈呈する。入賞発表は「建築と社会」2011年7 or 8月号予定。

■投票締め切り

2012年3月9日(金)

■送付先

(社)日本建築協会
FAX 06-6946-6984
e-mail: kyoukai@aaj.or.jp
〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル7階

*2011年の誌面詳細は、2011年12月号p45に掲載している総目録または日本建築協会HPをご覧ください。

なお、日本建築協会ホームページ<http://www.aaj.or.jp>からも、ご投票いただけます。

「建築と社会」賞 読者アンケート

送付先
(社)日本建築協会
FAX06-6946-6984
e-mail: kyoukai@
aaj.or.jp

「建築と社会」2011年1～12月号で、よいと思われた作品・論文・記事(特集の場合は個々の論文・記事を対象とする)、その他本誌に対するご意見を記入の上、e-mailまたはFAXで、(社)日本建築協会へご投票下さい。

(2011年〇〇月号掲載の作品、論文・記事名及び同執筆者名を明記してください)

(1) お名前

(2) 勤務先または連絡先

(3) とくによいと思われた作品とその理由

(4) とくによいと思われた記事とその理由

(5) 本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたら、ご記入下さい。

心の豊かさの時代へ

(社)日本建築協会東海支部長
福田泰造建築事務所主宰



福田泰造

早いもので東日本大震災から1年、紀伊半島を襲った台風から半年になります。世界に目を向ければタイの洪水やスペイン・中国の集中豪雨など形を変えた天災は容赦なく襲ってきました。自然の脅威になすべくもなく破壊された街を見て戦慄する人々の後ろ姿を見ると、街並み散策を楽しみにしてきた者にとって何ともやるせない気持ちになります。もしかすると、科学技術に慢心し軽佻浮薄に走り過ぎた人間社会への警告かもしれません。こうした天災に追い打ちをかける人災として、ギリシャに端を発したユーロ圏の経済危機や軍に頼ったシナリオのない北朝鮮問題、独裁者の排除に始まった中東の民主化への移行は、わき目も振らず進んできた「成長の時代」が終焉にむかう証かもしれません。宇宙から見た国境のない美しい地球を、腰を据えて観察する絶好の機会かもしれません。今こそ宇宙単位で森羅万象のシェアリングを考える千載一遇の機会だと思えます。ボランティア精神による差別のないシェアリングこそ「成長の時代」から「心の豊かさの時代」へタスキを渡す社会の未来像だと思います。

私は16年間常滑市内児童生徒国際交流推進協議会（略してTSIE）の代表を務めています。その間、交流相手もアメリカ・オーストラリア・マレーシア・インド・タイ・メキシコ・コスタリカの7カ国にわたります。TSIEは小学生の国際交流の世界組織、ISSE（International School to Schoolの略）に日本で唯一加盟してアジアの窓口となっています。ISSEは2年ごとに国際会議を開催し、意見を交換します。これまで会議はインド・ラクナウの小学校、メキシコ・サンミゲルレグラのペンション、コスタリカ・サンホセの小学校など、普通では決して訪れることのない街で行われました。そして一昨年、彼らにとってやはり機会がなければ訪れることのない常滑市で開催しました。また、昨秋には新しい交流相手となる中国柳州市の穹塘路小学の視察も行いました。こうした見知らぬ街を訪れた時、共通しているのはその街が持っている空気と調和した文化遺産の素晴らしさ、言い換えればその地域の環境を美化する人々の精神だと思います。インド・ラクナウの大イマームバラ複合体内部のヨーロッパ風なものとハイブリッドされた装飾美を見、メキシコシティでF・キャンデラ、L・バラ



インド・ラクナウ・大イマームバラ複合体



インド・オールドデリー・下町の陋巷



メキシコシティ・バカルディ事務所棟・ミース



コスタリカ・サンホセ・国立劇場

ガン、R・レゴレッタではなくミースなのか問いただしたいバカルディ工場のオフィス棟に驚嘆し、コスタリカのサンホセ散策でガルニエによるパリのオペラ座を手本にした国立劇場のファサードの美しさに癒され、そして、眩い朝日がティオティワカン・太陽のピラミッドの閃影を照らすのを見た時、我々は蠱惑的な美しさに魅了され、風土の中で人々が長年培ってきた精神を目の当たりにします。また、それとは対照的にニューデリーやメキシコシティ、サンホセの下町の陋巷の混沌の中にさえ美化しようとする人々の精神を感じます。これこそ街並み散策の醍醐味だと思います。我々は、今こそ国境という垣根を取り払い、地球を一つにまとめる大プロジェクトに取り掛かるべきではないでしょうか。そのため、シェアリングをコンセプトに掲げ肌の色や宗教、思想、政治経済を超越した地球人の育成を真摯に考える時期がきたのではと思います。心の豊かさの時代はもうそこまできています。



中国・柳州市・全景

建築と社会

ARCHITECTURE
and SOCIETY

3 | NO.1080 | 2012
日本建築協会

■特集予告
●4月号／第18回会員作品「私の空間作法」

印刷 2012年2月23日
発行 2012年3月1日
発行人 社団法人日本建築協会
発行所 社団法人日本建築協会
大阪府中央区大手前1-7-31
電話 06-6946-6981
印刷所 株式会社弘文堂印刷所
定価 1200円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます。

J o u r n a l o f t h e A r c h i t e c t u r a l A s s o c i a t i o n o f J a p a n

特集●東海支部特集

■東海支部会員作品2012	
紀北町立相賀小学校	10
香久山保育園及び香久山幼稚園遊戯室棟	12
高坂保育園	13
浜松信用金庫湖東支店	14
パワー・アンド・ITデータセンター	15
オーク千種	16
伏見KSビル	18
えんてつビル	20
天然温泉竜泉寺の湯 仙台泉店	22
■Tokai Sketch Book	24
■愛知の建築文化にみる遺伝子	
賢人の夢みた空間—鈴木貞次が目指したもの—●河田克博	26
モノづくり愛知の源流と産業遺産●天野武弘	30
博物館明治村●飯田喜四郎	34
■遺伝子の活用事例を探る	
「足助」に建築文化の遺伝子を探る	
●松本壮一郎・青木良太・阿部晃尚・岡島昌利・渡辺泰平	38
「円頓寺」「四間道」「白壁」に建築文化の遺伝子を探る	
●松本壮一郎・永井里奈・小川枝里子・近藤美希・服部亮子・松浦宏美	40
■東海の建築：環境／エコ	
みなと医療生活協同組合高畑生協診療所●竹中工務店	42
北名古屋立師勝中学校●東畑建築事務所	43
トヨタ紡織 猿投開発センター 2 号館●日建設計	44
JAあいち中央知立支店●安井建築設計事務所	45
会告	平成22年度第2回通常総会開催。第11回読者と選ぶ「建築と社会」賞のためのアンケート回答募集 1
種々雑感	心の豊かさの時代へ●福田泰造 2
作品作風	那覇新都心センタービル 4
3.11関西からのメッセージ	東北復興まちづくりの焦点～阪神・淡路の復興まちづくりの経験から●小林郁雄 6
gallery	白いクリニック●古田 充 8
法令コーナー	神戸市都市デザイン賞の表彰制度●磨家孝明 46
構造の頁	正導会教団神野修行所の構造設計●熊野豪人 47
関西の建築界群像	玉置 順●久下武彦 48
再読	大阪市立工芸高校●和田康由 49
Member's Forum	▶安価で便利な計測器を使おうー1ー 100円ショップのデジタル温度計●橋本直樹 53 ▶続「仏国寺の石造階段」●山田 修 54
新製品レビュー	資源を未来へ オフィスの床からエコに貢献 次代のリサイクルタイルカーペット「ECOS」シリーズ 55
information	「建築士定期講習」の受講・修了の啓発。マンション管理評価読本～価値を上げる管理の常識。特別展「草原の王朝契丹」。誕生100年ジャクソン・ボロック展。特集展示 刀装 根付 細密工芸の華。すべての僕が沸騰するー一村山知義の宇宙ー。特別展覧会 王朝文化の華 陽明文庫名宝展。特別展「新説・恐竜の成長」。安野光雅が描く 洛中洛外展。茶室への招待ー三井家の茶道具 56
活動記録	日本建築協会10年委員会(2007～2011年までのあゆみ) 58 ●赤木 隆・川上比奈子・門野 陽・熊野将男・設楽貞樹・清水健司・菅原幸也・林 新一・中村文紀・前川治彦
月間の動き	平成24年1月 60

今月の表紙

作品：國府理 撮影：豊永政史 協力：アートコートギャラリー



Natural Powered Garden Project

2006年／鉄、セイル、植物、ポンプ、水、他／1,400×1,300×550 cm

閉鎖された下水処理施設の屋上に設置した風車が回り、地下室から吸い上げる水を送り続けて植物を潤す、誰もいない庭園を思い描いて作った。しかし、ある深夜の風車の故障を機に私は毎朝風車の帆を広げ夕方には畳まなければならなくなった。いつからか、手元から風車が回り出すのを見届ける日々の繰り返し私の喜びになった。(國府)



前面道路側からの外観：分節化されたファサード構成



オフィスエントランスホール

琉球建築の伝統様式である「ひんぶん」を琉球石灰岩で象徴的にデフォルメ

建築主 ■
大和ハウス工業株式会社
オリックス不動産株式会社
DO新都心開発特定目的会社

設計・監理 ■
大林組九州支店 一級建築士事務所

基本設計、外構設計・監理 ■
日建設計・国建共同企業体

施工 ■
大林組・國場組建設工事共同企業体

那覇新都心センタービル

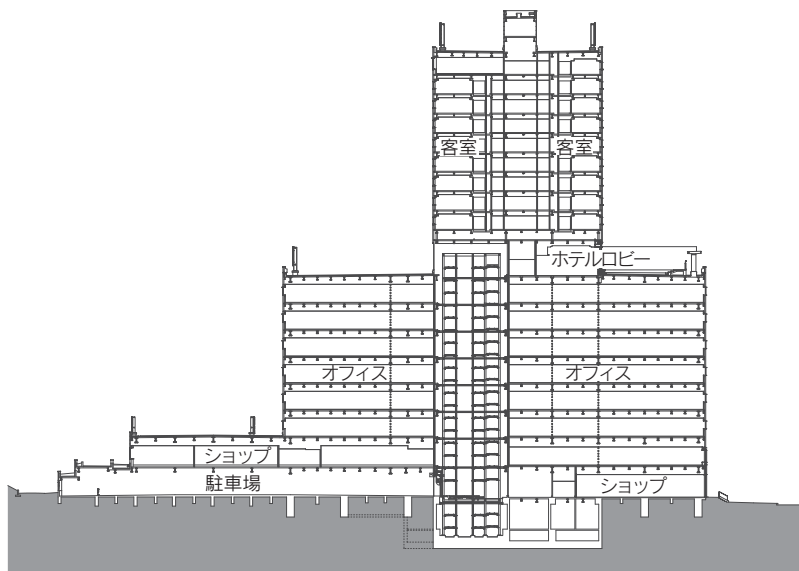
計画敷地は、戦後米軍の住宅地区であったが全面返還され、活気ある新しい街としてスタートを始めた那覇新都心地区の一角。低層階にはスレンダーな横連窓を有する市内最大級のオフィスと多目的広場に面したショップ、高層階は南国リゾートをイメージしたインテリアで、遙か東シナ海のパノラマが楽しめる宿泊特化型のホテル、そして約300台の駐車場で構成された複合用途建物。

外装は沖縄の澄み切った青い空に映える純白タイルを採用、積層される各用途部分が外観からも窺えるようスリットにて分節されたシンプルで明快なファサードとした。

エントランスには琉球石灰岩や花ブロックなどの県産品を採用、シーサーを配することで沖縄らしさを演出。また、壁面後退によって生み出された豊かな歩行空間と透明感のあるガラスカーテンウォールの効果によって、周辺の街との繋がりを演出を目指した。

(片木龍太/大林組)

所 在 地——沖縄県那覇市おもろまち1-1-2
敷地面積——7,880.42㎡
建築面積——4,611.95㎡
延床面積——37,282.08㎡
構造規模——S造（CFT）、地上18階、地下1階
工 期——2009年11月～2011年8月
最 寄 駅——沖縄都市モノレール おもろまち駅
撮 影——寺崎 健（SS九州）



断面図



オフィスエントランス回りの豊かな歩行者空間



沖縄らしさを演出したホテルエントランス



南国リゾートをイメージした9階ホテルロビー

3.11

関西からのメッセージ

東北復興まちづくりの焦点

～阪神・淡路の復興まちづくりの経験から～

神戸山手大学教授・阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク世話人

小林郁雄

1967年、神戸大学工学部建築学科卒業。
1969年、大阪市立大学工学研究科修士修了。同年(株)都市・計画・設計研究所 取締役。
1986年、(株)コー・プラン設立、代表取締役。
現在、神戸山手大学教授。専門分野は都市計画・設計、まちづくりコンサルタント・プランナー・プログラマー・マネージャー

■東日本大震災からの復興まちづくり■

震災後11か月の現在、岩手、宮城、福島3県の復興計画が8月中に、各被災市町村計画も2011年内や年度内をめどに、ようやく形を見せはじめたところである。被災市町村は避難所対応、ガレキ処理から被災復旧、仮設住宅建設・運営など緊急応急対応に忙殺されながらも、今後の復興に向けた取り組みを開始している。が、高台移転や多重津波防御をはじめ、どのような具体的対応策が、それぞれの被災地住民などの合意を得て進められているのか、いまだ明確になっていない。

しかし、被災地における復興まちづくりは、わずかながらも着実に、各地で市民・行政・専門家などの協働が始まりつつある。その中から番屋プロジェクト、遠野まごころネット、地域復興支援員の3つについて紹介する。それらは東北復興まちづくり展開のカギである、地域産業・生業の拠点形成（とりわけ漁業・水産業の再興）、地域ネットワークの再評価（昔からの臨海部と内陸部の連携）、復興まちづくりへの草の根支援（地域主体復興のために）といった方向の象徴として東北復興まちづくりの焦点となるものと考えからである。

■ 番屋プロジェクト・

■ 地域産業・生業の拠点形成 ■

岩手・宮城・福島3県の臨海部小都市・集落（仙台市、いわき市、石巻市を除けばすべて人口10万人未満である）の復興における最大至急の課題は、地域産業・生業拠点形成である。とりわけ、地域商店街の再生とともに漁業・水産業の再興である。

震災復興とは、元の生活＝「暮らし」を再生するプロセスである。素晴らしい将来像が描かれていればそれに越したことはないが、重要なのは現在の被災した状況からどのように元の暮らしを取り戻していくかという道筋である。一步一步再生への、いわばその日暮らしの積み重ねであって、望ましい復興計画をつくれれば上手くいくという幻想を持たないことだ。

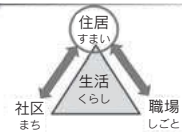
「暮らし」の再生は、「住居＝すまい、職場＝しごと、社区＝まち」が同時に相補って再び元の状況を取り戻して、はじめて成り立つ。阪神・淡路では「すまい」が最も主要な復興

被災地の復興



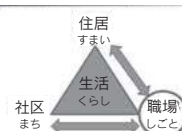
被災地の復興

大都市の場合・すまいの確保が最も重要



被災地の復興

集落の場合・しごとの確保が最も重要



課題であった。周辺隣接して大阪、姫路などの都市圏があり、サラリーマンなどの「しごと」を支える環境があったからである。

東北3県臨海部における復興の最重要課題は「しごと」である。大都市企業中心社会と

は違い、臨海市町村の大部分は集落生業主体社会であるからだ。とりわけ沿岸の漁業・水産業によって多くの「まち」は支えられている。

「すまい」のための仮設住宅同様、「しごと」のための仮設漁業施設・倉庫、仮設商店街・店舗の先行整備が何はともあれ、まず重要である。海岸での仮設作業場（番屋プロジェクトなど）の対応等が、「まち」を復興するまちづくりにつながり、それらによって取り戻される「暮らし」の必須条件となる。

南三陸町志津川での漁師さんの作業拠点である番屋プロジェクトが好例である。津波ですべてが流された海岸に、宮城大学や東京理科大学などの建築系研究室の支援によって、いち早く建設された仮設小屋が番屋である。漁業再興に向けた現場作業拠点であると共に、多くの外部支援拠点でもある。



南三陸町志津川・番屋プロジェクト（宮城大学・竹内泰さん提供）



上2点の写真は2011年5月28日の状況

■ 遠野まごころネット・

■ 地域ネットワークの再評価 ■

三陸臨海部はそれぞれの湾で独立した町をつくっている。それらを高地で南北につながる命の道・三陸自動車道や、首都圏と地域中心（郡山、仙台、盛岡など）を高速でつなぐ国土軸・

新幹線と高速道の早急な回復整備も重要であるが、もっと大切なのは古来つながりの深い臨海部と内陸部の連携、地域ネットワークである。東京に直結する国土軸よりも重視すべき、海と山をつなぐ地域環境連携の再評価を基本とする地域自律圏域の確立である。

それは、戦後一貫して整備が進められてきた国土基幹ネットワークが、地域の均衡ある発展をめざしていたにもかかわらず、結局首都圏一極集中、中央依存の地方という、地域主権を危うくしてきた国土計画の誤算への反省でもある。

この大災害からの東北被災地復興は、圏域自律の確立の第一歩というか、最後のチャンスと、捉えなければならない。国土軸より地域軸の優先である。緊急時に頼りになるのは何も生活圏コミュニティだけではない。古代よりつい最近まで我々の生活・産業を支えてきていたのは地域軸（東北では東西の臨海～内陸をつなぐ地域ネットワーク）であり、被災沿岸部が頼りにすべきは、国家中央ではなく地域連携である、あるいはあるべきだ。そうした観点から、岩手県の幹線道路ネットワーク計画は誠に正しいパターンをめざしているが、問題はその優先順位である。

岩手県臨海部の津波被害が甚大であった大槌町・釜石市・大船渡市などに対し、いち早く系統的な緊急支援を開始したのは内陸支援拠点・遠野市であった。社会福祉協議会（公的なボランティアセンター）とNPO（独自

の情報と支援ネットワーク）が相互に得意分野を出し合って支援を続ける「遠野まごころネット」の活動が今後の復興連携の新しい姿を示している。そうした地域ネットワークは、住田町の木造仮設による臨海被災都市支援、北上市による大船渡市全仮設住宅見守りケア（支援員配置事業、大槌町全仮設住宅にも拡大）など、緊急応急期から長期的継続的支援体制に展開していつている。

明治三陸、昭和三陸津波被害においても、当然のことながら、被災地に寄り添い最も力強い支援が展開されてきたのは、地域ネットワークでつながる内陸部からであった。新設される復興庁など国家予算に基づく復興の枠組みはもちろん不可欠であるが、頼るべきは臨海～内陸の連携であり、ひいては、これからの地域自律圏中心の国土再編成への取り組みである。

地域復興支援員・・

復興まちづくりへの草の根支援

地域主体の復興があらゆる場面で前提として指摘されている。例えば、復興構想会議の「復興への提言～悲惨のなかの希望」（2011年6月11日）の復興構想七原則にも「地域・コミュニティ主体の復興を基本とする」とある。

17年前の阪神・淡路大震災からの復興まちづくりにおいて、最も重要かつ今後の教訓として伝えていくべきものは「まちづくり協議会」の仕組みであった。住民参加からもう一步踏み出した市民主体のまちづくり（市民まちづくり）が、阪神大震災市街地復興の特筆すべき点

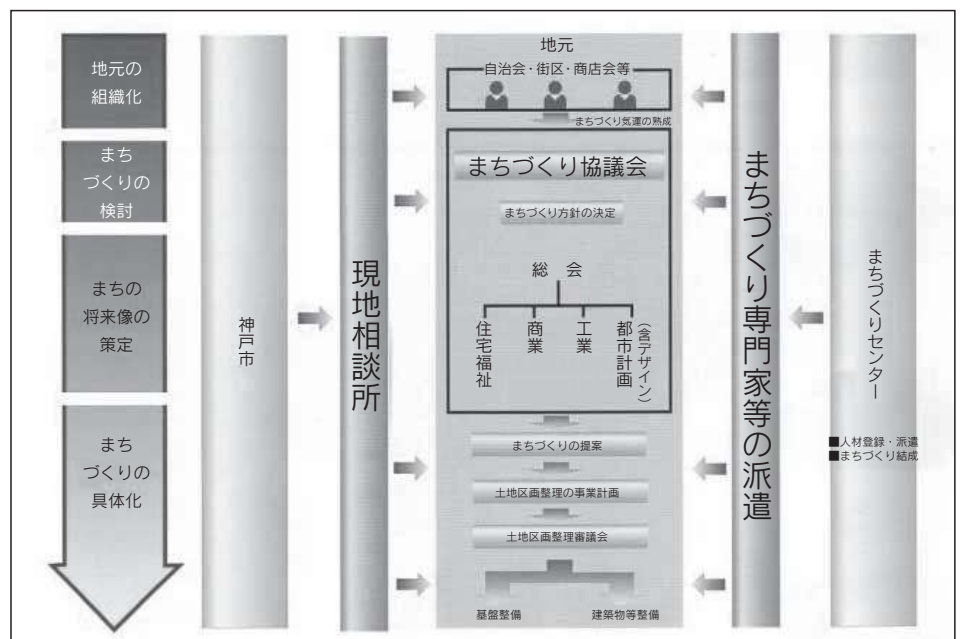
で、その主役がまちづくり協議会であった。

東北被災地復興でも、地域主体の合意形成・意志決定で復興（復興市民まちづくり）が進められるべきであり、17年前とは時代状況が異なり全く自明のこととされているのは、神戸の経験がなんとか継承されているのかと思う。しかし「地域主体の復興を基本に」が当たり前のこととして言われているわりには、その内容の無さに愕然とする。地域主体とは何を指し、どのように主体性を確保し、地域復興での決定を進める仕組みをいかに用意しているのか？その具体的な方策、支援が不十分である。

地域主体の最も基本となるのは、区市町村などの地方自治体ではなく、地域住民を中心とした地域関係者、すなわち就業者、商工業法人、土地建物所有権利者など、地域に直接関わるすべての地域市民であり、その意向と同意である。

市民合意の形成に基本法（市民まちづくり法など）を我が国はいまだ持っていないし、緊急時の地域復興計画合意に平常時の都市計画決定のような仕組みを使うことになる。そのような仕組みさえない農漁村、農地漁港での地域復興・経済復興に地域主体の合意形成は至難の業となる。どうしたら何の用意もない地域市民が合意に向けた協議を進めていくことができるのか？「地域復興支援員」の派遣で補うことを早急に進めるべきである。

（こばやし いくお）



阪神・淡路大震災の神戸まちづくり協議会システム（神戸市提供）



白いクリニック

設計

古田 充

ドクターはJR土山駅近くのテナントで診療を行ってきたが、狭い待合室では混み合うことも多く、その混雑状態を見た患者さんが帰ってしまうこともあったため、近隣の広い敷地へ新築移転を計画された。

ドクターからの要望は、特に待合室の広さ、快適性を望まれた。また美容皮膚科に力を入れていることもあり、女性が好む清潔感、ホテルのような落ち着きと高級感も求められた。

敷地は前面道路からの奥行きが深いこともあり、駐車場を前面に、建物を奥に配置する計画とした。

建物は、漆喰塗りの白い壁、アルミの底、ガルバリウム鋼板のダークグレーの壁、コンクリートの底で構成され、水平感を出すことで、落ち着いた開放的な建物となることを意図した。

待合室は、天井高3.6mとし、大きく空が望めるフルハイトの大きなガラス窓を設け、明るく開放感溢れる空間をめざした。インテリアは白とダークブラウンの木目調を基調とし、落ち着きのある色使いとした。また間接照明を使用することで、柔らかい光による空間の広がり、奥行きを感じる演出としている。



古田 充（ふるた みつる）
 1949 兵庫県生まれ
 1973 神戸大学工学部建築学科卒業
 1973 (株)小野建築設計事務所入社
 1986 古田建築設計事務所設立
 2007 (株)古田建築設計事務所に改組

企画編集 澤田純一（作品作風小委員会）

写真／松村芳治

東海支部会員作品2012

紀北町立相賀小学校

香久山保育園及び香久山幼稚園遊戯室棟

高坂保育園

浜松信用金庫湖東支店

パワー・アンド・ITデータセンター

オーク千種

伏見KSビル

えんてつビル

天然温泉竜泉寺の湯 仙台泉店

「建築と社会」東海特集特別編集委員会

委員長：福田泰造

特集記事担当委員：松本壮一郎、河田克博、今津芳清

作品作風担当委員：土井敬三、池村忠久

委員（順不同）：松元親司、篠原佳則、後藤利秋、中村哲士、山本敦子、芳山明久

本梅 誠、富田昌志、井上哲也、加藤武範、今井祥子、西澤太良

北川貴啓、釣 祐二、杉澤和男、寺本英一、林 金之

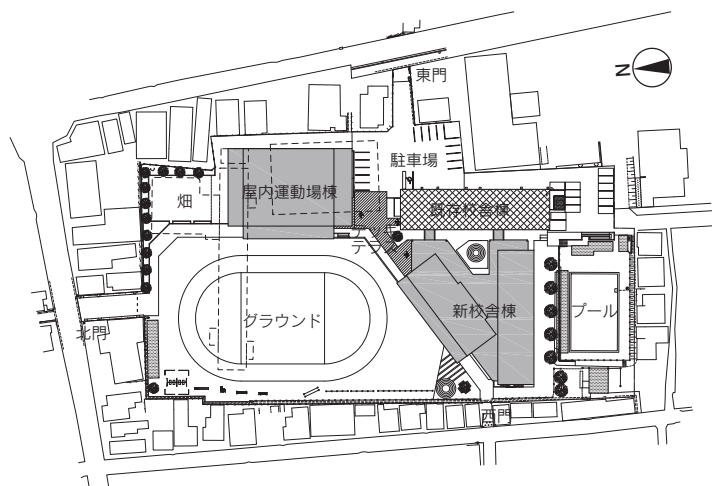


グラウンド側外観 リズミカルな列柱と深い軒に抱かれた「まちの路地・縁側」が人・まち・活動をつないでいく

紀北町立相賀小学校

建 築 主 紀北町
 設計監理 東畑建築事務所
 施 工 北村・石吉特定建設工事共同企業体
 北村組・石吉組

施工協力
 アルミ製建具工事 三協立山アルミ
 木工事・家具工事 末永製作所
 昇 降 機 工 事 東芝エレベータ



配置図 縮尺 1/2500



まちの路地・縁側 軒天は地場産桧羽目板張

三重県中南部に位置する児童数250名程の小規模校の改築である。仮設校舎なしでの建て替えにあたり、3カ所の門からの学校—まちのつながりと、一部残す既存校舎との関係性を考慮した配置計画とした。既存校舎に対し、新校舎をV字型に近接させて中庭を囲む配置とすることで、校舎に回遊性を持たせるとともに、新旧校舎がコンパクトかつ一体的につながるよう配慮している。

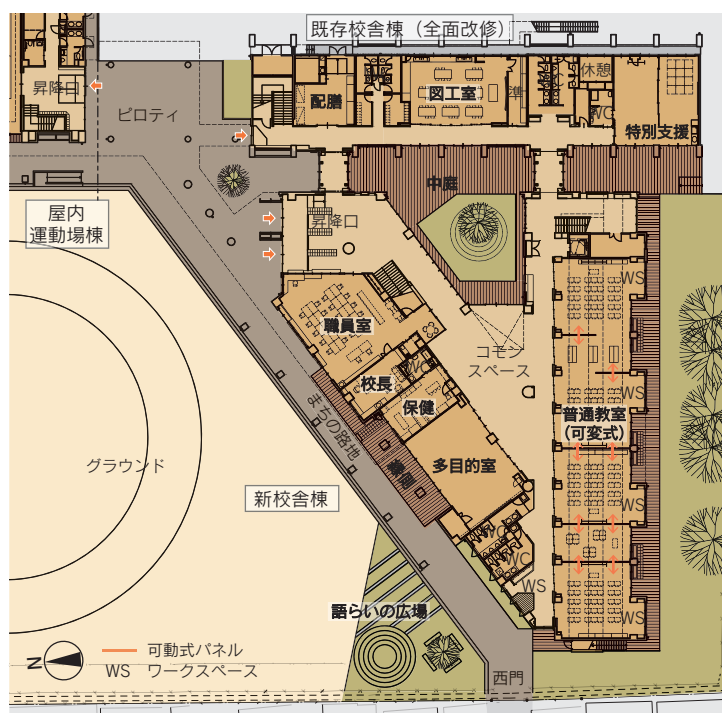
多雨地帯に配慮し、軒を出したデザインとしている。大きな庇は学校全体を包みこむとともに、その下に内包された分節されたボリュームがまちのスケール感に溶け込む構成となっている。

内部は、小規模校の特徴を活かし、普通教室—共用部—特別教室がゆるやかにつながり、学校全体をフルに活用できる空間構成としている。クラス数や学習形態の変更に柔軟に対応できるよう、普通教室間の壁を2分割の可動式パネルとし、教室自体の大きさ・形状を可変できるようにしているのが特徴的である。校舎中央のコモンスペースと中庭は児童の活動の場であり、図書コーナーのある憩いの場でもある。既存校舎は躯体のみを残し、諸室の配置を含めて内外装を全面改修し、新たな校舎として蘇った。

また、オープンに諸室がつながる建築上の工夫や深い軒のある半屋外空間、デッキテラスなどにより、屋内外を豊かにつなげるとともに、内装や軒天、縁側などには地場産桧材を活用し、木の温もりのある空間づくりを心がけている。

(高木耕一・柱健太郎/東畑建築事務所)

所在地——三重県北牟婁郡紀北町海山区相賀368-3
敷地面積——13,724.25㎡
建築面積——3,388.32㎡
延床面積——5,030.58㎡
構造規模——RC造、一部S造、地上2階
工期——2009年6月19日～2010年11月8日
最寄駅——JR紀勢本線相賀駅
撮影——エスエス名古屋



1階平面図 縮尺 1/800



メディアセンター 共用部や普通教室ともゆるやかにつながる



コモンスペース 多様な空間と活動が融合する場



中庭 新旧校舎に囲まれた癒しの空間



普通教室 教室間の壁は地場産桧構層材の上吊式可動パネル



保育園部分 外観

香久山保育園及び香久山幼稚園遊戯室棟

建 築 主 学校法人上田学園
設計監理 安井建築設計事務所
施 工 守谷商会

所 在 地——愛知県日進市香久山
敷地面積——3,150㎡
建築面積——増築452㎡ 既設 673㎡
延床面積——増築782㎡ 既設1,024㎡
構造規模——RC造、S造、地下1階、地上2階
工 期——2011年9月～2012年3月
撮 影——加納フォト



遊戯室



遊戯室立体遊具



2歳児保育室

名古屋市のベッドタウンとなっている住宅団地に、平成14年開設した幼稚園の増築を行った。今回0～2歳児を対象とした保育園と遊戯室棟、そして園庭を充実させて、全体で認定子ども園とした。近隣への日影や音などの配慮と幼稚園の機能充実を考慮しながら試行錯誤し、計画を行った。
職員動線・親の送迎動線を重視し、既存の職員室、給食室に隣接して0～2歳児の保育室を配置し、下階に小テラスのある子育て支援室を設けた。

遊戯室は既設の1階からも2階からも半階ずつの移動できるように計画し、昇降ステージ、立体遊具、絵本コーナーを設け、イベントのみならず、日常的な遊びに対応できるように配慮した。

園庭は緑化ウォールを施すことで、園庭面積を確保するとともに、周辺道路に対する緑化を行った。緑化ウォールに加え、防音壁、植栽、防球ネットを設けることで、近隣への配慮をしながらの園庭整備を実現した。

(篠原佳則、寺西敦敏/安井建築設計事務所)



園庭全景



外観南面

高坂保育園

名古屋市東部の丘陵地に計画した社会福祉法人による保育園である。

歩道橋によって接続された敷地にある学校法人上田学園による高坂幼稚園とともに認定子ども園として運用を意図している。

1階は子どもたちがのびのびと活動できるように、遊戯室→3～5歳児保育室→広縁（サンルーム）→デッキテラス→園庭と異なる性格の空間を連続して並べた。

2階は0～2歳児保育室を配置し、1階の遊戯室の様子が見えるよう吹き抜けにより一体感をもたせた。

3階には父兄室を設け、保育園だけでなく幼稚園父兄も利用できるように計画した。

一段高い位置にある幼稚園園庭は、幼稚園舎と保育園舎に囲まれ、子どものための空間となった。

（篠原佳則、寺西敦敏／安井建築設計事務所）

建 築 主 社会福祉法人高坂福祉会
設計監理 安井建築設計事務所
施 工 千種土建

所 在 地 名古屋市天白区
敷地面積 1,567㎡
建築面積 620㎡
延床面積 1,367㎡
構造規模 RC造、地上3階
工 期 2011年8月～2012年3月
最 寄 駅 名古屋市営地下鉄 相生山駅
撮 影 アーキフォトKATO



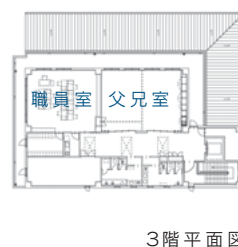
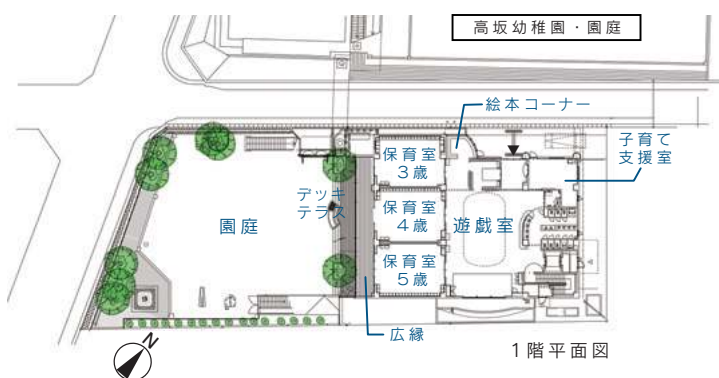
遊戯室2階より見る



絵本コーナー



広縁（サンルーム）





太陽光発電パネルを庇として用いた特徴のある外観



建物正面夕景



店舗内観

浜松信用金庫 湖 東 支 店

建 築 主 浜松信用金庫
 設計監理 日建設計
 施 工 浜建・飯田組JV

 所 在 地 静岡県浜松市西区湖東町
 敷地面積 1713.91㎡
 建築面積 477.97㎡
 延床面積 637.78㎡
 構造規模 S造、地上 2 階
 工 期 2010年 9 月～2011年 8 月
 最 寄 駅 浜松駅
 撮 影 フォワードストローク

浜松市の北西部郊外、舘山寺街道沿いに建つ環境配慮をテーマとした浜松信用金庫の支店。

 外観デザインの一番の特徴である太陽光発電パネルを用いた跳出し約 3 m の大きな庇は、店舗の照明消費電力相当の発電をするとともに、ロビーに入る夏の直射光を遮る役割を果たしている。太陽光発電パネルは、太陽高度に合わせて傾きを 3 次元的に変化させて配置している。ユニット間（1 ユニットをパネル 5 枚で構成）には、傾きにより生じた重なりを吸収するためスチールパネルを入れ、太陽光発電パネル同士に生じる影を軽減している。同時に庇としての機能を確保する雨を流す樋の役割も兼ねている。

 その他、建物内にはエコシャフト（自然換気塔）による中間期の自然換気の促進、クールヒートトレンチによる地熱の空調利用、店舗内照明のLED化などにより、省エネに配慮した設計としている。

 全国的にも有数の日照時間を誇る都市、浜松市の特徴を活かした環境建築が実現した。
 （村井達也、鳥海宏太／日建設計）



南東面外観 [写真提供：パワー・アンド・IT]



北東面外観

パワー・アンド・IT データセンター

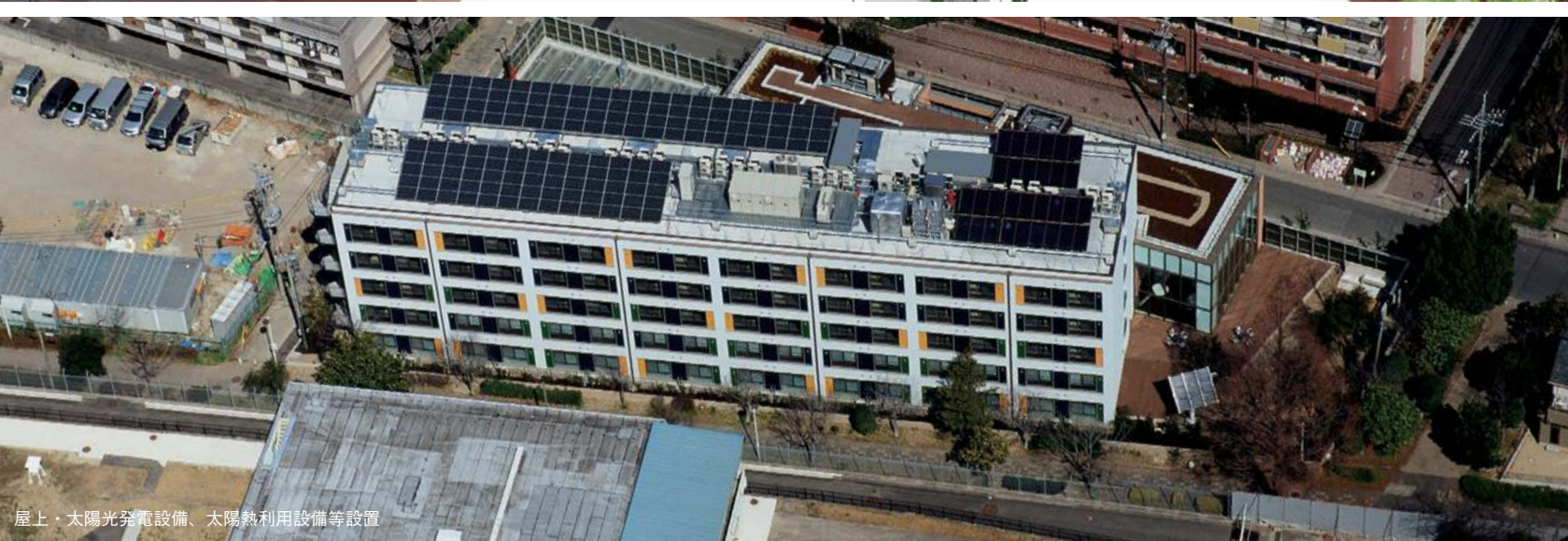
建 築 主 株式会社 パワー・アンド・IT
設計監理 日建設計
施 工 鹿島建設、北陸電気工事

所 在 地——富山県富山市
敷地面積——6,002.17㎡
建築面積——1,778.66㎡
延床面積——6,312.24㎡
構造規模——RC造、地上4階
工 期——2010年5月～2011年5月
最 寄 駅——JR富山駅
撮 影——エスエス北陸



車寄せ

富山空港、北陸自動車道富山ICから至近位置に次世代にふさわしいデータセンターとして計画された建物である。
ハザードマップの浸水高さ以上とした敷地レベルの設定、大地震時の機能維持のための基礎免震構造の採用、保護レベルⅠの耐雷対策などにより高い安全性を確保した。
データセンターの重要度TierⅢ相当仕様とし、高効率機器、外気冷房、アジャストエアフロー（コールドアイル・ホットアイルの分離）、太陽光発電、BEMS等を採用したグリーンクリーンデータセンターとした。
建物南側は、1階とガラスブロック窓として防犯対策を行い、2～4階には眺望・採光・防犯を兼ねた縦ルーバーを配した端正な外観とした。建物北側は、スリット状にパネルを設置することで、設備バルコニーの配管やダクト類の目隠しと保護を行なった。
また、屋上に設置した設備機器の目隠しと敷地北東にある病院・老人保健施設への騒音対策として遮音壁を設置した。
(葛原定次、今井幸彦/日建設計)



寮室



伏見KSビル

建築主 近藤紡績所
設計監理 東畑建築事務所
工事 大林組

本物件は昭和36年竣工の老朽化したオフィスビルの建て替え計画である。敷地は名古屋の中心地である栄二丁目に位置する。2011年3月にリニューアルオープンした名古屋市科学館を正面に見据える長島町通りに面していて、人の流れが変わりつつあるエリアでもある。

都心部の中規模賃貸オフィスながら、環境配慮も積極的に行い、「都心のオアシス」をコンセプトとした。

特に屋上緑化したルーフガーデンは、オフィスワーカーに開放し、リフレッシュスペースとして「風を感じる、空を見上げる、緑に包まれる空間」として計画した。

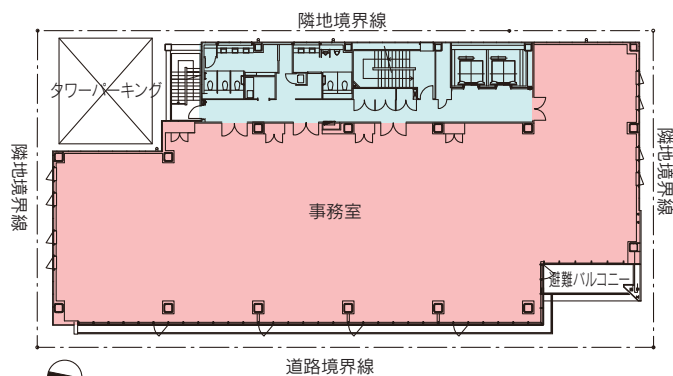
その他、環境負荷低減対策として、Low-Eガラス、足元の自然換気装置による通風可能なカーテンウォールの採用、共用部のLED照明化、時間制御・人感センサー・照度センサーによる照明の省電力化、壁面緑化など、環境にやさしいオフィスとして設計している。

外観デザインは、敷地北東側部分を容積率および消防の避難バルコニーの関係からセットバックさせ、屋上に設けたルーフガーデンの底部分とL型のフレームとしてつながる特徴ある外観とした。

エントランスはセットバック部分に配置し、ポケットパーク的なゆとりを持たせるとともに、シンボルツリーや壁面緑化を設けて潤いのある空間としている。

また、前面道路に面する東面をPC版の庇とカーテンウォールにより、水平ラインを強調した透明感のあるデザインとして計画した。

(小柳英治／東畑建築事務所)



基準階平面図 S=1/600

所在地——名古屋市中区栄二丁目8番12
名称——伏見KSビル
面積——987.49㎡
建築面積——815.05㎡
延床面積——6,511.23㎡
構造規模——S造、地上8階、塔屋1階
工期——2010年8月～2011年9月
最寄駅——地下鉄 伏見駅
撮影——株式会社 セゾン



えんてつビル

設計・監理 竹中工務店
施 工 竹中工務店
(他 7 社JV、一部他社施工)

浜松市に本社を置く遠州鉄道グループと浜松市による、浜松駅前ターミナルエリアの空洞化対策としての中心市街地活性化事業である。

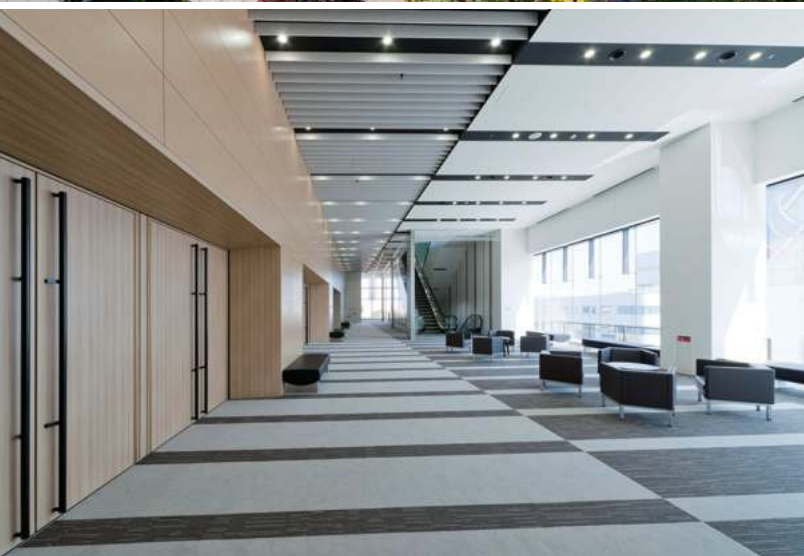
百貨店・多目的ホール・公益施設・遠州鉄道グループの本社オフィスから成る「新商業ビル」と、既存公道をイベントスペースなど公共性の高いにぎわい拠点へと再生させた新「ギャラリーモール」のコンプレックス施設で構成している。

既存百貨店に「新館」を増築し、「旧館」との間にある公道であるギャラリーモールを地下1階、地上3階～6階まで立体的に配した「縦のモール」に再構成して両館を接続し、「旧館」「ギャラリーモール」「新館」が三位一体となった、新たな都市のにぎわい施設を創出している。

新たに増築した「新館」では、都市再生特別地区の申請により、容積率を元の600%から1,250%まで引き上げ、駅前の都市空間にふさわしい建物ボリュームを確保した。このボリュームを有効に活用すべく、低層部を百貨店及び商業店舗、中層部にホール・にぎわい施設、高層部はグループの本社機構が入るオフィスと、建物の機能を複合化することで都市的利便性を享受出来る施設としている。また旧館との接続スペースである「ギャラリーモール」は、公道を公共広場へと都市計画を変更して、その上空部分の利用を可能にしている。これにより、にぎわい創出の核となる施設へと再生が可能になった。

(西澤太良、上河内浩/竹中工務店)

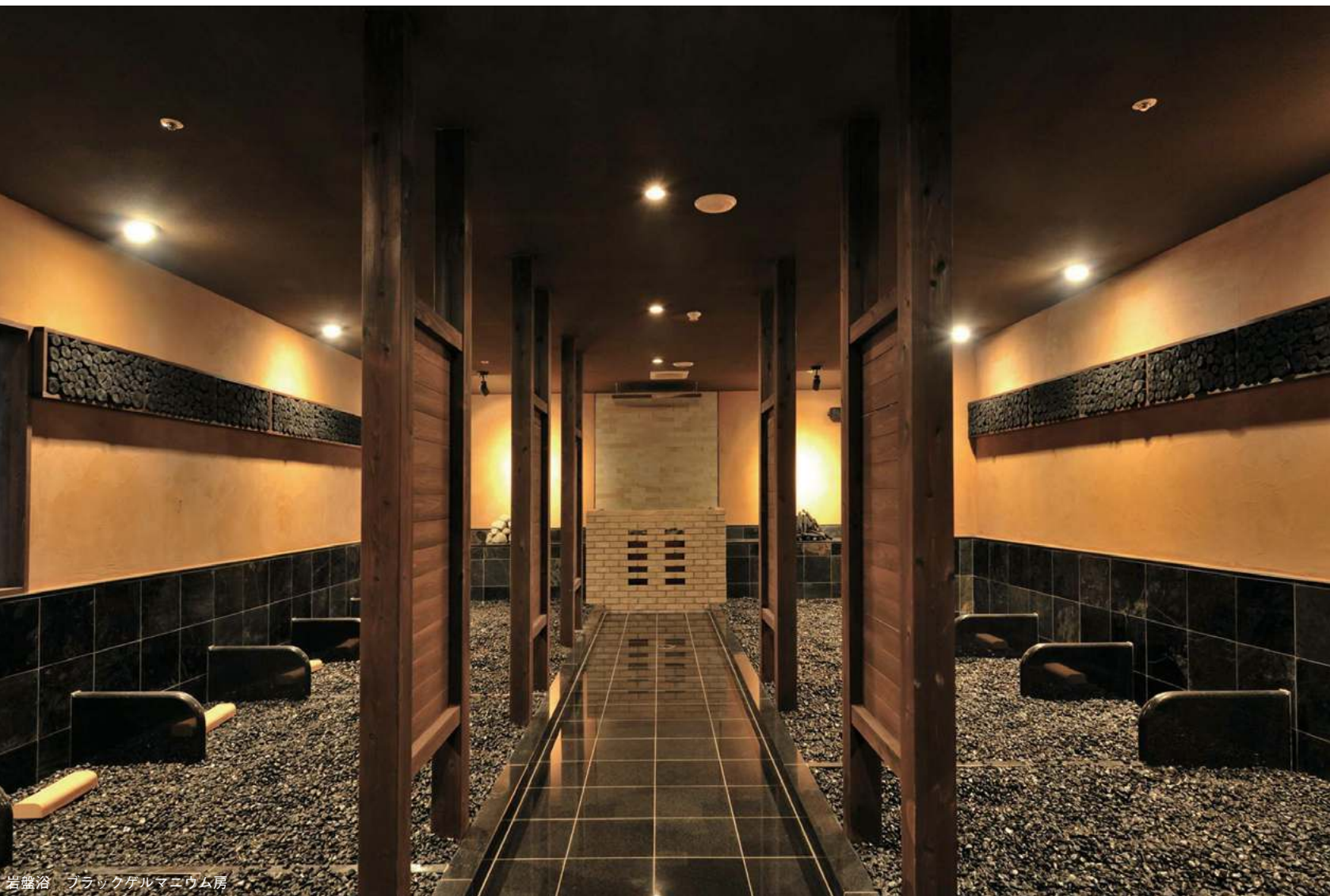
所在地——浜松市旭町12-1
敷地面積——5,460㎡
建築面積——4,660㎡
延床面積——44,150㎡
構造規模——RC・SRC・S造、地上13階、地下2階、塔屋2階
最寄駅——JR浜松駅
撮 影——エスエス名古屋







外観 夜景



岩盤浴 ブラックデルマエウム房

天然温泉 竜泉寺の湯 仙台泉店

建 築 主 オークランド観光開発株式会社
設計・監理 福田泰造建築事務所
施 工 松井建設 東北支店（建築）
暖王通商（岩盤浴含む床暖房設備工事）

天然温泉竜泉寺の湯は、オークランド観光開発株式会社が全国展開する温泉施設で、東北では盛岡店に次ぎ2店目となる。敷地は仙台市の北部に位置し、1988年に仙台市に編入合併された宅地開発が進んだ丘陵地である。

幹線道路に沿って大型ロードサイド店の並ぶ立地で、楽天イーグルスの練習場もあり、適度に住宅地としての環境が整えられている。

平面プランは、公衆浴場のルーツである東大寺の大湯屋を基本として、正面の前室部分に待合ロビー・脱衣室、中三間の浴場部分に浴場・サウナ室、背後二間の釜場部分に機械室が続く。付帯施設として汗蒸幕を中心にした複数の岩盤浴チムジルバンを取り入れた構成となっている。地下2000mから供給される天然温泉はナトリウム・カルシウム塩化物泉（泉温61.5℃）で湯量は豊富である。

外観は長い水平庇の上に切り妻屋根を載せ、開口部とエントランス部分を縦格子、外壁を金属サイジングの下見板風張りとして、和の雰囲気の演出をした。内部は広いフロアスペースと置屋根を活かした吹き抜け空間を活かして小屋裏の雰囲気をだしている。

鉄骨上棟時に発生した東日本大震災の影響で工事は3.5カ月遅れたが、竣工後、施設は市民の憩いの場、癒しの場を提供している。

最後に未曾有の震災で被災された工事関係者に改めてお見舞いを申し上げると同時に早い復興を祈念する。

（福田泰造／福田泰造建築事務所）

所 在 地——宮城県仙台市泉区大沢5・8・9・10他

敷地面積——7,261.73㎡

建築面積——4,176.53㎡

延床面積——7,684.80㎡

構造規模——S造、地上2階

工 期——2010年12月～2011年9月（地震で2011年3月～5月 中断）

最 寄 駅——仙台市営地下鉄 泉中央駅

撮 影——渋谷 武（渋谷写真事務所）



レストラン



浴場



露天風呂 壺湯



外観



岩盤浴 汗蒸幕

Tokai Sketch Book



リニア・鉄道館

設計 東海旅客鉄道、日建設計
施工 安藤建設・東亜建設工業JV

所在地	名古屋市港区金城ふ頭3-2	構造規模	S造、地上2階
敷地面積	27,499.89㎡	工期	2009年7月～2011年2月
建築面積	11,555.31㎡	最寄駅	名古屋臨海高速鉄道 あおなみ線 金城ふ頭駅
延床面積	14,384.50㎡		



名古屋市科学館

設計 名古屋市住宅都市局営繕部、日建設計
施工 竹中工務店、TSUCHIYA、ヒメノビルドJV

所在地	名古屋市中区栄2-17-1	構造規模	S造、地上9階 地下2階 塔屋1階
敷地面積	89,297.99㎡	工期	2008年10月～2011年3月
建築面積	3,063.80㎡	最寄駅	名古屋市営地下鉄 伏見駅
延床面積	15,735.19㎡		



建国寺 新本堂

設計 安井建築設計事務所
施工 竹中工務店

所在地	愛知県名古屋市千種区神田 町2308、2309-1、2309-2	構造規模	RC造、地上2階、地下1階
敷地面積	1,608.81㎡	工期	2010年5月～2011年6月
建築面積	620.12㎡	最寄駅	名古屋市営地下鉄東山線 今池駅
延床面積	1,180.58㎡		



中京銀行尾張旭支店

設計 伊藤建築設計事務所
施工 日東建設

所在地	尾張旭市旭前町広久手 4870-9	構造規模	S造、地上2階
敷地面積	439.43㎡	工期	2010年11月～2011年6月
建築面積	377.64㎡	最寄駅	名古屋鉄道瀬戸線 旭前駅
延床面積	572.82㎡		



ココチホテル沼津

設計 竹中工務店設計部
施工 竹中工務店

所在地	静岡県沼津市高島町1-12	構造規模	S造、地上12階
敷地面積	699.86㎡	工期	2010年11月～2011年9月
建築面積	442.12㎡	最寄駅	JR沼津駅
延床面積	4855.26㎡		



恵那寿や観音寺店

設計 竹中工務店設計部
施工 竹中工務店

所在地	岐阜県恵那市大井町字観音 寺2695-150	構造規模	S造、一部W造、地上2階
敷地面積	5289.50㎡	工期	2010年11月～2011年6月
建築面積	1055.64㎡	最寄駅	JR恵那駅
延床面積	1247.61㎡		

東海支部特集

愛知の建築文化にみる遺伝子

「建築と社会」東海特集号では、主に、この地方の街道、宿場町を通し、人々の営み、その時代の繁栄を紹介してまいりました。去年の「岐阜」に引き継ぎ今号も明治以降の近代の建築に目を向け、「愛知の建築文化にみる遺伝子」と題し、受け継がれてきたもの、受け継いで行きたいものを考えてみました。

明治から現代のこの地方の文化を、建築、街、都市と言った切り口で、建築史、産業史、街造りの活動の立場から、建築、都市への日頃からの考え、思いを執筆して頂きました。

(東海支部「建築と社会」特別編集委員会)

■愛知の建築文化にみる遺伝子

賢人の夢みた空間—鈴木貞次が目指したもの—／河田克博

モノづくり愛知の源流と産業遺産／天野武弘

博物館明治村／飯田喜四郎

■遺伝子の活用事例を探る

「足助」に建築文化の遺伝子を探る

／松本壮一郎・青木良太・阿部晃尚・岡島昌利・渡辺泰平

「円頓寺」「四間道」「白壁」に建築文化の遺伝子を探る

／松本壮一郎・永井里奈・小川枝里子・近藤美希・服部亮子・松浦宏美

■東海の建築：環境／エコ

・みなと医療生活協同組合高畑生協診療所／竹中工務店

・北名古屋市立師勝中学校／東畑建築事務所

・トヨタ紡織 猿投開発センター 2 号館／日建設計

・JAあいち中央知立支店/安井建築設計事務所



写真 1 鈴木禎次

愛知の建築文化に見る遺伝子



賢人たちの夢みた空間

—鈴木禎次と建築家養成教育—

名古屋工業大学大学院教授

河田克博



1952年山口県生まれ。
1975年名古屋工業大学建築学科卒業。1977年
同学大学院修士課程修了。1990年同学大学院
博士後期課程修了。この間、(株)金剛組技術部
設計課、修成建設専門学校教授、名古屋工業
大学助教授を経て、現職。
研究分野は、建築史・都市史。
金沢城調査研究建造物専門委員会委員・名古
屋市文化財調査委員会委員他。
著書 『日本建築古典叢書 第3巻 近世建
築書一堂宮雛形2 建仁寺流』(大龍堂書店、
1988)、ビジュアル版『城の日本史』(共著、
角川書店、1995)、『建中寺—建築とその背景—』
(建中寺、2003)、『城の日本史』(共著、
講談社学術文庫、2011) 他。

■はじめに

愛知県は、海産資源・農産資源にも恵まれ
醸造業・窯業も発展し、さらに山間部は林産
資源もあり、現代みる近代工業の驚異的発達
以前から、多くの人々が集う土地柄であった。
かつて戦国時代には、近世という新しい時代
を築くことになった三英傑の織田信長・豊臣
秀吉・徳川家康を輩出した土地でもある。そ
の中心となる名古屋の骨格は、1610(慶長
15)年から新たに築かれていった名古屋城下
町に基づくもので、明治の近代化以降の地割
にも反映し現代にも続く部分が多々ある。そ
の近代化のプロセスの中で、1886(明治19)
年には国鉄名古屋駅が開業、3年後の1889
(明治22)年には東海道本線が全通し、近代化
の先進地東京・大阪と直結することとなった。
またこの年に名古屋市が誕生、人口は約16万
人であった。翌1890(明治23)年には、工部
大学校造家学科(現在の東京大学工学部建築
学科)の一期生の一人、佐立七次郎設計によ
る名古屋郵便局が広小路に面してつくられ、
近代化の黎明期が始まるが、翌年の濃尾地震
により倒壊し、近代化の足踏みが一瞬止まる。
名古屋市の繁華街の幹となる広小路に、京都
に次いで2番目に路面電車が走るのは1898
(明治31)年で、この前後から近代建築が増
えていったことが古写真や絵葉書などからう
かがえるが、その発信源はなお東京で近代建
築を知った人々が主体で、真の意味での名古
屋の近代化は混沌としていた。そうしたとき、
1905(明治38)年3月28日、勅令第98号
によって設置された名古屋高等工業学校(名
古屋工業大学の前身、以下「名高工」と略す)
が、同年9月1日、第1回入学式を挙行し授
業を開始した。東京帝国大学に次ぐ我が国2
番目の官立の建築学的高等教育機関の誕生で
ある。その翌年、東京帝大明治29年卒の鈴木
禎次(写真1)が教授として赴任し、近代建
築を形成する建築家の養成教育が始まり、多
くの教え子が巣立ち、鈴木自らの設計作品と
ともに、東海地方を中心として全国に展開す
る愛知発信の近代建築が生まれることになっ
た。ここでは、鈴木禎次とその遺伝子を継承
した教え子たちが、いかに近代建築文化を広
げていったのかを垣間見ることとする。

■鈴木禎次の教育

名高工建築科第1回の入学生は定員の20名
であったが、3年後の卒業時には16名に減じ
ている。建築科最初の教官は、工学士中栄徹
郎(東京帝大明治30年卒)講師で、翌1906
(明治39)年6月27日、欧州留学から帰国し
た工学士鈴木禎次が建築科最初の教授として
着任するまでの約1年間、建築科長を務め、
1907(明治40)年3月末まで講師の職にあっ
た。ほかに設立当初から安成一雄が助教授の
職にあり(～1909年まで在職)、設計を教授し
ていた。

おそらく教える方も手探りの、こうした学
科創設時の教育を受けた卒業生で、設計や教
育面での具体的な活動がある程度よく知られ
る人物を次に掲げてみよう。

鈴木孫三郎、鈴木通、佃忠蔵、星野則保、
桃井保憲(以上、明治41年—第1回卒)、岡田
泰一、篠田進、鷹栖一英(以上、明治42年—
第2回卒)、中村順平(明治43年—第3回卒)、
加藤和夫、松田昌平(以上、明治44年—第4
回卒)。

このうち、佃忠蔵(1909～1912年、構造)、
桃井保憲(1912～1913年、設計)、鷹栖一英
(1921～1939年、設計)は、卒業した後、長
短はあるが母校で教鞭をとっている。特に鷹
栖は、鈴木禎次が名高工を退官した後の設計
教育の継承者として重要な存在であった。

教官・学生双方が、新鮮な気概をもって教
育を授受しているこの頃、学生から見た教育
はいかなる印象として残っているのか、第2回
卒の篠田の言葉がよく伝える。

「私の入学した時は中栄徹郎先生が建築科
長で大変温厚な無口の先生でした。その後洋
行帰りの鈴木禎次先生がこられ、この先生か
ら多くの教訓を公私ともに受けた。先生の教
授はすこぶる雄弁で面白く、巧みに講義をせ
られ、気げんがよければ時間も構わず講義を
つづけ、我々生徒はノートするのに汗をなが
し、少しも油断することができなかった。先
生はこのノートの検定によって採点をし、決
して試験は行わなかった。先生はルネッサン
ス式を好まれデザインも得意で、製図教授に
対してはなかなか厳格でした。生徒に対して
は好き嫌いが激しく、好まない生徒の作品は

見向きもせず、優秀な製図は廊下に展示されたが、私はこの廊下組でした。(後略)」(篠田進著『八十歳をすごして』-1967年-より)

鈴木禎次の教授の印象は、赴任当初から強烈であった。鈴木禎次の教授方針については、松田軍平(大正7年 第11回卒)も次のように語っている。

「一その時の建築科長は鈴木禎次先生で随分厳しい薫陶を受けた。フランス流の建築家を作る教育とでもいうのか、「君等が教わっている総ての学科は、終局において設計に集結される。立派な建築家になる野心を持って努力せよ」と。・・・設計の問題が出ると、徹夜しても基本設計図を作って先生の承認を得ないと始められないという厳しさで、高等工業学校といっても建築科の教育は全然土木や機械科と異なった教育によって三年間を過ごした。」(『松田軍平(回顧録)-1887年-』より)

要するに、鈴木禎次の教育目的は、技術者養成ではなく建築家養成であり、彼の薫陶を受けた卒業生の多くは、後述するように建築家としての道を歩んだのである。

鈴木禎次は1870(明治3)年に静岡で生まれる。1896(明治29)年に帝国大学工科大学造家学科を卒業した後、大学院に残り鉄骨構造の研究をするが、先輩の横河民輔に誘われ三井臨時建築係となる。横河を補佐し三井総本店(1902年)を設計。その後、三井銀行大阪支店(1901年)、北浜銀行本店(1904年)の設計を担当。1903(明治36)年欧州留学へ出発、イギリス・フランス・北欧をまわり、1906(明治39)年に帰国。フランス新古典主義建築を直接体得した唯一の日本人であるといわれている。帰国後、名高工建築科教授に着任。自ら退官する1921(大正10)年までの15年間、建築科長も務めた。退官後も、1927(昭和2)年まで講師として教壇に立ち、建築衛生、施工法を講義した。建築家養成を目的とする厳しい指導のかたわら、実務設計にも力を注ぎ、いとう呉服店(後の松坂屋百貨店、1910年)・鶴舞公園噴水塔・奏楽堂(1910年)など、数々の名建築を残した。退官後は鈴木建築事務所を名古屋で創立、名古屋商工会議所(1923年)・名古屋松坂屋(1925年)(写真2)・旧名古屋銀行本店(1926年)(写真3)など、膨大な数の作品を残した。な

お鈴木は夏目漱石の義弟であり、漱石の墓も設計している。1924(大正13)年には、卒業生によって名高工構内に記念柱が建立された。晩年東京に居を移した後も、来名し設計顧問として活動していたが、1941(昭和16)年出張中の名古屋で没した。



写真2 名古屋松坂屋



写真3 旧名古屋銀行本店

■鈴木禎次と教え子のかかわり

鈴木禎次が名高工に赴任して、最初に設計した建物は、第10回関西府県連合共進会会場につくられた1910年竣工の鶴舞公園の噴水塔(写真4)と奏楽堂、愛知県商品陳列館などであるが、これには、第1回卒業生の鈴木孫三郎(噴水塔)、桃井保憲(奏楽堂)、星野則保(愛知県商品陳列館)が設計協力している。鈴木通は、田村組に就職しており、噴水塔の現場主任であった。第1回卒では他に佃忠蔵



写真4 鶴舞公園の噴水塔

(北浜銀行名古屋支店 1915年)の、構造面での協力が知られる。第2回卒では岡田泰一が、桃井保憲とともに、三井銀行名古屋支店(1913年)を担当している。同期の篠田進も、在学中に図面を手伝わされており、卒業直後は名古屋開府三百年記念事業局に就職し、噴水塔・奏楽堂の現寸図作製や現場監督を担当している。名古屋最初の鉄骨鉄筋コンクリート造の共同火災名古屋支店(1913年 現存せず)(写真5)では、第4回卒の加藤和夫が協力している。参考書が不十分で、職工が全然初めてのため、鉄筋や堰板の組み立てなどに相当な苦心を要した。鈴木禎次は基本設計の部分を自分がやり、製図そのものは教え子にまかせたようである。桃井保憲・星野則保・岡田泰一・篠田進らは、のちに独立して事務所を構える。

鈴木禎次は、名高工在職時には、学校の製図室や講堂の一隅を事務所代わりにしていたが、1921(大正10)年に学校を辞すると正式に建築事務所を設立する。事務所設立以前から半分所員のように手伝っていたのは、桃井保憲・岡田泰一・坂野鋭男(大正4年 第8回卒)・島武頼三(大正5年 第9回卒)・佐藤三郎(大正7年 第11回卒)らであるが、島武と佐藤は、事務所設立後も正所員として参加している。その他、多数の教え子が鈴木禎次の仕事の設計や施工にかかわった。



写真5 共同火災名古屋支店

■名高工卒の建築家たち

鈴木禎次の設計教育を受けた卒業生には、ここまで述べたように、鈴木禎次の設計活動とその実務に直接かわる仕事に就く人が多数あったが、その後、あるいは卒業後、さらに自らの研鑽を積んで、戦後も続く著名な建築設計事務所を開設した建築家や、教育や行政の場において建築家としての活動を進めた人などが多数存在した。そのごく一部を、愛知を主体に、履歴・作品を中心にふれていく。

前述の篠田進（写真6）は、卒業後、鶴舞公園で開催された府県連合共進会の噴水塔と奏楽堂の現場監督を担当する。翌1911（明治44）年、鈴木禎次の推挙で設楽建築事務所（神戸市）に就職、大阪天王寺新世界新築（1912年）や千日前楽天地建築（1913年）の設計監理を担当する。篠田は、この設楽建築事務所時代に実務設計の多くを学んだという。1914（大正3）年に、名古屋の志水建築業店に入社し、名古屋商工会議所など鈴木禎次の設計したものの現場監督を担当している。志水建築業店の仕事以外に、篠田個人に依頼される仕事も勤務に差し支えない程度にやらせてもらうのが就職の条件であった。旧鳴海球場（1927年、一部が残存し現名鉄自動車学校として使用されている）も篠田の設計という。志水建築業店関連では、日本陶磁器会館（1934年）、名鉄本宿駅（1934年）、御園座（1935年）などを設計している。

御園座完成を機会に、1935年（昭和10）篠田進建築設計事務所を開設。名鉄一ツ木駅や万常紙店本店、新舞子舞子館（1937年）などを設計。舞子館浴室のタイルは武田五一（東京帝大明治30年卒一名高工第二代校長一）との合作という。戦後の1945年に、後輩の川

口喜代枝（名高工、昭和6年 第24回卒）と組み篠田川口建築事務所と改称し会長となり、戦後は、和風住宅や料亭建築が多く、その設計や監理にあたった。料亭河文復旧工事（1949～1952年）の玄関や主屋回りも篠田によるもので、2004（平成16）年12月、国の有形文化財として登録された。若い頃より、計画・設計・監理・監督のすべてを体得した建築家といえ、鉄筋コンクリート造・木造、近代西洋式・和風など何でもこなした。設計事務所としての作品数は、膨大であり、かの曾禰・中條建築事務所のそれを上回るとも思われる。

設計活動の一方、大正初期結成以来の光鱈会（名古屋工業大学建築学科出身の同窓会）の会長職（1966年まで）、1951（昭和26）年、社団法人愛知建築士会を設立し会長職（1955年まで）、1952（昭和27）年、社団法人日本建築家協会東海支部を設立し支部長職（1956年まで）などの要職を歴任し、東海の建築界をリードするボスの存在であった。1980（昭和55）年、94歳で永眠する。

中村順平（写真7）は、卒業とともに、在学時から中村の将来を囑望していた中條精一郎のいる曾禰・中條建築事務所に入る。大正博（1914年）・如水会館（1919年）で世に認められ、渡仏してアール・ヌーボーやゼツェッシオンを体験した後、1921（大正10）年にパリ国立最高美術学院（エコール・デ・ボザール）に2席で入学、1923年に卒業、ソルボンヌ大学日本館の設計を卒業制作として、もってフランス公認建築士（D.P.L.G）の称号を授与される。帰国後は、設計活動に携わるかわたら、建築士法制定運動に尽力していたが、1925（大正14）年に横浜高等工業学校建築学科（現横浜国立大学）が設置されるに伴い、同校建築学科主任教授となり、1947（昭

和22）年に退官するまで教育に携わる。また、戦前の日本の大型商船の室内意匠にも腕を振るった。1957（昭和32）年、横浜文化賞受賞、1958（昭和33）年には日本芸術院会員に推される。1977（昭和52）年、90歳で永眠。

松田昌平と軍平の兄弟は、ともに名高工を出た後、建築家としての道を歩んだ。長男の松田昌平は、卒業後、1919（大正8）年以前までに門司に松田建築事務所を開設。この頃の秀作として、旧門司三井倶楽部（1921年、重要文化財）がある。建築士会・日本建築学会・日本建築家協会などの要職をも務めた、九州建築界のパイオニア。工場や厚生施設の建物を多数設計監理するほか、事務所、ホテル、学校、病院、デパート、住宅等あらゆる種類の建築設計監理に携わり、地域社会の中で一貫して民間建築家として従事した。1976（昭和51）年、福岡県にて87歳で永眠。

次男の松田軍平（写真8）は、卒業後、鈴木禎次の指示により、建築家田辺淳吉が技師長をしていた清水組設計部に入ったが、西洋事情を知らぬことの不条理を悟って渡米。1921（大正10）年、厳しい教育で知られるコーネル大学建築学科3学年に入学し、極めて優秀な成績で1923（大正12）年6月同学建築学科を卒業、名誉ある称号や設計優秀賞を受けた。米国の事務所で勤務した後、三井本館の設計に当たり、現場監理のため1927（昭和2）年帰国。1931（昭和6）年東京赤坂に松田建築事務所を設立。間もなくコーネルの後輩平田重雄を加え、1942（昭和17）年から松田・平田設計事務所となり、さらに1966（昭和41）年からは坂本俊男（横高工卒、中村順平の教え子、1932年から入所していた）がパートナーとして加わり松田平田坂本設計事務所と改称した（2001年より松田平田設計）。



写真6 篠田 進



写真7 中村順平



写真8 松田軍平



写真9 丹羽英二

作品は、三井高修伊豆別邸（1932年）、石橋正二郎邸（1936年）、ブリヂストン本社（1952年）、日本長期信用銀行本店（1961年）、住友銀行日比谷支店（1965年）、日銀本店増改築（1973年）など数多い。建築家の職能確立と建築事務所の在り方について、厳しい見識を持っていた。日本建築士会会長・日本建築家協会会長（1956年初代会長、1968年に再選）をはじめ、日本建築学会・日本建築士会連合会の理事や日本建築設計監理協会連合会会長など要職を歴任した。1958（昭和33）年には、日本人で初めて米国建築家協会名誉会員となっている。1981（昭和56）年に享年86歳で永眠。

丹羽英二（名高工一大正8年卒）（写真9）は、卒業後、静岡県の営繕係技手に、さらに翌1920（大正9）年に、名古屋市建築課技手になるが、1922（大正11）年には、名古屋の志水建設業店に変わる。丹羽英二が在職中、同店の上司に神戸から戻り自信のある仕事をこなしていた篠田進がおり、実務設計にかかわる手法や思想の影響を多少なりとも受けたものと思われる。1930（昭和5）年に、篠田進に先んじて丹羽建築設計監督事務所を開設。この時に、一宮市役所（1930年）や下呂の湯之島館（1931年）、旧総合共同販売所見本陳列館（1934年、現、瀬戸陶磁器会館）など多数を設計している。このうち湯之島館は、和風を主体にセセッションないしは表現主義の意匠を華やかに展開した秀逸な作品で、現在では下呂温泉を代表する近代化遺産となっている。戦後の1947（昭和22）年、丹羽英二建築事務所と改称、1979（昭和54）年に代表取締役会長に就任した後、翌1980（昭和55）年82歳で永眠する。事務所ビル・工場・学校・庁舎・病院など幅広くこなす事務所であり、名城大学天白校舎（1965年）、愛知学院大学日進学

舎（1973年）、名古屋市鶴舞中央図書館（1985年）など枚挙に暇もない多数の作品がある。

城戸武男（名高工一大正9年卒）（写真10）は、卒業と同時に、竹中工務店に入社し、1927（昭和2）年に名古屋支店設計部主任となる。鈴木禎次の松坂屋本店（1924年）や名古屋公衆図書館（1924年）、森田病院（1927年）の設計を手伝うが、後の二作品では主として表現主義的な意匠を採用している。この時期に恩師鈴木禎次先生の直接薫陶を受け、それが制作への強い源泉になったと城戸武男は回顧している。自身の設計したものとしては、八重垣劇場（1930年）や名古屋株式取引所事務館（1931年）などがある。1927（昭和2）年には覚王山日泰寺鐘樓設計競技に応募し1等入選、1929（昭和4）年には名古屋市庁舎設計競技にも応募している。日泰寺鐘樓設計競技1等入選で松坂屋伊藤次郎左衛門に高く評価されたことが契機になり、1933（昭和8）年、城戸武男建築事務所を開設。代表作品として、金城学院栄光館（基本設計は名高工教授の佐藤鑑、1936年）、八勝館大広間（1936年）、衆善館（1937年）、成田山名古屋別院本堂（1950年）などがある。1980年、81歳で永眠。

伊藤鑑一（いとう こういち 名高工一大正11年卒）（写真11）は、卒業後、竹中工務店に入社、1924（大正13）年に松坂屋臨時建築部に移り、次の事務所に転職するまで一貫して、鈴木禎次の設計する全国の松坂屋関係の建物の設計監理を担当している。1939年（昭和14）、鈴木禎次の指示に従い長谷部・竹腰建築事務所に入社。鈴木禎次が名古屋の鈴木建築事務所を閉鎖する前年のことであった。この頃は、戦争のため軍需関係の建築が優先される時代で、伊藤は工場や造船所などを設計していたという。終戦直前の1944（昭和

19）年、長谷部・竹腰建築事務所は住友土地工務株に吸収され、伊藤は住友土地工務名古屋出張所の所長となる。戦後1950（昭和25）年、日建設計工務（現、日建設計）設立に際して、取締役兼名古屋事務所長となり、さらに1958（昭和33）年、経営手腕が認められて社長になる。1967（昭和42）年、67歳で日建設計工務を退職。この年に、名古屋経済界の主要企業からの出資を得て、名古屋で伊藤建築設計事務所を開設する。東海銀行本店（1961年）、中央相互銀行本店（1969年）など多数の作品があり、伊藤鑑一は1987（昭和62）年満87歳で永眠する。

黒川巳喜（名高工一昭和2年卒）（写真12）は、卒業後、愛知県営繕課建築技手となり、前出の愛知県庁舎などのほか、旧昭和塾堂（1929年）や江川警察署（西警察署、1932年）などを担当する。愛知県庁舎では、正面広間や正面階段部分を担当している。江川警察署と愛知県信用組合連合会は、水準の高い設計技量を示す作品となっている。1940（昭和15）年には営繕課技師となり、1944（昭和19）年頃退職し民間企業に勤めた後、戦後の1946（昭和21）年に黒川建築事務所を開設した。氏の創作に対する情熱の遺伝子は、紀章・雅之（名工大一昭和36年卒）・喜洋彦（名工大一昭和42年卒）の各氏に受け継がれている。1994（平成6）年、満88歳で永眠。黒川巳喜は、鈴木禎次の影響を受けた最後の世代であった。

以上のほか、鈴木禎次の薫陶を受けた建築家として、神奈川県庁舎（1923年）を設計した小尾嘉郎（おび かるう 名高工一大正10年卒）、静岡県庁舎（1937年）を設計した秦井武（やすい たけし 名高工一大正13年卒）、名古屋の松重閘門（1930年）の原スケッチを行なった藤井信武（秦井と同期）らがいる。

華々しくスタートした名高工のアーキテクト教育は、鈴木禎次の教授退官と講師退任によって減速・停滞することとなるが、彼の遺伝子は、彼の薫陶に接した教え子たちによって継承された。

（かわた かつひろ）

※本稿は、拙著「名古屋工業大学建築学科百年の歩み」（『C&D』140号2005年一冬）を加筆・修正したものです。



写真10 城戸武男



写真11 伊藤鑑一



写真12 黒川巳喜

モノづくり愛知の 源流と産業遺産

愛知大学中部地方産業研究所研究員

天野武弘

1946年愛知県豊川市生まれ。
1970年名城大学機械工学科卒業。同年愛知県立の工業高校教諭。現在、愛知大学中部地方産業研究所研究員、大同大学、名古屋学芸大学非常勤講師、豊川市文化財保護審議会委員、中部産業遺産研究会副会長。
研究分野は、産業考古学、技術史。
著書：『歴史を飾った機械技術』（オーム社 1996年）、共著『ものづくり再発見ー中部の産業遺産探訪ー』（アグネ技術センター 2000年）、共著『愛知県史 別編 文化財1 建造物・史跡』（愛知県 2006年）、共著『新・機械技術史』（日本機械学会 2010年）、他

■はじめに

産業遺産とは、産業の発展に貢献した、あるいはしている、生産や流通などに関する施設や設備、図面や文書など現存しているものを指す。例えば生糸や綿糸、土管や瓦、工作機械や自動車、あるいは堤防や港湾、鉄道、橋梁などをつくる、いわばモノづくりの歴史を示す生き証人とでもいえよう。

そうした産業遺産も近年ようやくマスコミに登場するようになってきた。文化庁の近代化遺産調査が全国展開されたことや、産業遺産を地域活性化の資源とした経産省の近代化産業遺産の認定、あるいは産業遺産として日本で初めて世界遺産に登録された石見銀山、さらに富岡製糸場や九州山口の近代化産業遺産群及び佐渡鉱山の遺産群の世界遺産暫定リスト入りなどがそれを後押しした。

こうした動きは、その重要性を訴え続け、地道に産業遺産の調査研究を進めてきた産業考古学会などの活動を抜きにはできないであろう。愛知県内では早くからこの産業遺産に着目して活動している中部産業遺産研究会（会員約150名、事務局 名古屋市）が今も精力的に調査研究を行っている。その中から今日のモノづくり愛知の源流となる歴史的な産業や県特有の産業のうち、意外と知られていない、忘れられている産業と産業遺産に焦点を合わせ、それに関わった人物にも触れながら紹介しよう。

■臥雲辰致とガラ紡

ガラ紡とは信州の臥雲辰致（がうんときむね）が明治6（1873）年に発明した紡績法である。紡績とは綿を撚り掛けしながら引き伸ばして綿糸にすることをいう。

愛知県の岡崎や額田、豊田など矢作川流域が全国一のガラ紡産地になるきっかけは、明治10（1877）年に東京上野公園で開催された第1回内国勸業博覧会であった。ここに出品されたガラ紡績機が最高賞の鳳紋賞牌を受賞して一躍知られることになり、それをその直後に岡崎に導入したことによる。今の岡崎市滝町の青木川に掛かる水車が利用され、産地となるスタートが切られた。その5年後には7万鍾近くのガラ紡績機が設置されるという、まさ



額田町桜井寺のガラ紡水車

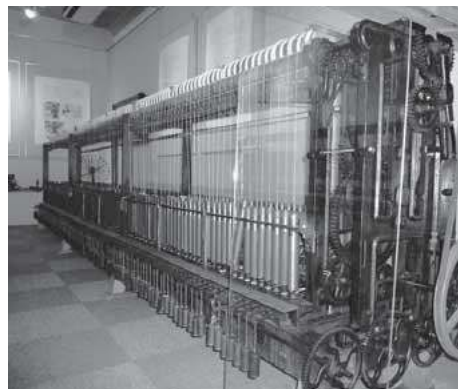
に燎原の火のごとく広がる普及ぶりであった。

臥雲辰致もその技術指導で数度にわたり岡崎の地を訪れているが、単なる操業指導だけでなく、ガラ紡績機の改良にも努め、岡崎のガラ紡業者で額田紡績組の組合長甲村瀧三郎らと共同で特許の申請も行っている。また地元の中野清六や鈴木次三郎らの機大工により改良や考案もされ、その技術が受け継がれていくことになる。

しかし、ガラ紡には幾多の試練があった。一つはガラ紡の糸質（強さ、太さ、糸むら）が洋式紡績に比べ劣ったこと、そして第二次世界大戦による企業整備（戦時統制）によって愛知県では約半数近い500工場が転廃業となったことである。

戦後は衣料不足もあってガラ万と呼ばれた好景気をつくりだし、昭和33（1958）年には西三河だけで過去最高の1799工場、171万鍾に増え一大産地を形成していた。

そうしたガラ紡産業も今は風前の灯火である。県内では（おそらく全国でも）岡崎、豊田、一宮で数工場が稼働するのみである。その操業形態は基本的には当時と大きくは変



愛知大学産業館のガラ紡績機

わっていない。動力が電動機直結になったことぐらいである。

一方そうした実状からガラ紡績機を後世に残すことの必要性が早くから叫ばれ、中部産業遺産研究会会員の努力で保存されたところもあり、県内10カ所余りの博物館などに保存されている。実演も可能な、すなわち動態保存されるガラ紡績機も、トヨタグループの産業技術記念館（名古屋市西区）や愛知大学の生活産業資料館（豊橋市町畑町）、豊田市の近代の産業とくらし発見館（豊田市喜多町）などで見ることができる。またガラ紡発祥の岡崎市滝町周辺の青木川はじめ、岡崎、豊田の山間を流れる矢作川流域では、水車動力のための堰堤や水路、工場や水車場あるいは水車を散見することができる。

■石河正龍と官営愛知紡績所

かつて「繊維王国」と呼ばれた愛知県も、今は尾西地方や岡崎、蒲郡、豊橋などかつての繊維産地に僅かにその面影を残すくらいである。大規模紡績工場は大きな駐車場を持つスーパーなどの大規模店にその多くが様変わりしている。そんな中、岡崎市大平町の乙川右岸に、明治14（1881）年に開業した官営の愛知紡績所の水車場や水路などがその姿を残している。

ここは明治政府が紡績糸の国産化を目指して、民間紡績工場の模範工場として建てたところである。日本独自の紡績法であるガラ紡が岡崎の地に産声をあげた時と期を一にするが、洋式の紡績工場の建設は綿糸国産化の上で欠かせない事業として、政府主導で進められた。

この時、その工場立地から建設に至るまで一手に受けて奔走したのが、農商務省技師の

石河正龍であった。

石河は長崎で蘭学を修めた後、薩摩藩から招聘されて日本初の紡績所となった鹿児島紡績所の建設を計画、維新後は薩摩藩の堺紡績所の建設や運転にも当たり、紡績では当時もっとも精通していた人物であった。製糸や鉱山など時の主要産業の多くがお雇い外国人に指導を仰ぐ中、紡績では一人の外国人も招聘せず石河一人に頼っていた。

石河が岡崎に立地を求めたのは、国産綿使用を前提としたことから、当時国内有数の綿作地帯であった三河を選んだことと、動力に水車使用を考えていたため矢作川の水利を考えたこと、そして東海道筋という交通の便などが立地選定の決め手となった。

愛知紡績所は官営の第一工場として、三重紡績や島田紡績など全国10カ所に建設された初期綿糸紡績所の模範工場としての役割を果たし、明治19（1886）年に民間に払い下げられる。その後、火災で工場は焼失するが、跡地は各種の工場が入れ替わって利用されてきたものの、水車場と水路は奇跡的に創業時の様子をとどめてきた。

現在、地権者、使用者の理解もあって、工場から1.8km上流の乙川の取水口樋門や、水路、石造りの水車場など、明治初期の水車動力のための施設が全長にわたって整備され、産業考古学会からは推薦産業遺産の認定も受けている。



官営愛知紡績所の旧取水樋門

■鯉江方寿と常滑の土管

日本の中世六古窯の一つに数えられる常滑、その常滑が明治になって窯業産地として大きく発展するのは、土管（陶管）の生産にあった。最盛期の昭和30（1955）年頃は、愛知県では年産2,000万本を超え、国内生産の3分の1を占めていた。その中心が常滑であった。しかし、今このことを知る人は意外に少ない。

土管はまた、常滑が発祥の地でもあった。幕末期に芯まで良く焼けた真焼（まやけ）土管の焼成が鯉江方寿とその息子方寿とによってはじめられた。明治初期に横浜外国人居留地の下水道管の注文を受けた方寿は、最初の失敗の教訓から木型を用いた規格品による量産化を成し遂げ、常滑の土管の名声を高めた。そして明治22（1889）年開通の東海道本線建設に当たって、盛り土の路盤によって断ち切られる田んぼの水路用として数万個の土管が使われるに及んで、確固たる地位を築くことになる。

土管の焼成では当初は登り窯が使われたが、明治後期に石炭を燃料にした両面焚倒焰式角窯が常滑陶器学校の横井惣太郎によって開発され、高温、均一焼成ができる窯として、常滑の焼成窯に一大変化をもたらした。角窯は近代の単独窯のはしりとなり、大正期には全国に普及することになる。



土管を焼いた常滑の角窯内部

この角窯には高い煙突を要したことから、常滑の町は煙突が林立することになる。今も煙突の町として知られる常滑は、こうして特徴ある景観がつくられていく。常滑では、お嫁にきた日、はいていた白足袋が1日で真っ黒になったというエピソードが残っている。林立する煙突からの煙が町の活況を呈していた一方、石炭の煤で町は黒ずんでいたのである。昭和40年代の煤煙規制は石炭窯を終焉へ



常滑の煉瓦煙突



官営愛知紡績所の水車場跡

と導いていった。

現在、常滑ではこの煙突から煙を出すところは一つもない。石炭炊きの角窯は、その後開発されたトンネル窯や電気窯に取って代わられ、今では陶磁器を販売するギャラリーなどに改装しているところも多い。県内でも一つの古くからの陶磁器産地瀬戸の石炭窯が縦横およそ2～4m×2m前後と小さいのに比べ、土管や焼酎瓶など大型の製品を焼いたこともあり縦横およそ4～11m×4m前後と内部が結構広いことや、ドーム状の煉瓦窯の醸し出す雰囲気が活用の要因ともなっているようである。

平成16（2004）年時点でこの角窯は31基の残存が確認されており、煉瓦造の煙突とともに常滑を象徴する産業遺産となっている。これらは「やきもの散歩道」はじめ市内の随所で目にすることができる。また土管の木型は常滑市民俗資料館に展示してある。

■石原熊次郎とだるま窯

愛知県の高浜が三州瓦の産地であることを知る人は多い。しかし瓦焼成用のだるま窯について知る人は少ない。だるま窯は古くから使われる窯で、その名は達磨が座禅している姿に似ていることに由来する。

日本で瓦生産が行われたのは奈良時代といわれるが、庶民の町屋に瓦葺きが普及するのは防火の観点から将軍吉宗による瓦葺禁止令の廃止であったとされる。この時高浜や碧南から三州瓦が船で江戸に運ばれている。しかし瓦葺きが全国的に普及するのは意外と遅く昭和初期の頃であった。

そのきっかけの一つは、大正期に瓦成形機や土練機など機械の導入による量産が可能になったことによる。高浜が産地としての地歩を固めたのもこの時期であった。

そしてそれを用意することになる、燃料を石炭に変えただるま窯が、明治35（1902）年頃に高浜の石原熊次郎によって改良された。燃焼効率を高めた風道とロストルを持つその後一般的となる窯であった。

熊次郎の貢献は窯の改良にとどまらず、後年築窯業に転じ、自身の石熊式石炭窯と銘打っただるま窯の普及に努めたことに求められる。それは明治末から大正期にかけた15年

間に約500基のだるま窯を築窯し、千葉や長野など他県にも及んでいるが、その殆どとなる450基ほどを地元碧海郡で築窯していることに見られる。

現在、県内ではだるま窯は高浜市田戸町に1基、豊田市寿町に1基が確認されているだけである。いずれも市の指定文化財となっている。このうち高浜のだるま窯は2010（平成22）年と11年の2年続けて復元操業がされ、忘れかけていただるま窯に再び関心呼び起こした。この時は木材を燃料にし、いぶしには古来の松葉が使用され、モクモクと排出される黒煙とともに往時を彷彿とさせる光景が見られた。

産業遺産を稼働させることは消耗につながるからすべきでないとの考えもある。しかし稼働してこそ意味が増すのもまた産業遺産である。これを実証した操業でもあった。



復元操業中の高浜のだるま窯

■服部長七と人造石工法

幕末から明治は新田干拓事業により農地拡大が図られた時代であった。そこでは一人の人物が開発した土木工法が大きな役割を果たした。碧南出身の左官職人服部長七が考案・施工した人造石工法で、在来の左官技法であるたたき（三和土）を大規模な土木工事に応用したものであった。

長七が最初に手がけたのは愛知県高浜の服部新田であった。ここで干拓堤防を人造石工



人造石の牟呂用水第5樋管

法で明治18（1885）年に完成させ、次いで広島島の宇品新田干拓堤防を明治22（1889）年に完成させ工法への信頼を獲得する。以後、明治37（1904）年に手を引くまでに、愛媛松山の干拓堤防と築港、鳥取の賀露港突堤、佐渡相川港の護岸、名古屋の白鳥貯木場樋門、生野銀山貯水池、四日市港の潮吹き防波堤（重文指定）、豊橋の神野新田干拓堤防と牟呂用水の樋門、大府の五箇村川の樋門、熱田築港（後の名古屋港）の突堤や護岸、明治用水の頭首工や樋門等を人造石工法で相次いで工事した。

当時はコンクリート工法が過渡期の時代で、工事代金は高価で国の補助がなければ築港などの巨大工事は不可能に近かった。そうした中、新工法として注目された人造石工法は、工事費用が割安だったこととコンクリートにも匹敵すると思われた強さが、各地の県令（知事）や県土木などの目に止まったのである。

人造石工法とは、原料となる消石灰と真砂土（花崗岩の風化土、サバ土とも呼ばれる）を混ぜ、水で練った練り土を叩き締めて堤防などの躯体をつくり、その表層部は花崗岩などの割石を埋め込んで補強する工法である。通常の石垣との違いは割石同士が接触しておらず、その隙間には練り土が充填されている。こうしたことで護岸や堤防の水密性が確保され、また波返しのような湾曲した構造物を造ることも可能であった。さらに練り土は空気中の二酸化炭素と反応して硬化し、年月を経るとともに強固な構築物になる利点もあった。

長七は明治30年代に入ると工事の重点を愛知県に移す。なかでも総工事費の6割の県費補助が付いた樋管工事では、服部長七率いる服部組が行った明治34（1901）年から36（1903）年の3年間だけを見ても、県内156カ所で木製樋管から人造石樋管への伏せ替え工事等が行われる様相を示した。愛知ではこうした補助により全国でも突出した人造石工法による土木工事が行われていく。

こうしたこともあって県内には今も人造石工法による構築物が随所に見られている。干拓や農業用水に関するものだけを見ても服部新田や神野新田の干拓堤防、神野新田に通水

する牟呂用水につくられた数カ所の樋管（明治27年、新城市～豊橋市）、明治用水の旧頭首工（明治34年、豊田市水源町）、五箇村川の数カ所の樋管（明治30年～35年）、江南市から西春日井郡に至る宮田用水の数カ所の樋管（明治30年代）、海部郡弥富町の立田輪中や筏川の樋門（明治30年代～40年代）、名古屋市守山区の庄内用水元杵樋（明治43年）など30カ所ほどに及ぶ。中には中部産業遺産研究会の調査から歴史的重要性が理解され、保存となったところや形態を壊さないよう配慮して工事されたところもある。

人造石工事は長七以後、名古屋築港では県直営で進められ、昭和の戦後まで修築工事されたことが知られている。県内にはまだ人知れず形をとどめる人造石構築物があるとも推測されている。



人造石の明治用水旧頭首工

■黒田豊太郎と名古屋築港

明治20年代末から40年代にかけて、愛知県議会では人造石工法に関する質疑がかなり熱を帯びて議論されていた。県議会で最初に入造石工法が議題に上ったのは、明治27（1894）年12月の通常県会であった。「人造石改良樋管試験ノ件」という建議が、議員提案として提出され採択された。これが先に述べた6割補助が付くことになる人造石樋管の案件で、県内2カ所で人造石樋管をつくって試験し、結果が良好であれば補助対象とするとの内容であった。

この12月県議会ではもう一つの重要な建議を可決していた。それが熱田築港の始まりとなる熱田湾築港調査の建議であった。もともと熱田湾は庄内川の流砂によって遠浅の浜となり、小型船舶の航行にも困難を生じるほど港には適さないところであった。そのため四日市港や武豊港を経由するしかなく、名古屋の経済発展には大きな障壁となっていた。建

議はこれを解消し直接大型船舶が入港できる港の建設を目指していた。しかし日清戦争後の不況や暴風雨災害による土木費の支出が重なったこともあって、県議会では日増しに反対論も大きくなっていった。また工事に国庫補助が得られる見通しがなく工事費の低減が求められていた。そこに浮上したのが人造石工法であった。

熱田築港に反対論が強い中、明治29（1896）年に愛知県技師として赴任した黒田豊太郎（岐阜県生まれ、明治19年帝国大学工科大学土木工学科卒、内務省に入り利根運河工事や筑後川改修工事を経て新潟県技師、愛知県では第6課港湾担当の初代課長、明治40（1907）年から名古屋築港工事を兼務）は、明治32（1899）年6月に初期工事である東西突堤の工事を人造石工法に変更した。その年の12月の通常県議会では、議員からの人造石工法の信頼性に対する質問に対し、「全く一番堅牢なのであります」と自信に満ちた答弁をしている。その後も反対派からたび重なる質問や中止を求める陳情、建議が提出されるが、その都度服部長七の人造石工法に全幅の信頼を置く発言を繰り返し、計画をまげることにはなかった。

そして明治43（1910）年に、名古屋港（明治40年改称）第1期工事となった東西突堤及び埋立地の1号地（築地ふ頭）から5号地（築地東ふ頭）の全ての護岸を人造石工法で完成させた。



大正13年当時の名古屋港2号地護岸
（名古屋港管理組合蔵）

こうした黒田の活躍がほとんど語られていないのが不思議なことである。黒田は人造石工法を前面に押し出し、これをもって名古屋港を完成させた、いわば生みの親と言ってもいい。

黒田は第1期工事が完成した翌年に退任し、後任には部下で大学の後輩でもあった奥



名古屋港12号地の人造石護岸

田助七郎が就任したが、奥田もまた昭和15年（1940）の退任まで黒田の採用した人造石工法を引き継いでいくことになる。

現在、名古屋港の1号地から12号地（汐止ふ頭）に至る埋立地護岸や貯木場に、また堀川や中川運河の護岸などに人造石の施工例を見ることができる。中でも9号地（潮見ふ頭）の旧護岸490m、11号地（空見ふ頭）と12号地の西側護岸にそれぞれ約600mと910mほどの長大な人造石護岸が見られ、今もその役目を果たしている。少し古い平成15（2003）年時点で、1号地から12号地の40カ所に延べ4600mほどの人造石護岸が確認されている。全国でもほかに例のない長大な人造石護岸をもつ名古屋港は、産業遺産の宝庫ともいえる場所でもある。

■おわりに

産業遺産は役目を終えたものだけでなく、稼働するもの、現役のものも、歴史的にまた技術史的、社会的に価値があると認められるものは該当する。

ここでは一部しか触れられなかったが、県内にはわかっているだけでもおそらく1000件を超える産業遺産が存在しているであろう。今、目の前にあるものも、じつは産業遺産であるかもしれない。産業遺産は意外と身近に存在しているものなのでもある。

（あまの たけひろ）

【参考文献】
『愛知県史 別編 文化財 1 建造物・史跡』
愛知県（2006）

愛知の建築文化に見る遺産



博物館明治村

愛知工業大学客員教授
博物館明治村前館長

飯田喜四郎



1924年東京都生まれ。
1949年東京大学建築学科卒業。同大学院（旧制）、フランス留学、宮内庁工務課勤務を経て1966年名古屋大学教授、1988年愛知工業大学教授、1992年神宮司庁技監、1997年博物館明治村館長、2010年より愛知工業大学客員教授、財団法人明治村顧問。
研究分野：建築史、文化財建造物保存。
著書：「カテドラルを建てた人びと」（翻訳 鹿島出版会 1969）、「カテドラル」（翻訳 岩波書店 1979）、「ゴシック建築のリブ・ヴォールト」（中央公論美術出版 1989）、世界美術大全集第9巻ゴシックⅠ（共著 小学館 1995）、「伊勢神宮の式年造替」（『建築史学』1999）他。

博物館明治村は東京工業大学教授で建築家の谷口吉郎博士による近代建築救済の構想と、高等学校時代の親友で、この構想に全面的に共鳴した名古屋鉄道株式会社（以下 名鉄）の土川元夫副社長（当時）の協力により実現した建築博物館である。

■鹿鳴館の取り壊し

わが国が太平洋戦争に突入する前年の昭和15（1940）年のある日、谷口博士は新橋から有楽町に向かう省線電車（現在のJR東日本の電車）の車窓から西側を眺め、F.L.ライト設計の帝国ホテル南側にあった鹿鳴館が取り壊されているのに驚いた。鹿鳴館は日本人が欧米人と交流する高級クラブとして、また来日した欧米人の宿泊施設として明治16（1883）年に建設された建物である。設計は明治10（1877）年に工部大学校（現・東京大学工学部建築学科）教授としてロンドンから赴任した建築家ジョサイア・コンドルで、彼によってわが国の建築教育は発展の礎を築いた。

周知のように、わが国は幕末に來日した米国のペリーの要求に押されて、1854年に和親条約を結び、1858年には修好通商条約に調印、神奈川、長崎、函館の三港を開港した。同様の条約は英仏露三国に対しても締結された。200年以上続いた鎖国の後を受けての開国と条約締結で、幕府の権威は地に落ちる寸前だった。これらの条約は外国人に治外法権を認め、わが国に関税自主権を認めないという、著しく不利な内容であった。これらの条項の是正は明治政府の大きな課題の一つであり、鹿鳴館は条約改正の前提となる日本の文明開化ぶりを欧米諸国に誇示する重要な施設であった。



1. 名古屋 伊藤呉服店、明治初年

現在の松坂屋本店の場所にあった呉服店と本邸。2階は物置と寝室に使用するだけなので、階高は低い。長いのれんの内側に通路と店先がある。

■東京都心の改造計画

立憲君主制国家としてのわが国の憲法は、明治22（1889）年に公布され、元首である天皇の宮殿も完成した。それにあわせて新橋・日比谷・霞ヶ関一帯を首都にふさわしいように街路を整備するとともに、各省庁の庁舎も国会議事堂と同時に新築することが計画された。この都市計画と建築計画は、西欧の新国家として台頭したドイツの有力な建築家エンデとベックマンに委任された。

鹿鳴館の建設と都心の都市計画はいずれも治外法権を撤回させ、関税自主権を回復するための事業であったが、治外法権撤回の条件として外国人の内地雑居と外国人判事の登用を認める外務省案が漏洩して強い反対が起こり、外相は失脚した。それに伴い中央官庁整備計画は、法務省庁舎と最高裁判所庁舎、および中央官庁に準ずる施設として計画された帝国ホテルを除いて工事は中止された。

■博物館と鹿鳴館

鹿鳴館はその後華族会館となり、昭和初期には生命保険会社の所有に変わり、取り壊されたわけだが、谷口博士は鹿鳴館がかつて担った重責を考慮し、この迎賓館にゆかりのある資料を集めて展示する記念博物館として活用すべきであったと当時の日刊新聞紙上に発表し、取り壊しの非を訴えた。

その翌年に勃発した太平洋戦争はわが国の中規模以上の都市を焦土と化し、広島に続いて長崎に原子爆弾を受けて昭和20（1945）年8月に無条件降伏した。わが国の重工業は停止状態だったが、昭和25（1950）年の朝鮮戦争を契機として復活し、平和条約締結後は重工業をてことして経済は復活した。この活力



2. 京都 中井酒造、明治3（1870）年

蛤御門の変（1864年）の戦火で焼失後、再建された。屋根棟の低い部分が作業所で、道路から奥に向かって穀物庫、洗米所、蒸し籠、井戸を配置する。



3. 神戸 海岸通り、明治4（1871）年
開港市の海岸通りには領事館、教会堂、大小の商社が立ち並んだ。特に目立つのは、道路側にペランダを設けた点で、洋風建築の特色とされた。



4. 山梨県 東山梨郡役所、明治18（1885）年
中央棟は1、2階に、平屋建ての両翼は1階にペランダを設ける。壁体の出限は切石を90度ずつ方向を変えて積む工法を、黒漆喰塗りで模倣する。



5. 神戸 山手西洋人住居、明治20年代（1887～96）
昼間は海岸通りの商社で働き、夜は海岸通りを見下ろす山手の住宅で休養した欧米人の住居。ここでは主屋の2側面にペランダを設ける。

を利用して戦後無秩序に再生した都市を、新しい街区に改めるため、各地で公私の再開発事業が活発になり、その影響で戦災をかわり免れた近代建築が取り壊しの危機に見舞われた。

■博物館の開設

鹿鳴館の轍を踏まぬよう谷口博士は、取り壊される予定の近代建築を安全な場所に移築して保存する構想を名鉄の土川副社長に説明し、賛同を得た。土川副社長はこの構想を重役会に諮ったが、承認されなかった。

当時、建築博物館は、昭和31（1956）年大阪府豊中市に開設された日本民家集落博物館だけであった。ここでは各地の伝統的形式を持つ民家5件が移築されていたが、その移築費は民間企業が負担し、維持費も協力する形で開設・運営される公立博物館で、年間6～7万人の見学者を迎えていた。

土川副社長は再度重役会に提案して同意を取り付け、昭和36（1961）年に財団法人明治村を設立した。敷地は名鉄から犬山市郊外、入鹿池の北側にある尾張富士の裾野50万㎡を貸与された。取り壊しに直面している近代建

築の移設申し込みは全国から寄せられた。その受け入れの可否を審議し、移築を指導する責任者を選ぶための建築委員会が昭和38（1963）年に設置され、谷口委員長のもと東工大・東大・名工大・名大・名城大の建築史担当の教授と修復工事の専門技術者を加えて組織された。

三重県庁舎の正門や二重橋鉄橋の飾り電灯など、15件の建造物が完成した昭和40（1965）年に博物館明治村は開設された。大部分の展示建物は外観だけという展示形式であったが、初年度は78万人、2年度は80万人、3年度は117万人、明治100年に当たる昭和43（1968）年には158万人が入館した。その後も入館者は高水準を保ち、昭和40年の開館からバブル経済が破綻した平成3（1991）年までの27年間の平均年間入場者数は120万人、累計は3500万人を超え、展示する建造物も平成3年までに61件に達した。

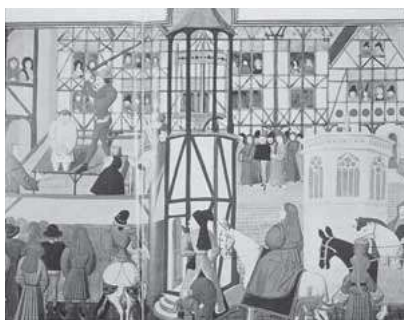
明治村の好評をうけて、リトルワールド、東京ディズニーランド、ハウステンボス、スペイン村などの施設が各地に開設されたこともあり、バブル経済破綻後の平成4年以降入館者数は前年比で約9%も減少を続け、平成

14（2002）年には37万人台になった。幸い平成17（2005）年の愛知万博開催を契機として入館者数は増加に転じ、平成21（2009）年には45万人台を回復し、その後もわずかずつだが増加している。

■文化財保護事業

わが国の文化財保護事業は明治30（1897）年の古社寺保存法を起点としている。封建制の廃止に伴って有力者の保護をうけていた大規模な寺社は収入源を失い、寺宝を売却する窮状に陥った。その救済を目的として国庫からの援助が開始され、重要な寺社は辛うじて破綻を免れた。

困窮に陥ったのは大規模な寺社だけでなく、城郭や大邸宅も維持する経済力がなかった。17世紀初頭に薩摩藩に征服され、明治12（1879）年に沖縄県となった琉球の本島にあった王宮は放置されたままであった。寺社ではないので保護は受けられず、大正末年には危機的状況に陥った。そこで旧王宮の正殿の背後に沖縄神社を創建し、正殿をその拝殿として再利用することにより消滅を免れた。このような事例を考慮し、昭和4（1929）年に古



6. パリ 市庁舎広場、14世紀後半
城壁に守られた西欧の都市では、人口増加に応じて建物は高層化する。ここではすべて木造3階建てで、組積造は有力者の邸宅と重要な教会堂のみ。



7. 神戸 大井牛肉店、明治20（1887）年頃
1階は在住外国人に牛肉を販売する店、2階は牛鍋を提供するレストラン。居留地の洋館に親しんでいるので、洋風の建築装飾をよく消化している。



8. 西宮 芝川又右衛門邸、明治44（1911）年
大阪の豪商、芝川又右衛門が所有する果樹園に建設された洋風の別荘。創建当初は松皮を外装に張ったが、昭和2年に漆喰粗面仕上げ塗りに改装。



9. 東京 鷗外・漱石住宅、明治20（1887）年頃
間もなく医師になる息子のための住宅。玄関間、控の間、客間、主人室の一直線配置は、下僚の訪問をうける江戸時代の中流武家住宅の形式という。

社寺保護法は国宝保存法に改められ、城郭・宮殿・邸宅・茶室・民家なども保護できるようになった。

■近代建築の研究

建造物が国費による援助を受けるには、それに相当する価値をもつことを裏付けねばならない。

西欧の建築史の刺激をうけて、わが国でも明治20年代（1887～96年）から建築の歴史的研究が社寺を対象として開始された。まず古代の社寺の歴史の変遷が研究され、続いて中世が対象となり、戦前（1925～40年）には近世初頭までが研究され、成果が公表された。近世初頭以降は現存する建造物がきわめて多い上に、研究は開始されたばかりで、近代建築の研究はほとんど手付かずのままであった。

戦後は従来の法律を整理充実した文化財保護法が昭和25年に施行された。行政組織も強化され、近世初期以降の民家や社寺の調査・研究も国のイニシアティブで推進された。しかし洋風の近代建築の調査・研究は日本建築学会歴史意匠委員会を拠点とし、村松貞次郎博士を代表とする研究小委員会が全国の研究者に呼



12. 皇居内 内閣文庫、明治44（1911）年
幕府伝来の書籍に明治政府収集の古文書と洋書を加えた図書館。神殿風の中央部の裏に2階を閲覧室とする事務室があり、続いて書庫があった。



10. 京都 聖ザビエル天主堂、明治23（1890）年
フランスの信徒からの資金で建てられたこの聖堂は、建築学を修得後に聖職に転向したパピノ神父の設計で、当時の最も正統なデザインである。

びかけて調査を推進し、成果を学会機関紙に発表すると同時に調査成果の一覧を刊行した。

昭和25（1950）年当時、重要文化財として保護される建造物1057件のうち近代建築はわずか2件であった。谷口博士が移築による近代建築の救済を計画した昭和36（1961）年には保護される近代建築は9件になったが、そのうち2件は戦前から保護されているから、文化財保護法施行以後の12年間に7件増加しただけである。この速度では全国で破壊に直面している近代建築を救済できない。明治村は近代建築研究の進展と国による保護とのギャップを埋める役割を担ったわけである。

明治村に再建される建造物は、昭和41（1966）年度は3件、42（1967）年度は4件と増加を続け、昭和51（1976）年には50件、その後も徐々に増加している。

明治村の保存活動に刺激されて、各地で近代建築の現地保存運動が活発になった。建築学会研究委員会の活動により、研究者も著しく増加し、近代建築の調査結果の発表も盛んになった。明治30（1897）年以後の重要文化財建造物は平成23（2011）年現在で、2381件に及んでおり、毎年約20件増加している。昭和



13. 京都 聖ヨハネ教会堂外観、明治40（1907）年
正面は双塔を持つ三廊式バシリカ、側面は広間式教会堂を思わせるが、1階は日曜学校、2階が教会堂で、双塔内で巡回する階段で教会堂に至る。



11. 京都 聖ザビエル天主堂 堂内
側廊と内陣の窓は鉄製で、その格子にはめたステンドグラスの屋外側に白色塗料で唐草を描き、その外側に透明ガラスをはめて唐草文様を保護する。

25（1950）年には重要文化財建造物1057件のうち、わずか2件が近代建築だったが、平成23（2011）年には2301件のうち284件で、重要文化財建造物全体の12%弱を占めることになった。

■保護建造物の量

私がフランスにおける文化財保護事業の研修生であった昭和30（1955）年頃、フランスの文化財建造物は日本の20倍であった。人口は日本の半分だが国土は2倍もあり、文化国家を標榜する国柄から、文化財建造物が特に多いのだろうと考えていた。登録制の実施に当たって文化庁が作成した冊子によると、1992（平成4）年の時点で国が保護している文化財建造物は、イギリス（イングランドのみ）はわが国の215倍（1993年）、1996年に保護法を施行したアメリカは26倍、フランスは18倍であった。

これはわが国の文化財建造物が質・量共に欧米に比べて甚だしく劣るということではなく、明治30年の古寺社保存法施行以来、わが国は少数厳選主義をとってきたことによるも



14. 京都 聖ヨハネ教会堂 内部
堂内は幅の広い身廊の両側に狭い廊下状の側廊がある広間式教会堂で、割竹製の化粧野地板を、樫と母屋を経由して洋式トラスが支持する。

のである。西欧の古都を訪れた人はどこの町でもその中心部では文化財建造物に出会い、それがかもしだす落ち着いたたたずまいにうたれた経験をお持ちと思う。西欧の町は19世紀まで自衛のために城壁をめぐるしており、安全な市内に住むには高層集合住宅に甘んじなければならない。これらの集合住宅では外観は古風だが内部はしばしば住み易い快適な環境に改修されている。

古い街区の中に新しい建物を組み込む時、必然的に既存の建物との調和を考えざるを得ない。これによって街区は落ち着いた独自のたたずまいを保ちながら徐々に更新されていくのである。このように西欧では国の保護する建造物が都市景観の重要な形成要素になっている点を重視し、尊重するが、フランスでは前大戦以来文化財建造物の周辺保護に法的裏付けを与えている。すなわち文化財建造物から500m以内にあり、その建造物と同時に見える範囲内の建物を増改築する時、その計画案は、文化財建造物を担当している建築家の許可が必要とされている。この措置により文化財建造物を含む景観の質と文化財建造物に対する眺望権は保証されているのである。

■登録制

平成8（1996）年、文化庁は建築後50年を経過した建造物を対象とする登録制を施行した。重要文化財のように厳しい制限はなく、登録建造物を活用するための内部の改造は自由で、外観についても公道から見える範囲の4分の1以下であれば改装自由である。これらの改修工事を実施する場合、国はその設計監理料の半額を補助するほかに、地価税と家屋の固定資産税が軽減される。重要文化財建

造物と比べると、国庫補助は甚だ少ないが、それにもかかわらず登録の申請はきわめて多く、施行してから平成23（2011）年までの15年間で8525件が登録された。重要文化財建造物は明治30（1897）年から現在までの115年間に2381件に過ぎないことを考えると、登録制に託した国民の期待がいかに大きいかがよくわかる。

建築後50年を経過した建造物は、大部分が伝統工法で造られているので、その改修工事には熟練した技術と多額の資金が必要である。補助金の支援がほとんどない登録建造物は維持不能に陥る恐れが大きいと危惧される。しかし重要文化財建造物も登録建造物も国の保護建造物であることから、対外的には欧米諸国と日本との保護建造物の量的比率の差は、画期的に小さくなる。

明治村の近代建築は、消滅に瀕した建物のうちから移築したものであり、創建時の建築家が判明しているケースは多くない。明治村にある65件の建造物のうち、10件は国の重要文化財、1件は愛知県の有形文化財、残りはすべて登録されている。

■その他の展示物

明治5（1872）年に創建され、昭和43（1968）年に再建された鉄道寮新橋工場は水力発電機、旋盤、印刷機、鍛造機、織機、紡績機などを展示する機械館である。ここに展示されているリング精紡機と菊花紋章付平削盤は重要文化財に指定されている。

明治22（1889）年に建設され、昭和41（1966）年に明治村に再建された鉄道局新橋工場は、鉄道記念物である、明治43（1910）年製造の明治天皇の御料車と明治35（1902）年製造の皇后（照憲皇太后）の御料車を展示し

ている。

明治村内には、新橋-横浜間を走っていたイギリス製機関車と、明治45（1912）年輸入のアメリカ製機関車各1輛が、明治末年に製造された客車2輛を牽引して運行している。また、京都市内で使用されていたわが国最古の市内電車が運行されているが、検査のため現在はいずれも休止中である。

明治村は明治宮殿や赤阪離宮（現在の迎賓館）で使用された若干の家具・調度を収容しており、一部は補修して展示している。

■おわりに

明治村は活発な社会教育活動を認められ、平成16（2004）年に寄付金に対する免税の特典を与えられた。阪神大震災で被災した芝川邸の再建には、この特典が大きな力になった。また移築後30余年を経過し、各所で老朽化が進んでいた北里研究所は、北里大学からの寄付を受けて、医学館としての機能を回復した。

重要文化財に指定された10件の建造物と愛知県有形文化財に指定された1件の建造物は、維持・保存工事費の50%の補助金を受けて計画的に維持されている。また旧所有者が社会活動を活発に続けている時は、建物の維持に協力していただけることが多い。それ以外の場合、展示建物や展示物の維持管理費はすべて入館料でまかなわねばならず、寄付金に対する税金控除の特典があっても、修理資金の調達は残念ながら容易ではない。

近代建築救済の目的で開設された博物館明治村はまもなく50年を迎える。その意義が広く理解され、ますます発展するよう希望する。

（いいだ きしろう）



15. 東京 帝国ホテル中央玄関、大正12（1923）年
20世紀を代表するアメリカの建築家フランク・ロイド・ライトが設計し、昭和43（1968）年に解体され、同60（1985）年に再建された中央玄関と前庭の池。



16. 東京 帝国ホテル中央玄関 内部
車寄せ・ロビー・ロビー・ラウンジと床を順次高くして視界を変化させると同時に、異なる用途の空間を床高さと明暗の変化によって区画する。



17. 清水市 西園寺公望別邸「坐漁荘」、大正9（1920）年

政治の第一線から引退後、興津の海浜に建てた別邸。旧東海道沿いの門に入って玄関と主屋に至る。大小・高低の瓦屋根が美しい景観をつくる。

「足助」に建築文化の 遺伝子を探る

愛知工業大学 松本研究室

松本壮一郎・青木良太・
阿部晃尚・岡島昌利・渡辺泰平

■足助の歴史

足助は、2005年4月1日に近隣の藤岡町、小原村、旭町、稲武町、下山村と共に豊田市に編入された、紅葉で有名な香嵐溪がある観光の町である。平成の合併により、車の町、豊田市に合併されたものの、江戸、明治の面影を今に残す山間の町である。

足助は三河から信州を結ぶ伊那街道（中馬街道）の中継地であり、物資の運搬や庶民通行の要所として栄えた宿場町であった。1775（安永4）年には大火事に見舞われたが、今も町並みには江戸時代中期から明治末までに建てられた建物が全体の34%を占め、また大正期や戦後の建築物にも伝統的な様式が残っており、古い町並み景観が形成されている。

1991（明治44）年、名古屋市内から直接、岐阜、長野に至る国鉄中央線の開通により、物資輸送基地としての機能は衰退したが、宿場町の足助の景観がいまでも残る理由には、林業や養蚕業の流通地として、また巴川兩岸に植樹された数千本のカエデの紅葉が広く県民に親しまれ香嵐溪の観光地として、旧東加茂郡の中心として長く栄えたこと、更に、1977（昭和5）年に足助大橋が建設され、県道飯田街道が国道153号として整備され、足助の町並みが主要道路からはずれていったためと思われる。

2010年、県下初となる文化庁の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。「住み続けるまち」「地元で育った者の目線で建物を残すまち」をめざす。町の再生、活性化をめざして建てられた「足助屋敷」「百年草」と古い町並みに、受け継がれ活用されている建築文化の遺伝子を探った。

三州足助屋敷

1980年に開館し、敷地内には茅葺屋根の長屋門・母屋・土蔵・作業小屋が並ぶ観光施設だが、周囲の山村と共に懐かしい昔の農家の暮らしや風景を思い出させる。また、近くに住む老人たちが、水車による脱穀、農具や馬蹄を作る鍛冶、機織り、炭焼き、紙すきなど数多くの手仕事を実演しており、伝統技術の伝承を目的としている。設計、浦辺建築事務所、1980年中部建築賞、2006年第五回「むらの伝統文化顕彰」農林水産大臣賞等を受賞。



百年草

百年草は、香嵐溪や足助の古い町並みから少し離れているが、宿泊施設や温泉、レストラン、ハムやパン工房などの施設と介護サービス施設を備え、観光と福祉を複合した新しい形の施設である。足助屋敷を契機に、生まれ育った共生（＝健常者も弱者もともに生き、自ら積極的に参加していくこと）を理念に、元気・生きがい・快適サービスを3つの柱として事業を展開した旧町時代の施設である。今後も観光とともに、高齢者や子ども、地域の人々の交流の場として活用されると思われる。設計、浦辺建築事務所、1993年中部建築賞、1993年愛知まちなみ建築賞等を受賞。



■足助重要伝統的建造物群保存地区

①妻入や平入の混在

街道に直行して短冊状に区画割された敷地に妻入と平入の主屋が混在して立ち並ぶ。主屋の背後には土蔵や離れなどの付属屋が主屋と直行して建てられている。この変化ある景観は足助の町並みの特徴といえる。



②川沿いの石垣・石組み階段と家並み



川岸に石垣を築き付属屋の屋敷尻が川に張り出すように建てられ、限られた空間を有効に活用するために地下階が設けられている。石組み階段と共に生活と川とを繋ぐ足助独特の景観を作り出している。



③白壁と黒板張りのコントラストが映えるマンリン小路



高台に建つ宗恩寺への参道は漆喰塗籠の壁や下見板の仕上げがされており、印象的な建築が並ぶ。歴史を感じる坂道はマンリン小路という愛称で親しまれ、足助を代表する景観の一つとなっている。

■足助に受け継がれる意思

足助には、歴史と現代を生き抜こうとする遺伝子が流れている。その中でも歴史が古く、現代でも活用されている建築物2作品を紹介する。

④豊田市足助中馬館

大正元年11月に建てられた、今は数少ない明治から大正にかけての地方銀行社屋の典型的な建築物。時代の流れと共に銀行は閉鎖したが、銀行というディテールは残したまま、博物館、足助中馬館として利用され、商業、金融、交通、町並み等の資料を集め、保存、展示している。地方での経済を担っていた銀行だけあって、金庫を生かした展示や二階にある回廊が歴史を感じさせ、重厚な空間を作り出し、内部、外部ともに足助の町並みの象徴となっている。



⑤マンリン書店

町が栄えていたころ呉服屋の蔵として使われていたが、人々の着物離れや、物資輸送基地としての町の衰退により、蔵のスペースを活用して本と文具手芸道具の店をオープンしたのが始まりで、その後、書店とギャラリーの店へと変わっていき現在の風貌を生み出した。外装の躯体はもともとあった蔵そのものだが、内装を現在の用途に変え、リノベーションさせている。

(愛知工業大学工学部都市環境学科建築学専攻
松本研究室)



遺伝子の活用事例を探る



「円頓寺」「四間道」「白壁」に 建築文化の遺伝子を探る

愛知工業大学 松本研究室

松本壮一郎・永井里奈・小川枝里子・
近藤美希・服部亮子・松浦宏美



高層ビルが立ち並ぶ名古屋駅周辺と名古屋城の間にある「円頓寺・四間道」界隈は、さまざまな建築文化にみる遺伝子にあふれている。産業技術記念館やノリタケの森といった文化施設はもちろんのこと、下町情緒たっぷりの商店街、蔵や長屋が残る町並みがある。江戸、明治、大正、昭和、それぞれの時代の面影を残している施設や風景に、建築文化の遺伝子を探ってみた。

円頓寺商店街

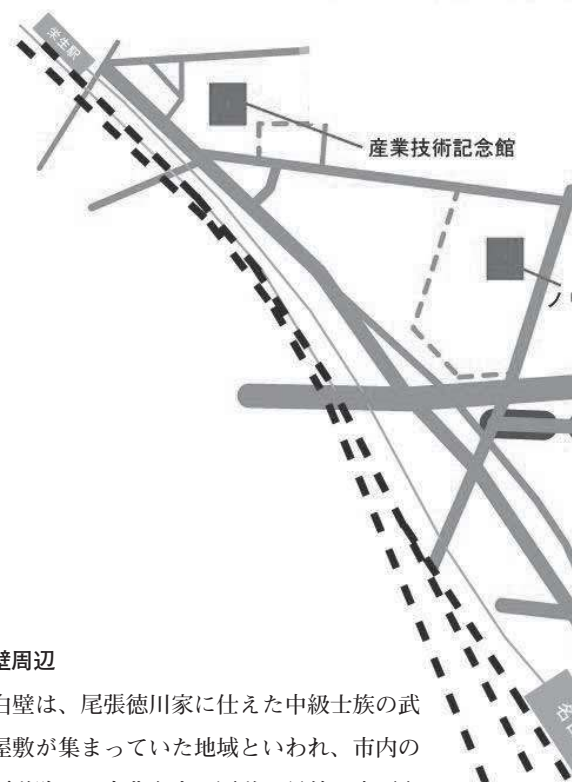
円頓寺商店街は、栄のような賑わいは感じられないものの、人々が生き生きと暮らしているという印象を受けた。商店街の中には、一階の空き店舗を若い経営者に譲り、店舗部分をリノベーションした物件が点在している。貸店舗の二階は既存の住宅のまま利用されており、昔からの住人と若い世代が入り交じった不思議な空間となっていた。古くからの商店も今なお現役で、若い世代の商店と共に再び賑わいを取り戻そうとしている。



産業技術記念館

産業技術記念館は、トヨタグループ13社が共同して、トヨタグループ発祥の地である、旧豊田紡織本社工場跡に残された建物を貴重な産業遺産として生かし、設立したものである。

近年、生産活動が高度化するにともない、「モノづくり」を見る機会が少なくなってきた。次世代の若者たちに、少しでも「モノづくりの」大切さを理解してもらうための最適な場所となっている。



白壁周辺

白壁は、尾張徳川家に仕えた中級士族の武家屋敷が集まっていた地域といわれ、市内の主要道路で、南北を走る国道41号線と東西を走る出来町通に囲まれた地域に広がっている。明治時代には工場も建てられたが、大正時代に入ると企業家の邸宅が建てられるようになった。

名古屋市によってその面影を残そうと、「白壁・主税・榎木町並み保存地区」に指定され、文化のみちの中核とされている。

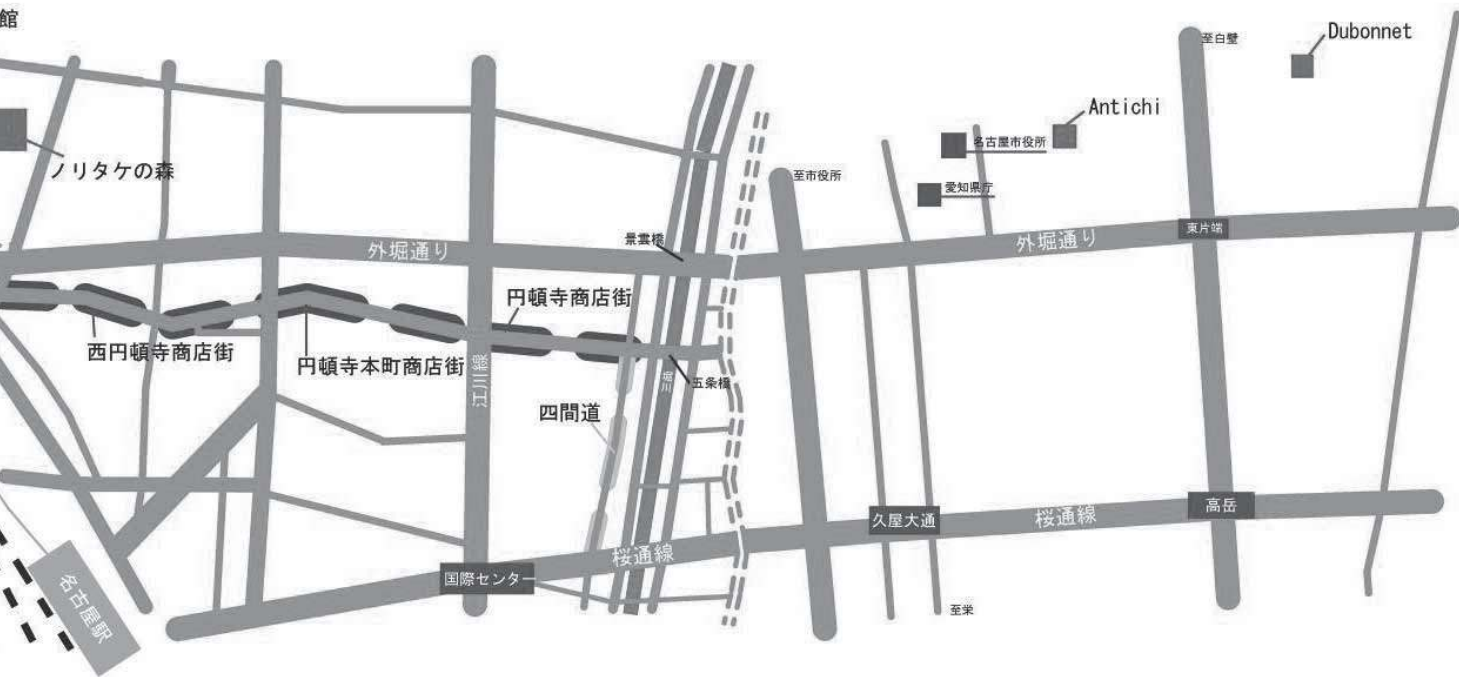
また平成17年、文化のみちの拠点施設として「二葉館（日本の女優第一号として名を馳せた川上貞奴と電力王と言われた福沢桃介が共に暮らした家）」が移設、復元され、周辺には民家やお屋敷を改装したイタリアンやフレンチのお店ができ、大正時代の建築様式を今に伝えている所が増えてきている。



ノリタケの森

ノリタケの森は、2001年にノリタケカンパニーリミテドの100周年記念事業としてオープンした。体験施設やギャラリーがあり、広場は名古屋駅からほど近い市民の憩いの場となっている。

明治時代に建てられた赤レンガ造りの工場や、改修されて記念館となった建物のおもむきは、発展する名古屋駅周辺の町並みに歴史的な雰囲気を加えている。



四間道

元禄13年の大火の後、防火の目的や商売活動のために、当時としては広い4間（7.2m）の幅に広げられその名がついたといわれている。道をはさんで東側には蔵が、西側には民家が建ち並ぶこの独特な景観は、名古屋市の



町並み保存地区に指定されている。最近では、外観は昔の面影を残して内装を改装した古民家カフェや雑貨屋などが建ち並び、若い世代の人々に親しまれている。



調査を終えて

現代に生きる私たちは、普段の生活の中で歴史を感じることがあるのだろうか。そんな日常生活では感じるできない建築文化の遺伝子を探ってみた。

数々の遺伝子たちは、今もなお昔の面影を残し、現代の風景に影響を与え、生き続けている。それにより世代を超えた交流が生まれることを願っているようにも感じた。

これからも、そんな地域をもっと多くの人々に知ってもらい、受け継がれていくことを願う。

(愛知工業大学工学部都市環境学科建築学専攻 松本研究室)

自然光を巧みに取り込むやさしい形態の診療空間 みなと医療生活協同組合高畑生協診療所 名古屋市中川区

竹中工務店設計部
市川健二・吉村茂久・中村幸恵



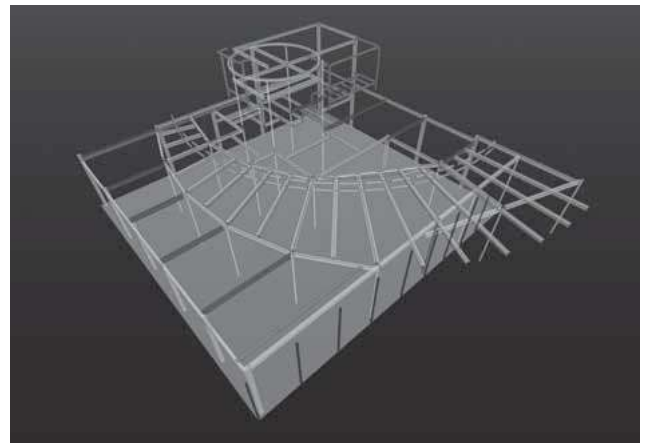
来所者を迎え入れる特徴的な大庇



待合室には明るい自然光が満ちる

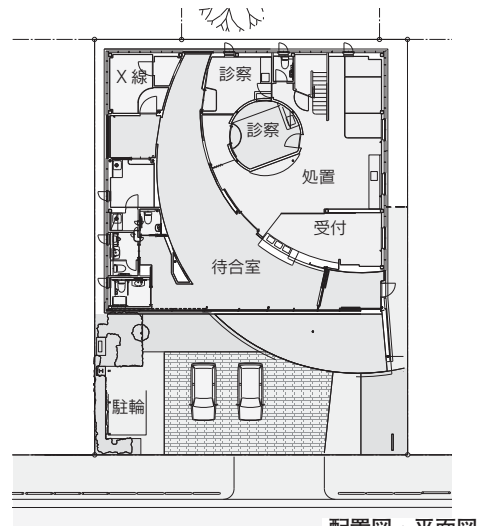


自然木仕上げの曲面壁にトップライトからのやさしい光が差し込む

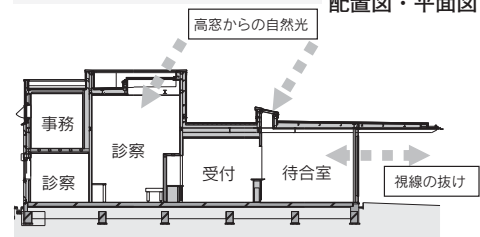


住宅地に建つこの診療所は、小規模の平屋建物であるが、曲線を取り入れたプランニングと大きくはね出した庇により、街並みにやさしい建築形態を提供し、地域医療の中心となることを意図している。正面の全面ガラスを介して、待合室と外部が一体となり、地域住民に開放された建物として街との交流を生み出す。

間伐材の木仕上げ壁とした待合室壁面には、上部に設けられたトップライトからの自然光が差し込み正面ガラススクリーンからの光と合わせ、昼間照明の不要な明るい空間としている。夜間には、トップライト部から降り注ぐ光により、待合室・大庇そして内部のアクティビティーがまちなみに浮かび上がる。



配置図・平面図



断面図



照明により浮かび上がる建築形態

中庭・テラス・庇による環境配慮型の校舎 北名古屋市立師勝中学校 北名古屋市

東畑建築事務所 名古屋事務所
野口史剛



多目的ホール



風の塔：階段と教室前の廊下



教室前のテラス

中学校の耐震補強工事に伴う増築校舎部分の計画である。

増築校舎は、北側に隣接する住宅への配慮から、既存校舎において階段や特別教室が張り出していた構成の見直しを行った。中庭と階段および多目的ホールを中心に北側に特別教室、南側に普通教室を配置し、屋上や南面に緑化テラスを設ける構成とした。

快適な環境の確保とともに省エネルギー性能の向上をめざし、下記のようなパッシブデザインの手法を用いた。

1. 普通教室前のテラスに、深い庇や縦ルーバーを設け日射調整とともに気持ち良い半屋外空間を確保。
2. 2層吹抜けの多目的ホールにてOMソーラーを用いた床暖房の採用。
3. 中央の階段を利用した自然換気システムの設置。

今年の夏は節電のために、企業から一般の方々まで様々な省エネの工夫が行われた。

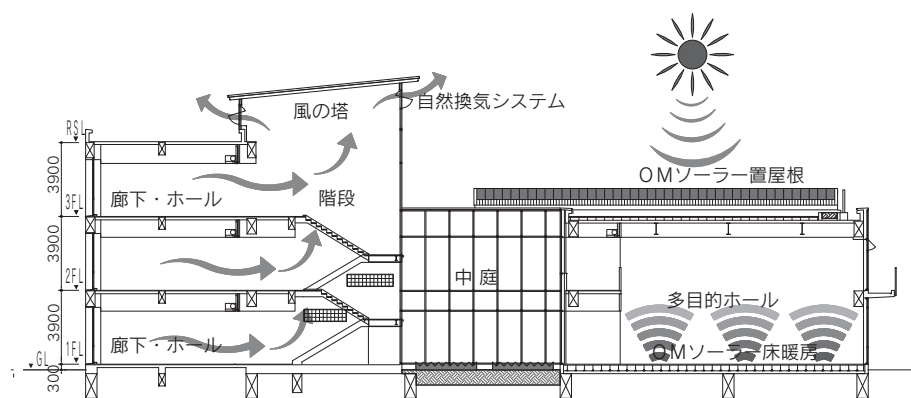
師勝中学校では、日射調整・断熱性の確保や自然換気システムによる風を感じることで一定の効果は出ていたが、より一層の快適性を求めて先生方より相談があった。話し合いの中で、新築校舎の特徴である屋上のテラスや教室前テラスに比較的容易に水まきができることに気が付き、緑化とともに水撒きの工夫をしていく事になった。

今回の計画では、ハードとして設計者側で考えた省エネルギーに対する建物の工夫と、ソフトとして建物を利用する先生方の工夫により、快適な環境を確保しながら省エネと節電に努めることができたと感じている。

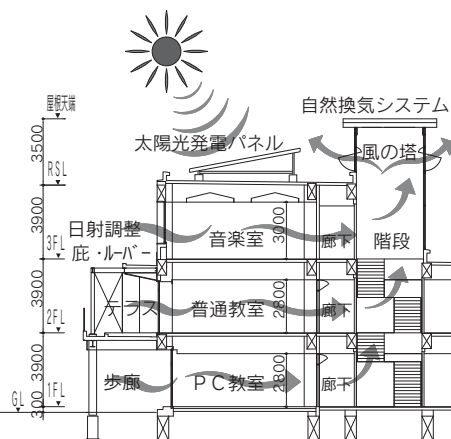
省エネ性能を建物ハードで確保しつつ、建物を利用したり生活を行う方々と協同することで、より一層の省エネ・節電の工夫ができる大切さを設計者として学ぶことができた。



増築校舎全景



東西方向断面



南北方向断面

ハイブリッド空調と連動した「呼吸する外装」 トヨタ紡織 猿投開発センター2号館 愛知県豊田市

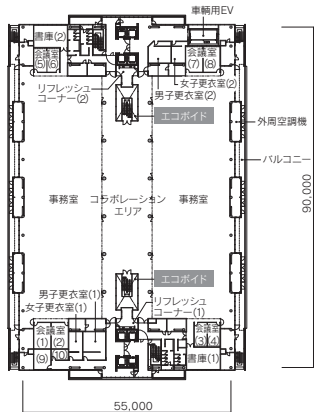
日建設計
佐竹一郎



環境性能と建物デザインの統合をめざしたスマート・ファサード



屋上階で自然採光と換気を行うエコボイド



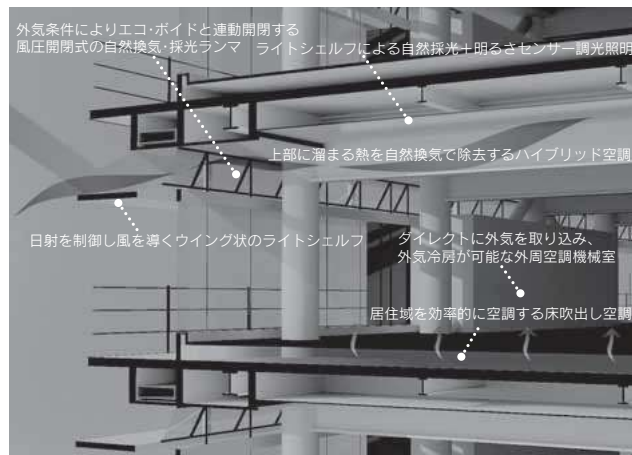
基準階平面図 縮尺1/2000

90m×55mの基準階をもつオール電化メガフロア・ワークスペースで、建築と設備システムが一体の環境技術を多数採用し、既存棟と比べて電力消費量75%削減となる756MJ/m²・年（年間実積値）の卓越した省エネを実現した。

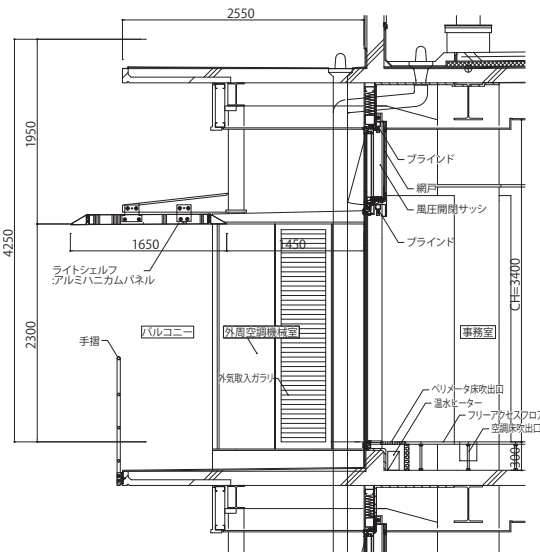
奥行き深いバルコニーとライトシェルフ、屋上階のエコボイドと連動開閉する自然換気窓により、ワークスペース全体に、快適な自然の光と風を取り込む計画とした。

空調機械室をバルコニー側に配置し、外気条件や内部負荷に応じて自然換気、外気冷房と床吹き空調をスマートに切替えるハイブリッド空調と外装デザインを統合し、自律的に「呼吸する外装」としている。

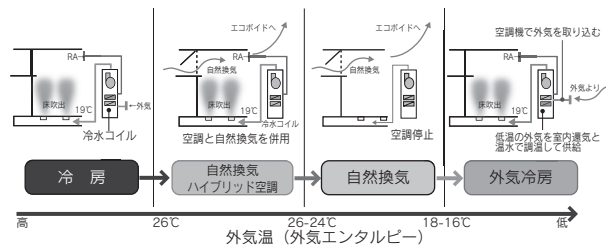
ライトシェルフは日射利用と遮蔽に加え、外気を効率的に導入する整風効果を持つ。天井内のダクトを一切無くし、天井高3.4mを確保して蓄煙による避難計画とした。バルコニーは日射遮蔽以外にメンテナンス、避難にも利用する。



自然の光と風を取り込む窓廻り



窓廻り詳細図 縮尺1/80



シームレスに運転方法を切替える自然エネルギーハイブリッド空調

- ①冷房 : 外気エンタルピー≧室空気エンタルピーのときは、冷房運転を行う。
- ②ハイブリッド冷房 : 外気エンタルピー≦室空気エンタルピーのときは換気窓を自動で開け、冷房しながら自然換気を行う。
- ③自然換気 : さらに外気エンタルピーが下がると空調が停止する(送風運転になる)
- ④外気冷房 : 外気温≦18℃の場合に、換気窓を閉め、空調機で外気を取り入れ外気冷房運転を行う。

日射を調整し、街並みに華やぎを与えるルーバー JAあいち中央 知立支店

愛知県知立市

安井建築設計事務所
川井茂輝



企業のイメージ玄関と変化に富んだ道路側の対比



弧を描き街並みにいどりを添えるルーバー

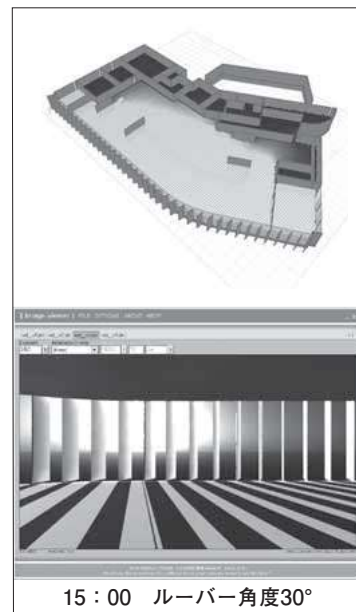
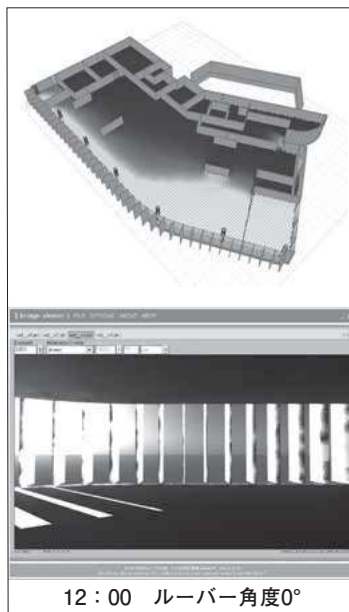
ゆるやかにカーブする見通しの良い変形交差点に立地する銀行店舗である。市役所直近でありながら、どこか寂しげな既存風景に、活力と華やぎを付与する仕掛けとしての役割をこの小さな建物に期待した。

全体構成としては、片面にイメージカラーを添え、段階的に角度を変えた日除けルーバーを道路曲線になぞらえつつ、連続配置させる形としている。これにより車両スピードでも認知しやすい躍動感を創出するとともに、眺める季節や時刻により、光と影、形態のグラデーションが織り成す深みのある表情づくりを意図した。

ルーバーは西日対策として日射量を低減し、環境負荷の低減を図るとともに、窓口スタッフの西日の影響を低減するために、時間とルーバー角度の様々な組合せのシミュレーションを行い決定している。

地域との一体化を大切にする事業主にも協力いただき、内外装を含めて交差点に向けて市のイメージづくりを重視した景観形成が実現できた。

光の分布と室内の様子



角度を変えながら日射を調整するルーバー

神戸市都市デザイン賞の表彰制度

磨家孝明

神戸市都市計画総局計画部まちのデザイン室主査

神戸市では、「デザイン都市・神戸」を推進する一環として、神戸らしい魅力ある景観やまちなみをまもり、そだて、つくる取り組みを進めている。

これまで、優れた建物やまちなみ、景観などを表彰する制度として、「神戸市建築文化賞」（昭和48～平成16年度、9回実施）と「神戸景観・ポイント賞」（昭和61～平成21年度、22回実施）が行われてきた。

今回、神戸らしい魅力ある空間・環境を形成している建築物等を表彰することにより、「デザイン都市・神戸」に対する市民及び事業者の理解と意識の向上を図るため、従来の「神戸市建築文化賞」「神戸景観・ポイント賞」を発展させ、「神戸市都市デザイン賞」を平成23年度に新たに創設した。

第1回神戸市都市デザイン賞の実施

本賞では、神戸らしい景観やまちなみを形成している建築物などを表彰する「まちのデザイン部門」と、環境に配慮された優れた取り組みを行っている建築物などを表彰する「CASBEE建築部門」の2部門を設けた。

対象

■まちのデザイン部門

◇神戸市内の建築物、工作物、土木構造物、屋外広告物など

◇神戸らしいまちなみ、オープンスペース、植栽など

◇既存建築物を転活用・改修した建築物

◇美しいまちなみを形成または保全する取り組みを行っている団体

■CASBEE建築部門

◇おおむね最近3年以内に完成した神戸市内の建築物で、環境配慮等の取り組みを行っているもの（神戸市建築物総合環境評価制度又は神戸市すまいの環境性能表示で定める基準による評価が必要）

選考のポイント

神戸らしい優れた景観・まちなみの形成や地球環境への配慮等の優れた取り組みにより、市民に親しまれ、新たな魅力や価値を生み出している建築物等を表彰する。

選考のポイントは、①海、河川、山並み等の自然環境を考慮しているもの②伝統的なまちなみに配慮しているもの③賑わいのあるまちなみを考慮しているもの④まちのシンボル、ランドマーク的存在となっているもの⑤共同化や協調化によって、建物が新しいまちの景観を創り出しているもの⑥住民等のまちづくり活動によって美しいまちの景観を創り出しているもの⑦美しいデザイン（空間構成、斬新性、独創性等）⑧周辺と調和、あるいは建築物と一体的にデザインされ、まちなみに配慮された屋外広告物や案内サイン等⑨わかりやすく見やすい屋外広告物や案内サイン等⑩ユニバーサルデザインに配慮されたもの⑪高度な技術、最先端の技術（構造、設備、構法等の先進性）を用いた建築物⑫地球温暖化対策、省エネルギー

第1回神戸市都市デザイン賞受賞作品と表彰式・記念講演会

■まちのデザイン部門

■建築文化賞

・神戸国際中学校・高等学校河野記念アルモニホール

■景観・ポイント賞

・地 chickenBAR ひなのや
・すまうら文庫
・京速コンピュータ「京」レセプタクル モニュメント「発展の塔」

■ストック再生賞

・海外移住と文化の交流センター



神戸国際中学校・高等学校 河野記念アルモニホール



地 chickenBAR ひなのや

の工夫等により、環境配慮の点で特に優れた取り組みを行っているものとなっている。

選考経過

表彰対象は、市民から推薦のあったもの等の中から選考委員会の選考を経て、決定した。

- ・募集期間／平成23年7月1日～8月31日
- ・応募件数／まちのデザイン部門 73件、CASBEE建築部門 39件
- ・選考方法／学識経験者10名から構成される選考委員会（委員長：三輪康一〈神戸大学大学院工学研究科准教授〉、副委員長：岩前篤〈近畿大学理工学部教授〉）を設けて選考を実施した。選考委員会では、部門ごとに選考部会を設け、一次選考は、各部門の選考部会で選考を行い、二次選考は、選考委員会（平成23年11月29日）で実施し、最終的に10件の受賞作品を決定した。（まや たかあき）

●磨家孝明

1964年生まれ。京都大学工学部建築学科卒業。昭和62年に神戸市役所入庁。平成23年度に都市計画総局計画部まちのデザイン室に配属され、都市景観に関する施策の推進を担当。

■市民活動賞

- ・鉄人28号モニュメント
- ・神戸元町まちなみコンテスト

■CASBEE建築部門

■CASBEE建築賞



シスメックステクノパーク R&Dタワー

- ・シスメックステクノパーク R&Dタワー
- ・アシックス本社東館
- ・シティアンダンテ学園東町 VC-4号地、VC-8号地

表彰式に合わせて記念講演会を開催するとともに、受賞作品をホームページやパンフレットで広く紹介し、さらなる普及啓発・意識の向上を図っていきたいと考えている。

なお第1回神戸市都市デザイン賞の表彰式・記念講演会は、2012年2月12日に神戸市立博物館で開催され、(株)studio-L代表の山崎亮氏の「これからの都市デザイン」と題する講演も行われた。

正導会教団神野修行所の 構造設計

熊野豪人

(株)竹中工務店大阪本店設計部構造部門主任

本プロジェクトは、宗教法人正導会教団の修行所として計画された。1階に集会室等の諸室、2階に蓮の葉をモチーフにした大屋根(写真1)で覆われた20m×30mの無柱の大空間となる修行場・祭壇を設けている(図1・2)。

建築主の要望である「薄くうねりを持った蓮の葉が、浮かぶように信者を覆う木陰の修行所」を実現するために、①空と大地の間に薄く浮かぶような屋根と修行の床②自然と光に包まれた温かな木質の修行空間③修行場を支える重厚な基壇—をデザインコンセプトに定め、建築計画と一体となった構造計画が求められた。

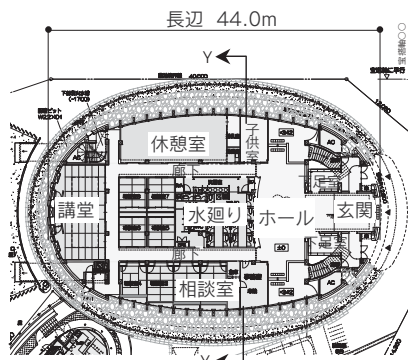


図1 1階平面図

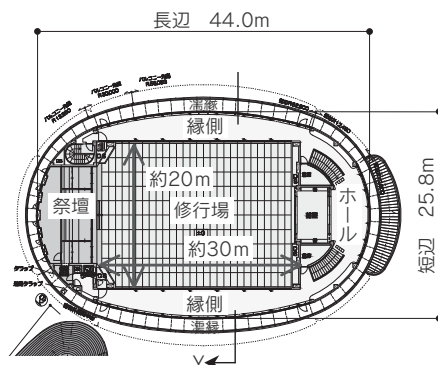


図2 2階平面図

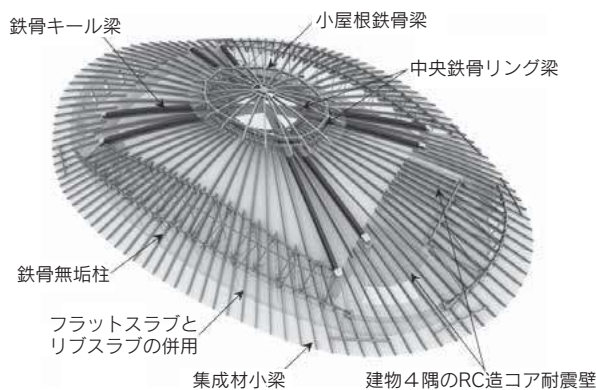


図3 屋根架構バース

●建築概要

建築地 : 兵庫県加古川市

規模 : 地上2階

延床面積 : 約1,998.16㎡

設計施工 : (株)竹中工務店

構造種別 : RC・S・W造

工期 : 2010年11月～2011年11月

構造計画概要

木造・鉄骨造・RC造それぞれの特性を生かしたハイブリッド架構計画の要点と、主要部材の役割をまとめる。

1) 屋根架構計画

蓮の葉の葉脈にあたる部分に鉄骨キール梁を、4隅のRC造コア耐震壁を結ぶ形で配置することにより屋根全体の鉛直・水平剛性を確保している。また、鉄骨部材から吊り下げ支持した集成材小梁を3次元曲面に合わせ放射状に配置することにより、薄く浮かぶような屋根を実現している(図3)。

屋根の対角スパンは35m程度となるが、キール梁を鉄骨造とすることで梁せいを集成材小梁と同等の600mmで抑えている。鉄骨キール梁端部にはスラスト力が作用するが、建物4隅のRC造耐震壁で梁端部を支持することにより、アーチ効果を最大限に発揮している。また、うねりを持った屋根面剛性を木造部材だけで確保するのではなく、対角に配置した鉄骨キール梁に屋根面水平ブレースの効果を持たせることで、強度と剛性を確保している。集成材小梁は修行場内部に露出して、屋根面のうねりを表現する仕上材を兼ねることで、温かみのある空間を実現している(写真2)。

また、中央鉄骨リング梁、鉄骨水平トラスで集成材小梁を吊り下げ支持することで、集成材小梁の鉛直・水平変形を拘束している。

2) 下部架構計画

建物4隅のコア部分にRC造耐震壁をバランス良く設けることで、耐力と剛性を確保した重厚な基壇を構築している。修行場外周部には、屋根鉛直荷重のみを負担する直径120mmの鉄骨無垢柱を配置して、修行場の開放感と屋根の浮遊感を強調している。鉄骨無垢柱の頂部にはRC造コア耐震壁間を結ぶ水平トラスを架け渡し、水平剛性を確保している。

また、2階床にフラットスラブを採用することで2階床厚を最小化し、修行場の床が大地に浮かぶ外観を実現している(図4)。

おわりに

複雑な屋根架構を実現するために、建築主と設・構・備および作業所が、基本設計段階から協業し、一体となって「ものづくり」に取り組むことで、関係者全員の「想い」が「形」となった素晴らしい建築が実現できたと考えている。(くまの たけひと)

●熊野豪人

1975年生まれ。2000年大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻修了。2000年株式会社竹中工務店入社。



写真1 建物外観



写真2 修行場内観

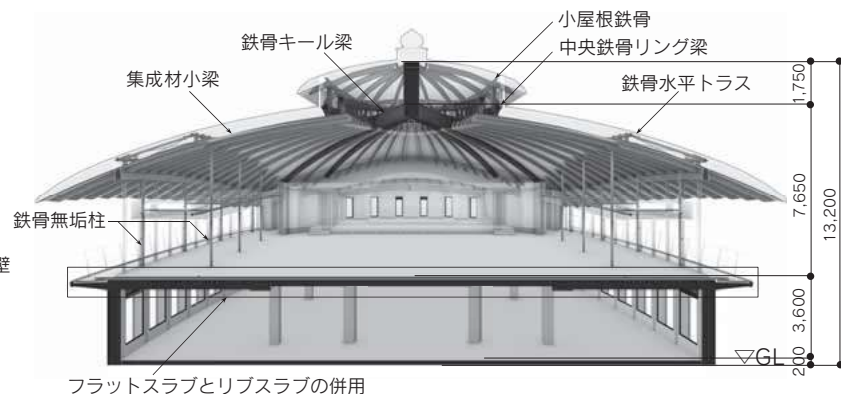


図4 架構断面図

玉置 順

—TAMAKI JUN—



「深川不動堂」にて

経歴

1987年 近畿大学工学部卒業
 1989年 近畿大学大学院修士課程修了（古谷誠章研究室）
 1989-91年 鈴木了二建築計画事務所（東京）
 1992-95年 根岸一之建築設計事務所（京都）
 1996年 一級建築士事務所 玉置アトリエ 設立

作品

トウフ、ハカマ、ラッパ、コムサ、深川不動堂 他多数

受賞

第3回関西建築家新人賞受賞
 けいはんなプラザ広場国際設計競技 最優秀賞（箕原真氏と協同）
 岐阜県立南飛騨国際健康保養施設設計競技 入賞 他

「アイデアの宝庫」

多くの参拝者が新本堂外陣の階段椅子に腰を掛けてくつろいでいる。話し声や笑い声、小さな子供がはしゃぐ声。リラックスした雰囲気。

しかし、厳かな鐘の音とホラ貝の音が響きわたると、その空気が一変する。真言密教の秘法、護摩修行の始まりである。

心臓を揺さぶる凄まじい太鼓の音。僧侶が唱える不動明王の御真言。暗がりの中、護摩の火は真っ赤に燃え、煩惱を焼き尽くす。火の粉が舞いあがる。その迫力に圧倒され、呆然とする私に、玉置氏が笑顔で話しかける。「頭が空っぽになったでしょう?」

成田山東京別院深川不動堂。建築家・玉置順がその新本堂の設計に着手をしたのは6年前のことである。当時の本堂で、初めて凄まじい護摩修行を見た。新本堂を設計することへのプレッシャーは、並大抵ではなかったはずだと想像するのだが。「大事なものは御経であり、太鼓であり、炎。内陣の配置も決まっている。それらをただ大切に移動しただけ。シンプルな話です」。

それでは、新本堂は旧本堂の単なるコピーなのかというと、全くそんなことはない。玉置氏のアイデアが随所にちりばめられている。旧本堂との床のレベル差が、階段状の椅子席の外陣（参拝者席）として再構築され、内陣へのバリアフリーも実現。一万基のガラスの五輪塔が並ぶ「祈りの回廊」。これもバリアフリーのスロープとして機能する。内陣上部には、氏曰く「ブラックホールと浮かぶUFO」。旧本堂では天井裏に隠れていた巨大な金色の天蓋が、黒く塗込められた吹き抜けの中にその全貌を現した。この吹き抜けは、残響時間をコントロールする音響装置として機能し、玉置氏が空間造形としてこだわり続ける「壁の厚み」を表現する。木造の旧本堂を江東区の有形文化財に指定してもらうことで、新本堂の増築が法律上可能になったという話もある。新本堂は玉置氏のアイデアの宝庫だ。圧巻は、この建物の代名詞ともいえる梵字壁。「勾配屋根に銅板葺」ではない建物をいかにして真言宗寺院の本堂として成立させるか。不動明王の24字の御真言。玉置氏はその尊い祈りの言葉そのもので建物を包みこんでしまった。「矩形の外観に懸念されていたお寺の皆さんに大賛成していただきました」。

6年間注ぎこまれた情熱は凄まじい。不動明王がこの建築家をここへと導いたのではないか。ふと、そんな風に考えたくなる。

「関西を意識することは全くない」

玉置アトリエは、京都府宇治市にある。実は玉置氏が生まれ育った実家であり、ここを拠点として独立して15年。わざわざ都心に新たなアトリエを構えるつもりはない。「家賃を払うために、たくさん仕事をする。そんな風にはなりたくないのだ」。すべてが特別ではない、当たり前の環境。設計活動以外に頭を悩ませることがない環境の中、独特のアイデアから独創的な玉置建築が世に姿を現す。「関西」を特別に意識することはなく、グローバルに活動する。関西の建築家の幸福な有り様とは、このようなものなのかもしれない。

聞き手 久下武彦（日建設計）
 写真撮影 河合止揚

大阪市立工芸高等学校

(旧・大阪市立工芸学校本館)

和田 康由

再読 関西近代建築

モダンエイジの建築遺産

■大阪市立工芸学校の誕生とその背景

大阪市立工芸高等学校の前身、大阪市立工芸学校が創立した大正末期から昭和初期にかけては、教育の歴史の面から「教育の振興の時代」だといわれている。学校建築も地震、台風などの災害対策のために木造から鉄筋コンクリート造への建て替えや新築が求められていた。日本建築協会はそうした社会の潮流を受けて、機関誌『建築と社会』に昭和4年と同8年「学校建築特輯」を行い、その特集が好評で、さらに単行本として『学校建築図集』（同5年）、『続学校建築図集』（同9年）を発行して学校建築の啓発に努めていた。

大正10年2月、大阪市議会において中等実業学校の増設が可決され、これによって学校の設置が具体化する。同11年2月、議案第76号大阪市立工芸学校ノ校地選定ノ件が出され、位置は大阪府東成郡天王寺村大字天王寺字西野々で、広さは約3904坪であった。同11年2月議案第77号、工芸学校学則制定ノ件が出される。それは全26条で構成され、工芸の創立目的は、第1条「本校は工業学校規程に依り工芸に従事する者に須要なる智識、技能を授け兼ねて徳性の涵養を為すを以て目的とす」とあり、第2条「学科を分ちて金属工芸科、木材工芸科及工芸図案科とす」、第3条「修業年限は各科5箇年とす」、第26条「本学則は同12年4月1日より之を施行す」とする。

大正11年6月29日、文部省告示第478号を以て工業学校規定に依り大阪市立工芸学校を設置し、同12年4月1日より開校の認可を受けて、大阪ではじめての工芸教育の本格的な学校として誕生した。学校運営は新校舎竣工

までの間、大阪市立泉尾工業学校（同10年9月13日創立）内を仮校舎として使用することになった。

これは、同8年（1919）ザクセン大公立工芸学校（明治39年竣工）とザクセン公立造形美術大学校を統合したヴァイマル国立パウハウス（以下パウハウスと呼ぶ）が誕生したのと同時期である。我が国でパウハウス以後に誕生した学校名で「工芸」を冠たる名称とする学校を探ると、大阪市立工芸学校と東京高等工芸学校がある。東京高等工芸学校は、同10年勅令第456号を以て文部省直轄所官制を改正し、設置を公布され誕生した。同校は、東京での入学試験とは別に大阪高等工業学校（明治29年10月創立、同34年改称）と大阪市立泉尾工業学校でも入学試験を施行しており、大阪市立工芸学校との接触が当初からあったと見てよい。大阪市立工芸学校工芸図案科で「パウハウスの理論」などの教育に大きな足跡を残した山田外夫、山口正城らは、東京高等工芸学校工芸図案科を大正末に卒業しており、この点からも両校の親密な関係を窺い知ることができる。

■大阪市立工芸学校本館の建築について

大阪市立工芸学校を知る手がかりには『青図の図面15点』『大阪市立工芸学校一覧（昭和3年6月1日現在）』『昭和貳年十月 建物台帳』などがある。本館は、昭和46年2月大阪市と日本建築学会近畿支部が行った「大阪市近代建築物調査」で報告された約55棟の1棟に選ばれるまで、建築関係の専門誌には一度も採りあげられていなかったが、この『報告



①旧大阪市立工芸学校本館（現状）

所在地	大阪市阿倍野区文の里1丁目7番2
設計	大阪市営繕課
施工	不詳
竣工	大正13年9月25日
構造	鉄筋コンクリート造、小屋組鉄製トラス、壁体・外壁仕上げ煉瓦積み
規模	地上3階
種別	学校



②旧本館創立時



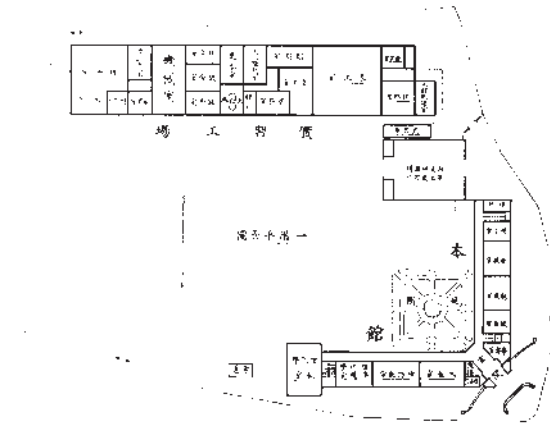
③東京高等工芸学校本館（現千葉大学）所蔵国立国会図書館



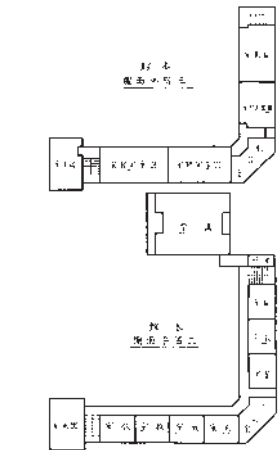
④旧講堂と生徒控室（昭和48年頃撮影）



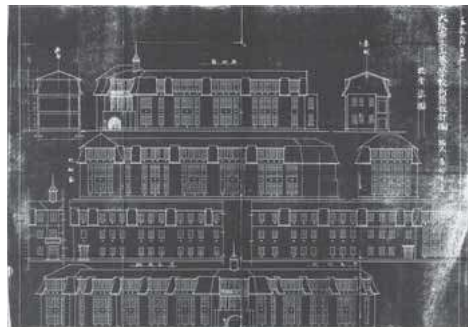
⑤ヴァイマル国立バウハウス（旧ザクセン大公立工芸学校）平成14年撮影



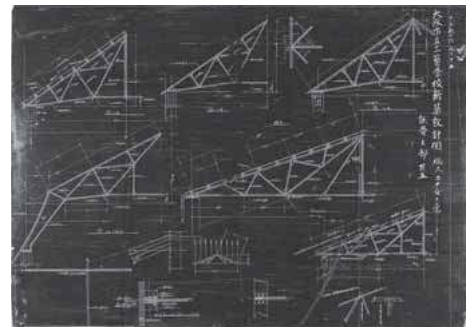
⑥ヴァイマル国立バウハウス（旧ザクセン大公立造形美術大学）平成14年撮影



⑦大阪市立工芸学校一覧表掲載配置図・平面図（昭和3年6月1日現在）



⑧大阪市立工芸学校新築設計図（大正12年頃・青図）



⑨大阪市立工芸学校新築設計図鉄骨之部其の一（大正12年頃・青図）



⑩中庭現状



⑪中庭からの入口現状



⑫玄関廻り現状



⑬東側のマンサード風寄棟屋根現状



⑭耐震壁（平成7年保存改修）



⑮煉瓦で仕上げられた壁体（平成7年保存改修）



⑯地中梁（平成7年保存改修）



⑰3階小屋トラス（平成7年保存改修）



⑱工芸圖案科の実習状況『藝草4号』昭和7年

書」で初めて見出しされ、「アールヌーヴォー様式」と評価された。本館および校舎の設計者は、当時の大阪市営繕課とされ、若手ではないかとの指摘があった。調査委員の一人であった林野全孝は、後に別の紙面で設計者を若手の矢木英夫が担当したのではと伝えており、それを受けて柴田正巳がご遺族などの聞き取りから矢木と結論づけた。矢木は、京都高等工芸学校図案科（明治35年創立）で武田五一、本野精吾らに薫陶を受け、同9年3月卒業と同時に関西建築界の大御所片岡安の推薦で大阪市に市庁舎詰として入り昭和6年まで勤める。市役所退官後は矢木英夫建築設計事務所を開設、晩年大阪市立工芸学校建築科（昭和19年設置）初代科長に就き、後進の指導に当たる。矢木は、明治28年4月誕生し昭和20年11月に没する。（略歴はご遺族による）。

大正12年現在、大阪市営繕課は、課長花岡才五郎、設営係技師井上謙吉、大野直平、正司恵一以下技手23人の総勢27人という大組織であった。

なお、設計者として市立大阪工業学校（明治40年5月創立）の建築科教員が関わった可能性や、大阪市立工芸学校の教員が何らかの影響を与えていたのではないかとといった情報が伝えられており、現段階では設計者を大阪市営繕課としておきたい。また、施工者は一部の報告書などでは株式会社松村組とあるが、同社の『松村組100年史』（平成8年）の建築作品リストには記載されておらず今のところ不詳としておく。

■大阪市立工芸学校本館の建築的モデル

大阪市立工芸学校本館の建築的モデルを特定するために兄貴分にあたる東京高等工芸学校本館、さらに両校のモデルとなった可能性のあるヴァイマルの工芸学校を加えて比較を試みる。

第一に、外観を強く印象づける玄関の扱いは、東京高等工芸学校本館はヴァイマルの工芸学校の角切りをした凹部分と異なり、広く角切りをした凸部分に半円アーチのポーチコを採用して立派に見せている。大阪市立工芸学校本館も凸部分は東京と同じ扱いである。

第二に、屋根部分の扱いについては、ヴァイマルの工芸学校はマンサード風腰折れ屋根が直線的である。東京高等工芸学校本館は、写真で見ると一般の切妻と寄棟屋根を採用している。大阪市立工芸学校本館は緩い反りをもつマンサード風腰折れ屋根で、ヴァイマルの工芸学校に近く、屋根の扱いにおいて東京より魅力的である。

第三に、規模では、大阪市立工芸学校本館

は3階建て、東京高等工芸学校本館は2階建て、ヴァイマルの工芸学校は2階建てである。大阪が3階建てになったのは、実用的な要求があったのかもしれない。

第四に、構造では大阪市立工芸学校本館は関東大震災の教訓を活かした鉄筋コンクリート造、小屋組鉄製トラス、壁体・外壁仕上げ煉瓦積み、東京高等工芸学校本館は木造、ヴァイマルの工芸学校はおそらく石造などの相違点がある。

結論として、東京高等工芸学校本館はヴァイマルの工芸学校のL字形を採用し、大阪は東京をモデルにして、ヴァイマルの工芸学校の屋根を強調した構図と考えられる。東京高等工芸学校の設計者は文部省営繕課で、当時の学校建築では本館の設計の多くは細長い矩形の平面で左右対称がほとんどであるから、そこにL字形の平面で左右非対称を採用したことは画期的なことであった。

大阪市立工芸学校本館の南側に近接する講堂兼生徒控え室（大正14年5月15日竣工・昭和62年解体）も本館のスタイルを受け継ぎ、妻面の大半円アーチの飾りと小規模な腰折れ屋根を印象づけている。

本館が「アールヌーヴォー様式」とされていることについては検討の余地がある。ヴァイマル工芸学校の設計者がベルギー人のヴァン・デ・ヴェルデであることが理由である。ヴェルデは「ユージェントシュティール派」あるいは「ヴェルデ派」とも呼ばれているので、19世紀末ドイツの「ユージェントシュティールの様式」ともとれる。あるいは建築全体の形態に関わる点から捉えれば「表現派」との見方も可能であり、議論の分かれるところである。本館の壁体・外壁仕上げがなぜ煉瓦積みかとも考えると興味が尽きない。

■永久保存と保存活用に至るまで

大阪市教育委員会は、昭和55年から社会の変化や市民のニーズに応えるために高等学校の特色化に取り組んでいた。その試みの一つとして、平成4年3月大阪市会文教経済委員会で大阪市立工芸高等学校本館の煉瓦校舎に着目し、このことが保存への第一歩であった。当時の学校長・西澤爽先生より大阪市教育委員会に働きかけた保存の要望は次のとおりである。

1) 学校の立場から、時代を超えて愛されるアールヌーヴォー様式を取り入れた建築物を活用することはデザインや造形を学ぶ生徒に生きた教材になるはずである。

2) 卒業生の立場から、自分達の感性を伸ばしてくれた愛着のある学校が保存されること

は実に喜ばしいことである。

3) 阿倍野区民の立場から、古くて美しい学校建築が残ることは阿倍野区の宝である。区民に開かれた学校、地域に開かれた学校として活用されることを期待している。また、これに先立って日本建築学会近畿支部近代建築部会は、学校長を通して大阪市教育委員会に保存要望を求めている。

大阪市教育委員会による2年間の調査の結果、同6年2月22日6億円余りの予算がつけられ永久保存が決定した。同6年7月16日大阪工芸会（大阪市立工芸高等学校同窓会）と関西工芸会（大阪市立第二工芸高等学校同窓会）主催の市民に向けた「本館の永久保存に向けてのシンポジウム」が阿倍野区民ホールで盛大に開催された。

本館保存のための保存改修工事は、設計監理を財団法人大阪市建築技術協会が、施工を山田・森田経常建設共同企業体が請け負った。同7年春から始まり同8年3月末に予算の関係で一端完了した。保存改修工事の内容は、構造上問題となった地中梁と耐震壁の補強を中心に行われるとともに、少しでも創立当初の勇姿を取り戻すために、シンボルである時計塔、正面玄関の扉、腰折れ屋根の瓦の改修、煉瓦やモルタル仕上げなどが補修され、内部は、学校建築として使用されるように改装された。同10月17日本館保存工事竣工を祝って在校生向けに記念式典が行われ、木材工芸科を昭和3年に卒業した淀井敏夫が記念講演を行った。同11年8月、大屋根のスパニッシュ瓦から原形に近い深緑色のセメント製スレート瓦に葺き替えられ、保存改修工事は完了した。

同12年大阪市立工芸学校本館は大阪指定有形文化財建造物に指定され、さらに同20年経済産業省近代化産業遺産技術者教育部門で認定、名実ともに大阪の教育環境の歴史的建造物となり、文化庁が同6年頃から薦める「使って活かす」文化遺産となった。

参考文献

- ・林野全孝「カバーストーリー大阪市立工芸高等学校本館」『月刊大建協7412』（社）大阪建設業協会 昭和49年4月
- ・柴田正巳「カバーストーリー大阪市立工芸高等学校本館」『月刊大建協8804』（社）大阪建設業協会 昭和63年4月
- ・山野英嗣「工芸学校の創設」『時代・社会・デザイン』大阪市立工芸高等学校 平成5年10月
- ・東京高等工芸学校一覧 大正12年～15年度
- ・宮本雅明『日本の大学キャンパス成立史』（平成元年4月）
- ・（社）日本建築協会『日本建築協会 80年史』平成11年3月31日 など

（わだ やすよし/大阪市立都島第二工業高等学校教諭）

安価で便利な測定器を使おう

— 1 —

100円ショップの
デジタル温度計

橋本直樹

日建設計

測定器が身近になった

建築に携わっていると様々な場面でお世話になる測定器が、デジタル化の進歩に伴い劇的に安くなっている。かつては、せいぜいメジャーを個人で持つ程度で、デジタル温度計や風速計、騒音計、照度計などは会社で購入し管理していたものだが、今や、そこそこの精度のものが小遣いで買えるレベルまで安くなってきている。

このコラムでは、安くて手軽になった測定器についてご紹介する。

メジャーと同じように測定器を持とう

建築の勉強を始めたころ、先生から「いつもメジャーを持ち、寸法を測る習慣を身に付けて、空間把握力を高めなさい」と教わったものだ。

寸法だけでなく、温湿度や風速、騒音、照度なども測る習慣をつければ、体感として身に付き、許容範囲を想像できるようになり、設計や施工に役立つことだろう。

また、現地でたとえば「吹き出し口からの風が不快」という苦情があった場合、体感で「まあ、こんなもんですよ」と言うのと、鞆からさっと風速計を取り出してその場で測定し、「設計条件を満たしています」と言うのとでは説得力に雲泥の差がある。

このように、自分専用の測定器を常備する

ことの効果は計り知れない。これが小遣いで買えるとなれば、見過ごす手は無いと思う。

コストパフォーマンスが2000倍に向上

デジタルの進歩を、パソコンを例に考えてみよう。

私が学生時代、アルバイトに精を出し、1985年ごろに初めて購入したパソコンは、モニターと合わせて50万円ほどしていた。それが今や、パソコンは10万円でかなり高性能なものが手に入る。

性能面では、かつて購入したパソコンのCPUが10MHzだったのに対して、今は2GHz程度であり、クロック数だけでも200倍になっている。この他、シングルコアからデュアルコアになり、16bitから64bitになったことも考えると、性能は合計400倍にはなっているだろう。コストが1/5になり、性能は400倍、総合するとコストパフォーマンスは2000倍に向上している。

一方、ハードディスクはかつて1MBあたり1万円と言われていたが、最近では1万円出せば2TB（＝2000MB）のものが手に入る。こちらもコストパフォーマンスは2000倍である。

つまり、パソコンが2000倍手に入りやすくなったぶん、扱う情報量も2000倍になっている。道理で、パソコンの性能が良くなっても仕事が楽にならないわけだ。

話を測定器に戻すと、かつてアナログの時代には、センサーからの出力が測定値と正比例では無いため、測定値を見やすく正確に表示するためには機器一品ごとのチューニングや校正が必要となり、価格が高くなっていたのだと想像する。

電圧や抵抗値などの出力をプログラムで加工して、数字で表示するのはデジタル技術の得意分野である。大量生産や大幅なコストダウンが可能になり、売れる数が少ないのでパソコンほど劇的ではないにせよ、100倍レベルでのコストパフォーマンス向上が可能になった。かつて数十万円した測定器は数千円、数万円したものは数百円で手に入るようになったのである。

100円ショップで買えるデジタル温度計

前置きが長くなったが、具体的に安価な測定器を紹介していく。まずは、100円ショップで見つけたデジタル温度計である。

この温度計、消費税込みで105円だが、そこそこの正確で、校正した温度計と比較してみたが、表示する値にほとんど違いがない。



かつてアナログ時代、湿度計を物色していた、同じショーケースに入っているのに、それぞれの湿度計がばらばらの値を示しているのを見て、唖然とした記憶がある。試しにこの温度計をたくさん買ってきて同じ場所に置いてみたところ、全てほぼ同じ値を示していたので、機器によるばらつきも小さいようだ。電池は1年以上もち、工具なしでカバーを外して簡単に取り換えられる。

正確な精度や反応速度を要求される本格的な測定には利用できないし、そもそもそんな用途で作られたものではない。反応速度が遅いので、移動しながらの測定にも不向きだろう。しかし、そこそこの正確、見やすい、何より安価ということから、使い方はいろいろ考えられる。

たとえば、これを家庭や会社など、生活の上での所要所に置き、温度感覚を身に付けるのに利用してはどうだろう。

また、オフィスにたくさん置いて省エネルギーの目安にすれば、最も安価なBEMSが構築できそうだ。

安いので、消しゴムやボールペンと同じように買い置きしておくことだって可能で、他にもこれまでの高価な測定器では考えられなかった使い途があるはずだ。

(はしもと なおき)

●橋本直樹

1963年、兵庫県宝塚市生まれ。1986年、北海道大学工学部卒業（建築学科）。1988年、北海道大学大学院修了（建築工学）。1988年株式会社日建設計（設備部）に入社。現在 設備設計部（大阪）主管

続 「仏国寺の石造階段」

山田 修

韓国古文化研究会主宰

K出版（'87年）『韓国古寺巡礼』では、仏国寺の正面階段が1頁大カラー写真として掲載されている（図1）。「仏国寺青雲橋白雲橋、統一新羅時代、8世紀頃、国宝23号」と付記する。どちらの橋が上か下かの区別はない。が、説明文の中に「この双塔式伽藍の東城へ通ずる中門である紫霞門へのぼる石造階段が青雲橋と白雲橋である。仏教真理をあらわしたものとわれ、下側の青雲橋は世俗の人間世界と現実の倫理の位置を意味しており、上にある白雲橋は仏の世界に入る十善の修行法の段階をあらわしている」と記していた。もちろん、段数の明記はない。しかし大きな写真ゆえ、下段の段数はハッキリ18と数えられた。（読者のみなさんも数えてごらん）

それが他の本では「下段は16」と明記している。国宝遺物の説明が、なぜこんなに食い違うのか不思議に思った。「たった2段の違いやないか（全体では1段の違い）」という声も耳にしたが…。



図1 仏国寺の正面階段 K出版『韓国古寺巡礼』より

16を下段の数とし、仏教の33の数を重視する余りに上段を数えず、17とはじき出した、と思う。16（下）+17（上）=33段である。が、わたしは18（下）+16（上）=34段とした。

橋名のつけ方—日本と韓国の違い—

ところで、明治時代の韓国の石造遺物については、天沼俊一氏が中心になって統一新羅時代のモノを取り上げておられた。わたしの手元には、新羅時代の作品集『石燈籠（全四巻）：思文閣』の復刻版（定価48,000円）がある。神戸のG古書店で見つけたもので、大枚を投げ打って買ったと思う。

一方、関野貞著『朝鮮の建築と芸術』によれば「白雲橋（下）青雲橋（上）」が正しい（図2）。昔の人は、白雲の上に青空が広がる



図2 仏国寺古図 岩波書店『朝鮮の建築と芸術』より
姿を思い浮かべながら、橋を命名したのだろう。わたしは自然の空の風景を眺めながら、どちらを上段・下段にしても、「おかしくはないなあ」と考えるようになっていた。日本人から見た橋名と、韓国人から見た橋名のつけ方に、異論が生じたにすぎない、と思う。

韓国人は、伝統を重んじる風習が強い。中国文化の影響を素直に受け入れ、中国側からは「東方儀礼の国」と称されていた。韓国の歴史は、「私たち韓国人で考えて作り出した」という強い意志のあらわれが、橋名に出てきたのだろう。

たかが橋名と言うなかれ。図1の説明のように「青雲橋白雲橋」と並記すれば、読者側の判断で、上・下どちらかに取っても可である。著者もその辺の事情を知っていて並記したのかもしれない。図2の仏国寺古図を見れば、明らかに下が白雲橋である。韓国の建築士にもお聞きしたが、その判断はむずかしくて、「しにくい」と言われた。

わたしの韓国古刹めぐり

わたしは36年間韓国古文化研究会を主宰し、「韓国の古刹めぐり」を行ってきた。慶州は、わたしの心の故郷で、仏国寺には十数回参詣している。

しかし、いまから10年前に韓国東海岸の高速道路で大がかりな交通事故に巻き込まれ、

わたしたちの乗った観光バスが大破してガソリンを流失する。幸い、バスの炎上は免れたものの、軽傷者が出た。

わたしは旅行の責任者として事故処理に振り回され、韓国古文化研究会を解散した次第（死ぬまでやってほしいという会員の要望はあったが…）。

荒廃した仏国寺の姿を 目の当たりにして

ところで図3を見ると、荒廃した仏国寺の下段の橋は側壁がなく、吹き抜けである。ゆえに階段石の暴れようは、上段に比べて下段は異常に激しい。改修するに当たって、上段と同じように柱・梁を入れた階段擁壁に替えられた、と思う。上段の石垣も改修後に柱・梁を入れた凹凸状のデザインに修理された。この石垣の新しさを疑問に思っていた謎が『朝鮮の建築と芸術』の本を改めて見直し、氷解した次第。



図3 修理前の仏国寺（明治初期）
岩波書店『朝鮮の建築と芸術』より



図4 荒廃した仏国寺の全景（明治初期）
国書刊行会『目でみる昔日の朝鮮』より

図4は、偶然に私宅の本棚より発見した。紫霞門を中心に右側に多宝塔、左側に釈迦塔が望める仏国寺の貧しい姿である。感無量なわびしい光景に接し、わたしの心は沈んでいた。（やまだ おさむ）

●山田 修

韓国ブームの原点を築く？

初訪韓は1966年。神戸港初の中古韓国貨客船アリラン丸に乗り、瀬戸内海・朝鮮海峡で二泊、途中小倉港で昼間休憩、三日目に釜山へ上陸する。船で6日、現地で10日、半月に及ぶたいそうな旅だった。韓国古寺探訪の本は3冊出版。各種雑誌への掲載やNHKにも出演。阪神間の公民館で10年間スライドを使い「韓国の古刹めぐり」の講演会を続けてきた。

※第1稿は、本誌2011年9月号p33に掲載。

資源を未来へ

Resources for the future.

オフィスの床からエコに貢献
次代のリサイクルタイルカーペット

「ECOS」シリーズ

持続可能な社会構築の必要性が叫ばれ、その定着に向けて政府・産業・消費者がそれぞれの立場で持続可能な社会を目指した活動を展開することが求められている。とりわけ産業・企業活動を行う我々には、環境配慮型経営を推進、環境配慮製品の開発・普及が求められている。

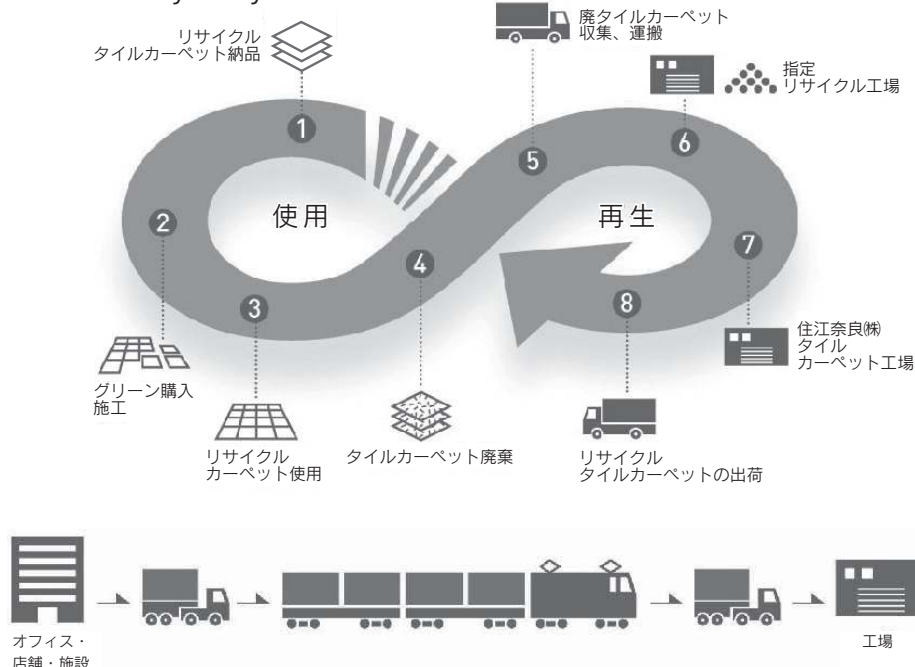
■廃棄物は生まれる

タイルカーペット to タイルカーペット
社会活動に伴って、すべての場面で廃棄物が生まれることは事実である。その廃棄物をどう扱うのか？ 私たち住江織物グループは、大量の使用済みタイルカーペットを廃棄物として埋め立てるのではなく、もう一度タイルカーペットに生まれ変わらせる。そのためにリサイクルに最適な製造ラインを新設し、次代のエコ商品をご提供する。それが、新たなリサイクルタイルカーペット「ECOS」シリーズである。

■再生材を最大限活用する

世界最高水準 最大77%
現在、リサイクルタイルカーペットは、製品全体重量に占める再生材料比率がエコマーク基準である25%以上のものが流通している。これに対し、「ECOS」シリーズは再生材比率最大77%と世界最高水準の再生材比率を達成した。再生材を最大限活用することにより資源の循環と廃棄物問題への貢献に一步踏み出している。

ECOS Recycle System



■リサイクルは環境負荷を低減しているか？

CO₂削減率 最大42%減

タイルカーペットのライフサイクルにおける各段階でのCO₂排出比率は原材料79%、製造15%、輸送・使用4%、廃棄2%となり、原材料段階がもっともCO₂排出率の高いことがわかる。「ECOS」シリーズは、原材料にあたる塩ビ部分にリサイクル材を高い比率で活用することにより20%以上のCO₂削減率を達成した。特にパイル素材をナイロンからペットボトル再生ポリエステル「スミトロン」に変えることにより、ナイロン品と比較して最大42%と大幅なCO₂削減率を達成した。(LCAは、みずほ情報総研株式会社にて実施)

■廃タイルカーペット回収システム

廃タイルカーペットの回収と再生へ

株式会社スミノエは、日本通運株式会社・JR日本貨物鉄道株式会社の物流網を活用した廃タイルカーペットの回収システムを構築し、2012年春の広域認定制度取得を予定している。

■最後に

「低炭素社会」、「循環型社会」の実現に向けて、次代のリサイクルタイルカーペット「ECOS」シリーズをバージン品と変わらぬコストパフォーマンスで「普及させる」私たち住江織物グループの新たな挑戦を、広く社会にご理解いただき、実現に邁進していきたい。

■製造：住江織物株式会社

〒542-8504

大阪市中央区南船場3-11-20

■販売：株式会社 スミノエ

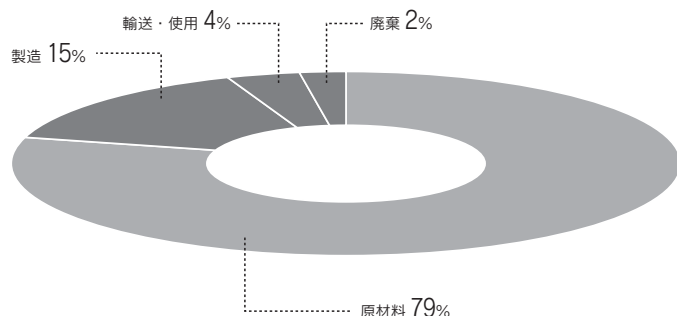
〒550-0013 大阪市西区新町2-4-2

なにわ筋SIAビル6F

TEL. 06-6537-6301

<http://suminoe.jp/interior>

タイルカーペットのライフサイクル各段階でのCO₂排出比率



▶「建築士定期講習」の 受講・修了の啓発

この講習は、改正建築士法の平成20年11月28日の施行により、建築士の資質・能力の確保と向上を図るため、建築士事務所に所属する全ての建築士に3年に1回指定の講習を受講・修了を義務付けたために開催されるもので、初回の受講期限が平成24年3月31日である。未だ受講されていない場合は、早期に以下のいずれかの機関で受講してください。

【登録講習機関】

- ・(財)建築技術教育普及センター
- ・(株)日建学院／特定非営利活動法人
建築家教育推進機構
- ・特定非営利活動法人 住宅福祉サービス
- ・(株)総合資格学院法定講習センター
- ・ビューロベリタスジャパン(株)
- ・特定非営利活動法人 東京土建ATEC
- ・特定非営利活動法人
埼玉土建建築支援センター
- ・(株)ERIアカデミー
- ・(株)確認サービス

お問合せ先：TEL.06-9210-9727

大阪府住宅まちづくり部

建築指導室 建築安全課 建築士法担当

▶マンション管理評価読本 ～価値を上げる管理の常識

マンションは管理を買えといわれているが流通ではいまだに管理の情報がほとんど示されていない。そこで既存のマンションの管理の善し悪しを「見える化」し、公表する仕組みをつくり、評価の公開を進めている。その仕組みを解説するとともに、そこから見えてきた管理運営のポイント、流通上の課題と解決策を示す。



著名：京都マンション管理評価機構理事長
谷口 浩司 編著
A5判・240頁・定価2730円
発行所：株学芸出版社

①特別展「草原の王朝 契丹」

本展は、貴人を飾った宝飾品の数々、仏塔に納められた極彩色の品々、長くユーラシアの一角に埋もれていた清らかで典雅な文化芸術など美しき契丹文化の世界を、陳国公主墓・トルキ山古墓・慶州釈迦仏舍利塔（白塔）などの出土品からひもとく。世界初公開品多数あり。

期 間 4月10日(火)～6月10日(日)

9：30～17：00

休館日 月曜日

4/30開館

会 場 大阪市立美術館

大阪市天王寺区茶臼山町1-82

TEL.06-4301-7285（なにわコール）

観覧料 大人1,300円

高大生1,100円



ほうおうもんかんむり
鳳凰文冠
通遼市
ナイマン旗
陳国公主墓出土
銀、鍍金 開泰
7年(1018) 内
蒙古文物考古研
究所

②誕生100年ジャクソン・ポロック展

ポロックの誕生100年を記念して開催する日本初の回顧展。絵画を中心に、約70点の出品を予定しており、初期から晩期に至るまでのポロックの仕事の全貌を紹介。

期 間 2月10日(金)～5月6日(日)

10：00～17：00

金曜は20時まで

休館日 月曜日

3/19 3/26 4/2 4/30開館

会 場 東京国立近代美術館

東京都千代田区北の丸公園3-1

TEL.03-5777-8600（ハローダイヤル）

観覧料 一般1,500円

大学生1,200円

高校生800円

③特集展示

刀装 根付 細密工芸の華

平成23年は、刀装具や根付といった細密工芸に関する初の本格的な手引書「装剣奇賞」が天明元年（1781）に大坂で出版されてから230年目の節目の年。本展では、江戸時代の細密工芸作品を求め、研究する人たちの道しるべとして大坂で成立した同書に着目し、同書に名を掲載された作家の手になる刀装具、根付、絵画など約110点を展示。

期 間 **2月15日(水)～4月2日(月)**
9:30～17:00 金曜は20時まで
入館は閉館30分前まで
休館日 火曜日
3/20開館 翌日休館
会 場 大阪歴史博物館
大阪市中央区大手前4-1-32
TEL.06-6946-5728
観覧料 大人600円
高大生400円



麒麟図目貫 勢州光貞作 藤堂家伝来
江戸時代中期 個人蔵

④すべての僕が沸騰する 一村山知義の宇宙

本展は、一村山知義のはじめての回顧展として、現存作品と参考資料、および一村山が活動した時代背景を伝える国内外の作品を一堂に会するほか、雑誌『コドモノクニ』の童話に添えた挿絵、さらには日本最初期の試みに数えられるアニメーション映画『三匹の小熊さん』なども紹介。

期 間 **4月7日(土)～5月13日(日)**
9:30～17:00 金曜は20時まで
入館は閉館の30分前まで
会 場 京都国立近代美術館
京都市左京区岡崎勝寺町
TEL.075-761-4111
観覧料 一般850円
大学生450円

⑤特別展覧会

王朝文化の華 陽明文庫名宝展

五摂家の一つである近衛家に伝えられた典籍・古文書などを収めている陽明文庫の名品を一堂に展示。国宝8件・重文60件を一挙公開する。これまでにない規模の特別展覧会。

期 間 **4月17日(火)～5月27日(日)**
9:30～18:00 金曜20:00まで
入館は閉館30分前まで
休館日 月曜日 4/30開館
会 場 京都国立博物館
京都市東山区茶屋町527
観覧料 一般1,300円 高大生900円



四季花鳥図屏風 酒井抱一筆 右隻 陽明文庫蔵

⑥特別展「新説・恐竜の成長」

本展は、門外不出と言われていたロッキー博物館所蔵の「世界最大のティラノサウルス・レックスの実物頭骨化石」などを日本初公開。

期 間 **3月10日(土)～6月3日(日)**
9:30～17:00
入館は16:30まで
休館日 毎週月曜日 4/30は開館
会 場 大阪市立自然史博物館
ネイチャーホール（長居公園内）
大阪市東住吉区長居公園1-23
TEL.06-6697-6221
観覧料 大人1,200円
高大生700円



画像提供：福井県立恐竜博物館／画：山本匠

⑦安野光雅が描く 洛中洛外展

本展は、産経新聞で連載中の「安野光雅が描く洛中洛外」の作品15点を中心に「日本のふるさと奈良」「明日香村」といった日本の風景画、「繪本 歌の旅」「野の花と小人たち」や初公開となる「絵のある自伝」などから厳選した約120点を展示。

期 間 **3月3日(土)～3月19日(月)**
10:00～20:00
19日(月)は17:00まで
入場は閉場30分前まで
会 場 京都高島屋 7階グラウンドホール
京都市下京区四条通河原町西入真町52
TEL.075-221-8811
観覧料 一般800円 高大生600円



《洛中洛外》嵐山 法輪寺

⑧茶会への招待 三井家の茶道具

三井記念美術館には、三井各家で使われていた茶道具類が多数所蔵。この度の展覧会ではその一部を取り合わせて紹介。それ以外に三井各家に伝わった茶の湯の名品も展示。

併設「新町三井家の新寄贈品から」
期 間 **2月8日(水)～4月8日(日)**
10:00～17:00
休館日 月曜日
会 場 三井記念美術館
東京都中央区日本橋室町2-1-1
TEL.03-5777-8600 (ハローダイヤル)
観覧料 一般1,000円 大高500円



御所丸茶碗
朝鮮時代
三井記念美術館蔵

本欄掲載の①～⑧の招待券ご希望の方は、電話等で申込みをした後、招待券送付用の切手（80円）を日本建築協会事務局までお送りください。

日本建築協会 10 年委員会 活動記録

発 足

2007年、日本建築協会が創立90周年を迎えたのを機に、来る2017年の100周年に向け、協会の理念である「建築を通じて社会に貢献する」活動を10 年間継続して行う目的で発足したのが10年委員会です。

2008

2009

2010

大阪ええとこ創生プロジェクト

東横堀川ライトアップ
デザインコンペ協力



●2009年コンクールポスター

大阪府立大学の橋爪紳也先生に審査員長をお願いして、2009年、2010年の2 ヶ年にわたり大阪かくれたええとこ再発見コンクールを主催し、市内17カ所の“ええとこ”を選び出しました。



●2010年コンクールポスター



●2010年審査風景



●2010年授賞式

その選ばれた“ええとこ”をマップに落として、2010年10月号の建築と社会誌に同封して会員に配布すると共に、同年10月には、“ええとこ”を会員有志と巡るツアーを開催しました。

学生のための現場見学会

2008年11月に土佐堀ダイビルの工事現場見学会を第1 回見学会として開催しました



●2008/11/21
土佐堀ダイビル

その後、原則毎年2 回（夏と秋）のペースで、工事現場だけでなく、工場見学も交えて継続中で、既に行開催回数は6 回を数えています。



●2009/7/3
エルセラーン化粧品



●2009/12/5
大村家具工業

ー10年委員会も活動6年目を迎え、本年6月からアイデアコンペが始まりますー

2つの柱

○ 大阪ええとこ創生プロジェクト（大阪「かくれたええとこ再発見」コンクール）

- ・大阪の街中にある「普段見過ごしそうだけれど潜在的魅力を持つ場所」を読者から募って再発見するプロジェクトです。
- ・発見された場所を選んで、魅力創出のためのアイデアコンペに移行することを視野に入れた活動を展開しています。

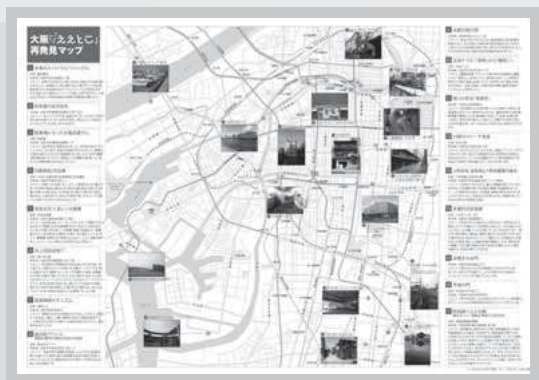
○ 学生のための現場見学会

- ・関西で建築を学ぶ学生に進行中の工事現場を紹介し、実際に見学の機会を提供するプロジェクトです。
- ・建設業、設計事務所、材料メーカー等と会員の間口の広い当協会の特徴を活かし、会員企業の協力を得て、“ものづくりの現場”に直接触れるチャンスの少ない学生を対象に、その機会を提供するものです。

2011

2012

昨年3月の震災が日本列島を揺さぶり、委員の間で「単に“ええとこ”だけではなく、震災を経て、より強く公共貢献の意識を持つべきではないか」との問題意識が芽生えるに至りました。



●大阪「かくれたええとこ再発見」マップ

次のアイデアコンペへの移行について橋爪先生と意見交換を始め、先生から「協会は設立当初、住宅から都市計画に至るまで幅広いコンペを次々と主催し関西の建築界に大きな役割を果たした歴史がある。その歴史をもう一度振り返り、次の展開に活かしたい」とのアドバイスを受けました

方向を模索している中、政治学の分野で、筑波大学の岩崎美紀子先生が提唱する「新しい公共」の概念にめぐり合い、2011年12月委員有志で岩崎先生にインタビューを行いました。

岩崎先生からは、「まちの中の居場所が大切、まちの中のリビングルームをつくるという考え方に立てばいいと思う」というアドバイスをいただきました。



●ええとこツアー 桃ヶ池公園



●宝泉寺と六軒長屋間の路地



●駐車場になった
お風呂屋さん

今後はお二人の先生のアドバイスを念頭に、アイデアコンペに進むべく募集要項の立案を開始します。(6月ごろ発表の予定)

その都度、参加した学生やその指導教官から、大変役に立った、今後も続けていただきたいとの好評を得ています。



●2010/7/9
阿倍野市街地再開発



●2011/7/8
東り伊丹工場



●2011/10/5
武庫川女子大栄養科学館

今後でもできるだけ幅広い建物用途の現場が見学できるよう、また工事現場に限らず、広い意味でのものづくり現場に触れる機会を提供できるよう、活動を継続する予定です。

理事会

第8回常任理事会

1月30日（月）16：00～17：30

出席者 中井会長ほか7名

- 議 事（1）平成23年度収支見込み
（2）平成24年度総会、理事会、常任理事会等の日程
（3）一般社団法人移行に係る本部・支部確定事項確認
（4）青年技術者に対してのアンケートについて
（5）①読者と選ぶ「建築と社会」賞に係る投票依頼について
②在阪建築4団体主催「アイデア募集」の応募依頼等

編集委員会

第10回編集委員会

1月11日（木）18：00～19：00

出席者 米井委員長ほか3名

- 議 事（1）2月号「今、私が思う『和』」の報告
（2）3月号「東海支部」…東海支部特集特別編集委員会による企画
（3）4月号「第18回会員作品“私の空間作法”」について
（4）分科会・小委員会からの報告
（5）その他
・読者と選ぶ「建築と社会」賞の選考委員の検討
・本年度青年技術者顕彰者に委員会参加を募る

第2回建築系分科会

1月13日（金）19：00～22：00

出席者 奥村委員ほか9名

議 事 2012年7月号特集企画案検討

第3回建築系分科会

1月27日（金）19：00～22：00

出席者 大西委員ほか4名

議 事 2012年7月号「建築と窓」特集企画案検討

第8回設備分科会

1月6日（金）18：00～20：20

出席者 赤澤幹事ほか4名

- 議 事（1）見学会の企画
（2）「設備の頁」の企画
（3）6月号「ZEB」特集の企画

第10回法令分科会

1月17日（火）15：00～17：00

出席者 近都幹事ほか6名

- 議 事（1）「法令コーナー」の企画
（2）情報交換

第10回作品作風小委員会

1月26日（木）19：00～21：10

出席者 池上副委員長ほか9名

- 議 事（1）作品の選定「高槻市立芥川小学校体育館・プール」ほか
（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（3）「gallery」掲載報告・予定
（4）その他—私の空間作法の応募状況が現在9名

第10回広告企画小委員会

1月11日（水）17：00～18：00

出席者 米井委員長ほか4名

- 議 事（1）2～4月号広告依頼先検討
（2）「素材特集」
（3）新シリーズ「新商品レビュー」
（4）5月号広告企画小委員会の特集企画

事業委員会

第6回情報見学小委員会

1月12日（木）18：00～18：45

出席者 瀬戸川委員長ほか11名

- 議 事（1）平成24年2月14日（火）開催「碧雲荘」茶室見学会の企画
（2）「東日本を襲った津波と大規模自然災害への備え」講演会
（3）来年度の見学案

教育委員会

第3回工高生教育小委員会

1月20日（金）18：00～20：00

出席者 神野副委員長ほか8名

- 議 事（1）第58回工高生デザインコンクール募集規定原案の検討
（2）今後の作業予定
（3）その他
・第58回コンクール審査委員長は、佐々木栄氏（昭和設計）に内諾を得た

出版委員会

第9回出版委員会

1月19日（木）18：00～19：00

出席者 上原委員長ほか7名

- 議 事（1）プロのノウハウと特装本の経過報告
（2）進行中のテーマ
・「知っておきたい躯体工事100ポイント（仮）」
・「建築施工図の作図方法とチェックポイント（仮）」

10年委員会

第9回10年委員会

1月12日（木）18：30～19：30

出席者 設楽委員長ほか4名

- 議 事 大阪「かくれたええところ」そうせい（創生）プロジェクト
「アイデアコンペ」実施に向けて

特別委員会

第4回史料研究会（再読 関西近代建築）

1月25日（水）18：30～20：30

出席者 山形委員長ほか4名

- 議 事（1）今後の連載企画内容検討
3月号 大阪市立工芸高校
4月号 京都高等工藝学校
5月号 宝塚ホテル
6月号 京都市美術館
7月号 綿業会館
（2）連載内容について

第31回 群 像（インタビュー）

1月16日（火）15：00～18：30

出席者 三谷勝章（インタビュアー）

- ほか7名
場 所 追手門学院大学1号館
議 事 関西の建築界「群像」登場者の人間像に迫るためのインタビュー
（株）三菱地所設計 上海事務所首席代表 須部恭浩 氏

第3回 群 像

1月23日（月）18：30～20：00

出席者 本多「関西の建築界／群像」編集委員会代表ほか5名

- 議 事 2012年4月号以降の群像登場者および2012年10月号までのインタビュー担当者を選出

空調・衛生・クリーンルーム設備
(設計・施工)



本社・本店 東京都港区浜松町1-25-7 電話03(3432)5711
大阪支社 大阪市淀川区加島1-58-59 電話06(6302)2270
支店 北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計 施工



本店・大阪本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号 電話(06)6441-8231
東京本社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号 電話(03)3261-8231
支店 名古屋・福岡
支店 札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・
広島・高松・熊本
営業所 帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・
福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所 旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店 シンガポール・ホノルル
技術研究所 〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地 電話(0492)58-1511



We have hope

■印刷事業 ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、
雑誌、文庫、画像データ処理
■メディア事業 SPプランニング・コンサルティング・ITソリューション、
web及びメディアコンテンツ企画制作



株式会社NPCコーポレーション
本社 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel: (06) 6351-7271 (代) fax: (06) 6352-7479
第二ビル 〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel: (06) 6351-0128 (代) fax: (06) 6351-0208
東京支社 〒105-0004 東京都港区浜松町1-2-1
一光浜松町ビル7F
tel: (03) 3433-5211 (代) fax: (03) 5776-7733
(旧社名ナニワ印刷株式会社、日本データネット株式会社)

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理
株式会社日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLビル2階
TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632
東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLビル
TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

コンクリートのひび割れ対策に

NETIS 登録済み
KT-040018-V

DENKA
DENKI KAGAKU KOGYO KABUSHIKI KAISHA

高性能膨張材

デニカパワーCSA

JIS A 6202
適合品

特 性

- ・乾燥収縮の低減
- ・自己収縮の低減
- ・水密性の向上(防水性)
- ・温度ひび割れの低減

主な用途例

- ・合成デッキスラブ
- ・土間スラブ
- ・RC 構造物
- ・自己充填コンクリート
- ・マスコンクリート 他

膨張材以外にも

- ・無収縮グラウト材
(タスコン)
 - ・躯体防水材
(シャガード)
 - ・ポリマーセメントモルタル
(RIS シリーズ)
- など、各種混和材(剤)を
ラインナップしています。

●資料のご請求お問い合わせは・・・

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社 本社
〒629-3101 京都府京丹後市網野町網野 126
TEL 0772-72-2220 FAX 0772-72-2888
舞鶴営業所・福知山営業所・豊岡営業所

金森藤平商事株式会社 大阪営業所
〒561-0817 大阪府豊中市浜1丁目1番7号
TEL 06-6332-6861 FAX 06-6332-6884

小浦産業株式会社
〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1丁目14番6号
TEL 06-6443-6181 FAX 06-6443-6270

平成23年度 1級建築士 設計製図試験

合格者の半数以上は当学院の受講生

当学院
教室開講都道府県
合格者占有率

No.1

当学院教室開講都道府県 合格者占有率

当学院教室開講都道府県合格者 4,369名中 2,259名

51.7%

他講習
利用者
+
独学者

当学院
受講生

※ 当学院教室開講都道府県合格者数は、(財)建築技術教育普及センター発表の受験番号より算出。
※ 総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

※ 当学院開講都道府県合格者占有率には、1級設計製図講座を開講していない青森県、岩手県、秋田県、鳥取県、島根県、愛媛県、高知県、佐賀県、長崎県、宮崎県、沖縄県の合格者は含んでおりません。
※ 上記エリアから隣県の当学院開講教室にて受講し合格された方は、合格実績に含んでおりません。
※ 左記、占有率および合格者数はすべて平成23年12月15日 18:00に判明したものです。

2級建築士
新試験
完全対応
宣言

平成23年度 2級建築士 試験	
学科試験	設計製図試験
当学院受講生 基準達成者合格率	当学院受講生 基準達成者合格率
97.1%	82.3%
9割出席・9割宿題提出・模擬試験60点以上 受講生615名中、合格者597名	9割出席・9割宿題提出・模擬試験のランク がAの基準達成者141名中、合格者116名

平成23年度 宅建試験
当学院受講生 基準達成者合格率
92.5%
当学院、合格バックアップシステムの基準である9割出席・ 9割宿題提出・公開統一模試得点率9割以上の 受講生40名中、合格者37名

平成23年度 1級建築施工管理技術検定	
学科試験	実地試験
当学院受講生 基準達成者合格率	当学院受講生 基準達成者合格率
88.8%	83.2%
9割出席・9割宿題提出受講生160名中、合格者142名	9割出席・9割宿題提出・模試基準達成受講生184名中、合格者153名

確かな実績に基づく
指導ノウハウで合格に導きます

無料

体験入学会
講座説明会

開講
講座

1級・2級
建築士

宅地建物取引主任者

1級・2級建築施工管理技士

インテリアコーディネーター

合格めざすあなたの最強パートナー ▼いますく! ウェブ検索 ▼

- 最新試験情報が満載!
- 合格応援グッズプレゼント中!
- 資料請求や受講申込も受付中!

総合資格

検索

www.shikaku.co.jp

全国に広がる合格ネットワーク

全国 70 拠点

受験対策書籍出版 —— お求めは全国有名書店および当学院ホームページにて

無料

平成24年度 1級建築士・2級建築士・宅建受験
願書取り寄せサービス実施中

下記最寄校まで
お気軽に



総合資格学院

すべては「合格」のために

梅田校 TEL.06-6374-1411

新大阪校 TEL.06-6101-1911

京橋校 TEL.06-6882-8211

高槻校 TEL.072-686-6711

なんば校 TEL.06-6648-5511

堺校 TEL.072-222-9311

神戸校 TEL.078-241-1711

姫路校 TEL.079-224-1411

京都校 TEL.075-352-3011

草津校 TEL.077-566-6911

奈良校 TEL.0742-30-1511

<http://www.shikaku.co.jp>